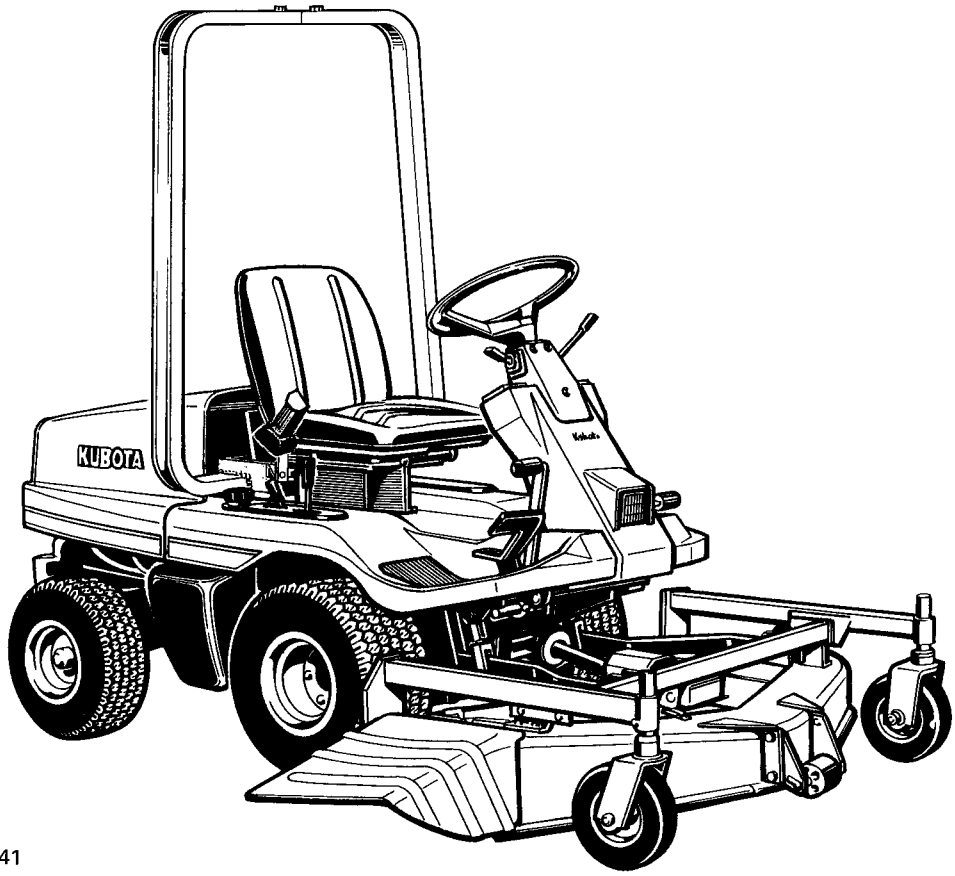
クボタフロントモーア

取扱説明書

GF1800



G-4041

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

注意マーク

ディーゼル軽油

燃料(残量)

積算時間計(アワメータ)

水温計

エンジン予熱

ブレーキ

駐車ブレーキ

バッテリ充電状態

エンジンオイル圧力

エンジン停止

エンジン運転

エンジン始動

予熱

PTO“切”

PTO“入”

ポジションコントロール“上げ”

ポジションコントロール“下げ”

チルトハンドル

ヘッドライト“切”

ヘッドライト“入”

高速

低速

取扱説明書参照

前進

後進

アクセルレバー

中立

4WD(フルタイム，任意)
ペダル操作でフルタイム，任意を選べます。

常時2WD

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

専門用語の説明

- 4WD ……四輪共に駆動する
- 2WD ……二輪(大きい方の車輪)のみ駆動する
- 自動走行速度固定 ……走行速度を一定に保つ(クルーズコントロール)
- min^{-1} (rpm) …… 1 分間の回転数
- PTO ……動力取出し(パワーテイクオフ)
- HST ……油圧変速装置(ハイドロスタティックトランスミッション)

フロントモーアを安全にしかも上手にご使用していただくために，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から保守点検まで順番に理解習得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．⚠安全作業をするために：

安全作業をするために必ず守るべき基本的注意事項，警告・注意ラベルの機械への貼付け位置と，守るべき警告・注意事項を解説していますので，熟読のうえ理解し，必ず守ってください。

動かす前に実施しましょう

2．確認と手続き：

⑴ご相談の際に必要な製品名称と機械番号の打刻位置を確認しておいてください。

⑵各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

3．運転前の点検：

作業中のトラブル防止のため，作業前の点検内容を理解し必ず実施してください。

最初にフロントモーアの安全運転のための基本操作を体得しましょう

4．フロントモーアの運転：

⑴正しいエンジンの始動と停止手順を体得してください。

⑵安全にフロントモーアを前進・後退・停車させる基本操作を体得してください。

フロントモーアの性能を最大に発揮させるため各装置の基本操作を体得しましょう

5．上手な装置の使いかた：

⑴タイヤの正しい取扱いと調整方法を体得してください。

⑵モーアの正しい着脱方法について体得してください。

よく働いた機械をいたわりましょう

6．メンテナンス：

機械を長持ちさせるために，シーズン前後・長期格納時のメンテナンス・日常点検・定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

目　次

⚠安全に作業するために … ⚠-1

サービスと保証について …… 1
ご相談窓口 …… 1

運転に必要な各部の名称 …… 2

運転前の点検 …… 3

エンジンの始動と停止 …… 4
始動のしかた …… 4
1. 駐車ブレーキをかけます。 …… 4
2. 速度コントロールペダル (HSTペダル)を"中立"にして PTOレバー，速度固定レバーを "切"の位置にします。 …… 4
3. キースイッチにキーを差し込み "入"位置にします。 …… 5
4. 油圧昇降レバーを"前方に倒し" 作業機を下げます。 …… 5
5. アクセルレバーを "中程"まで押します。 …… 6
6. キーを"予熱"位置に回します。 …… 6
7. キーを"始動"位置に回します。 …… 6
8. エンジンが始動したら, キーから手をはなしてください。 … 6
9. イージーチェッカランプが "消灯"したか確認します。 …… 6
10. エンジン回転を下げ，そのまま 5分程度暖機運転をしましょう。 … 6
停止のしかた …… 7
1. アクセルレバーを いっぱい手前へ"引いて" アイドリング状態にします。 …… 7
2. キースイッチのキーを "切"の位置にすると, エンジンは停止します。 …… 7
3. キーは必ず"抜き"ましょう。 …… 7
寒冷時の暖機運転 …… 7
低温時における ミッションオイルの暖機運転 …… 7
バッテリあがりの処置 …… 8

フロントモーアの運転 …… 9
ならし運転(最初の約50時間) …… 9
シート回りの調節 …… 9
シート …… 9
ステアリングハンドル …… 9
安全フレームと シートベルトについて …… 10
灯火類の操作 …… 10
ヘッドランプスイッチ …… 10
発進・走行 …… 10
1. ブレーキペダルの確認 …… 10
ブレーキペダル …… 10
2. 油圧昇降レバーを"後方に引き" 作業機を上げます。 …… 10
3. 作業に応じ必要なレバー類を 操作します。 …… 11
4WDクラッチロックペダル …… 11
4. エンジンを加速します。 …… 11
アクセルレバー …… 11
5. 駐車ブレーキを解除します。 …… 11
駐車ブレーキ …… 11
6. 速度コントロールペダル (HSTペダル)をゆっくり押して 発進します。 …… 12
速度コントロールペダル (HSTペダル) …… 12
駐車・停車 …… 12
1. アクセルレバーを手前に引いて、 エンジン回転をアイドリング状態 にします。 …… 12
2. ブレーキペダルを"踏込み"ます。 … 12
3. 完全に停止してから、PTOレバーを "切"にします。 …… 12
4. 作業機を取付けている場合は、油圧 昇降レバーをゆっくり"前方に倒し" 作業機を下げます。 …… 12

5. 駐車ブレーキを確実に“ロック”して
ください。 …… 12
6. キースイッチを“切”にして、
エンジンを停止します。 …… 12
運転中の作動確認 …… 13
次の場合には、直ちにエンジンを
止めてください。 …… 13
イージーチェッカ …… 13
水温計 …… 13
積算時間計(アワメータ) …… 14
旋回のしかた …… 14
坂道での運転 …… 14
道路走行中の注意(私道) …… 14
速度固定での運転 …… 15
速度固定走行のしかた …… 15
速度固定の解除のしかた …… 15
トラックへの積み・降ろし …… 15

油圧・モーアリンク・PTO …… 16
油圧 …… 16
油圧昇降レバー …… 16
モーアリンク …… 16
作業機(モーア)の着脱 …… 16
PTO …… 16
PTOレバー …… 16

タイヤ …… 17
タイヤの空気圧 …… 17

フロントモーアの簡単な手入れと処置 …… 18
日常点検箇所一覧表 …… 18
給油(水)一覧表 …… 18
定期点検箇所一覧表 …… 19
推奨オイル・グリース一覧表 …… 20
エンジンオイル・ミッションオイル … 20
グリース …… 20
ボンネットの開閉 …… 21
ボンネットの開閉 …… 21
日常点検 …… 21
1. 前日の異常箇所 …… 21
2. フロントモーアの回りを歩いて …… 21
エンジンオイルの量及び汚れ …… 22
ミッションオイルの量及び汚れ …… 22
冷却水の量 …… 23
エバキュエータバルブの清掃 …… 23
タイヤの空気圧、及び摩耗、損傷 … 24
防じん網の清掃 …… 24
3. シートに座って …… 25
ブレーキペダルの遊び・点検 …… 25
駐車ブレーキの作動点検 …… 25
4. エンジンを始動して …… 25
メータ・ランプ類の作動 …… 25
安全装置の点検方法 …… 26
5. 燃料の補給 …… 27
50時間ごとの点検・整備 …… 27
グリースの補給 …… 27
注油 …… 28
バッテリ電解液の点検 …… 29
エアクリーナエレメントの清掃 …… 30
100時間ごとの点検・整備 …… 31
エンジンオイルの交換 …… 31
燃料フィルタの点検・交換 …… 32
ラジエータコアの清掃 …… 32
ファンベルトの点検・調整 …… 32
ブレーキペダルの点検・調整 …… 33
200時間ごとの点検・整備 …… 33
エンジンオイルフィルタ
カートリッジの交換 …… 33
ミッションオイルの交換 …… 34
ミッションオイルフィルタ
カートリッジの交換 …… 34
ミッションストレーナの洗浄 …… 35
PTOギヤケースオイルの交換 …… 35
後車軸デフケースオイルの交換 …… 36
後車軸ケースオイルの交換 …… 36
ラジエータホースと締付けバンドの
点検・交換 …… 36
油圧ホースの点検・交換 …… 37
燃料パイプの点検・交換 …… 37

400時間ごとの点検・整備 …… 38
後部デフケース前後遊びの調整 …… 38
燃料フィルタの交換 …… 38
1年ごとの点検・整備 …… 38
エアクリーナエレメントの交換 …… 38
冷却水の交換 …… 38
ラジエータの洗浄 …… 39
2年ごとの点検・整備 …… 40
ラジエータホースの交換 …… 40
油圧ホースの交換 …… 40
燃料パイプの交換 …… 40
必要に応じた点検・整備 …… 40
燃料の空気抜きのしかた …… 40
ヒューズの交換 …… 40
ヒュージブルリンクの交換 …… 41
ランプ類の交換 …… 41

格納 …… 42
長期格納時の手入れ …… 42

不調と処置 …… 43
エンジンの不調と処置 …… 43
バッテリの不調と処置 …… 44
本機の不調と処置 …… 44

付表 …… 45
主要諸元 …… 45
標準付属品 …… 46
主な消耗部品一覧表 …… 46

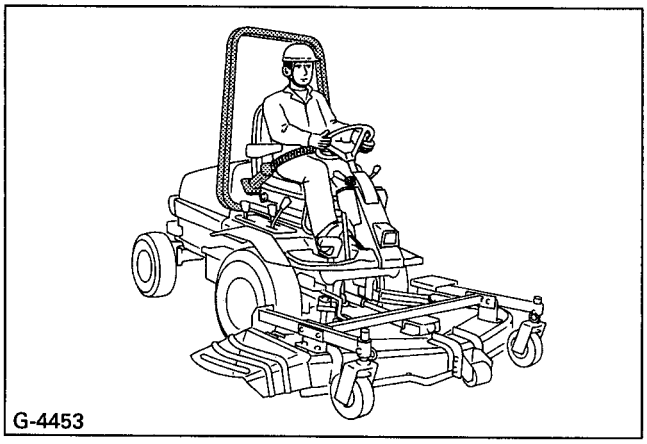
⚠ 安全に作業するために

必ず読んで
ください。

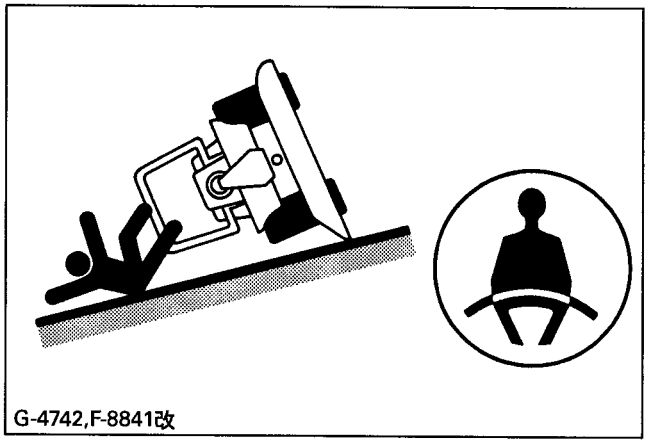
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．安全フレームについて

安全フレームは，万一フロントモーアが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

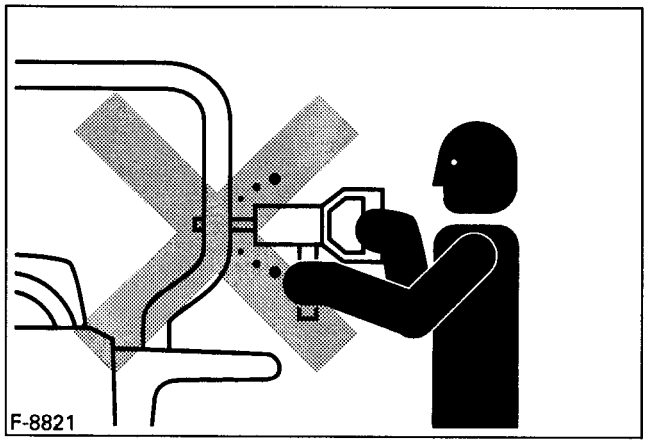

G-4453

(1)運転時は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。


G-4742,F-8841改

(2)安全フレームを取外して運転しないでください。

(3)安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

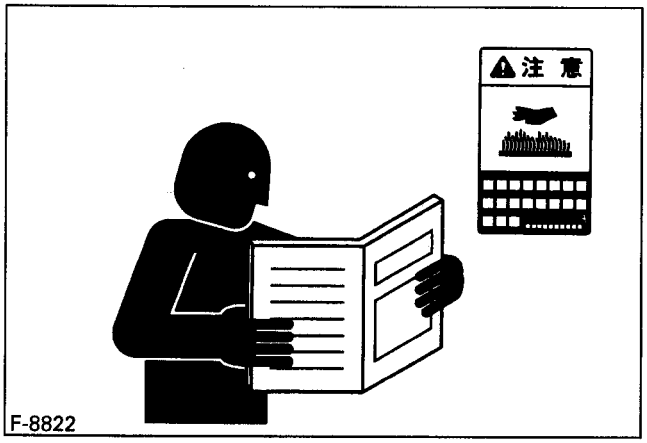

F-8821

2．運転前に

(1)フロントモーアを動かす前に，フロントモーア及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。

(2)フロントモーア，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。

(3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。

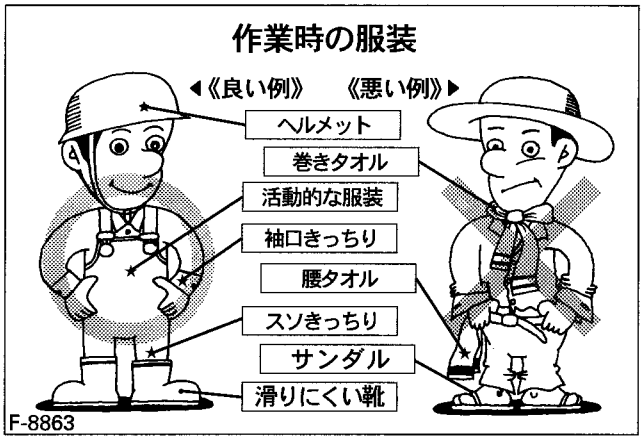


F-8822

⚠ 安全に作業するために

(4)飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，フロントモーアを運転しないでください。

(5)ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。



(6)フロントモーアを改造しないでください。改造すると，フロントモーアの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。

(7)安全カバー類を外した状態でフロントモーア，作業機を使用しないでください。
紛失したり損傷した部品は交換してください。
ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。(詳細は**“フロントモーアの簡単な手入れと処置”**の章参照)

(8)フロントモーアは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。
又，燃料パイプ・電気配線及びラジエータホースのクランプ緩みを定期的に点検整備してください。火災等の原因になります。

(9)クボタ推奨作業機以外は装着しないでください。

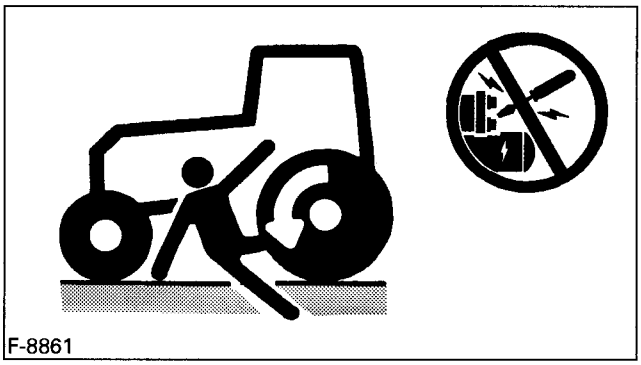
(10)集草バックを使用している場合，集草バックは通常の使用で劣化や摩耗します。常時点検し劣化・摩耗の場合は速やかに交換してください。

(11)作業機装着時はその取扱説明書，警告ラベルにある注意事項に従ってください。

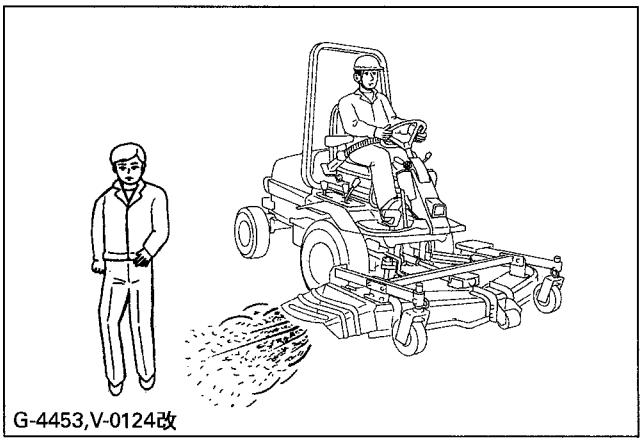
3．始動時に

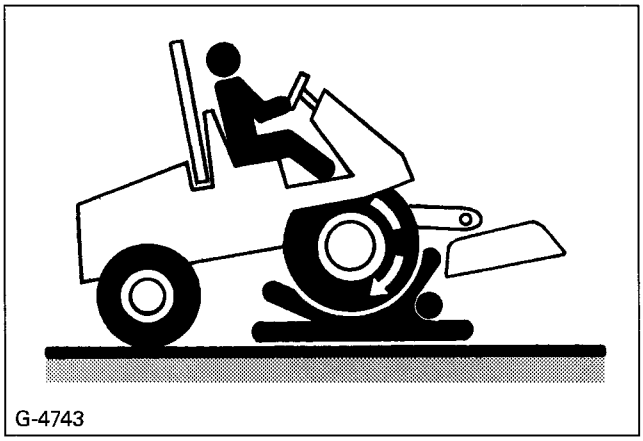
(1)エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，各レバーや速度コントロールペダル(HSTペダル)が**“中立”**かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているか，そしてPTOが確実に**“切”**の位置になっているかを確認してください。

(2)地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
フロントモーアが突然動き出す恐れがあります。



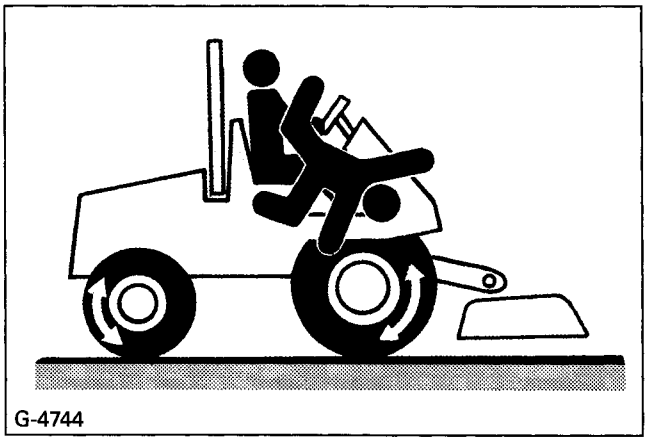
(3)フロントモーアを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人(特に子供)を近づけないでください。もし変速ギヤが入っていると車体が動いたりモーアが回転したりして事故になる恐れがあります。又，安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。



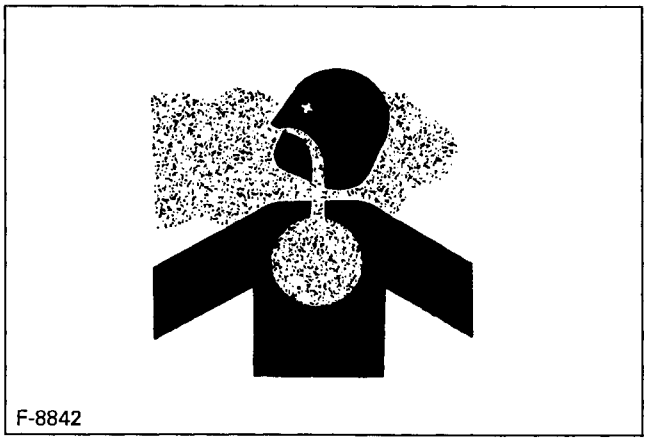


4．運転時に

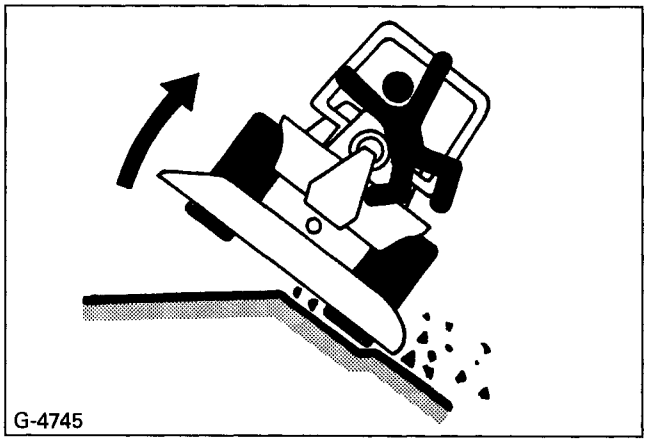
(1)子供はもちろん運転者以外の人を乗せてフロントモーアを運転しないでください。
又，必ずシートに座って運転してください。


G-4744

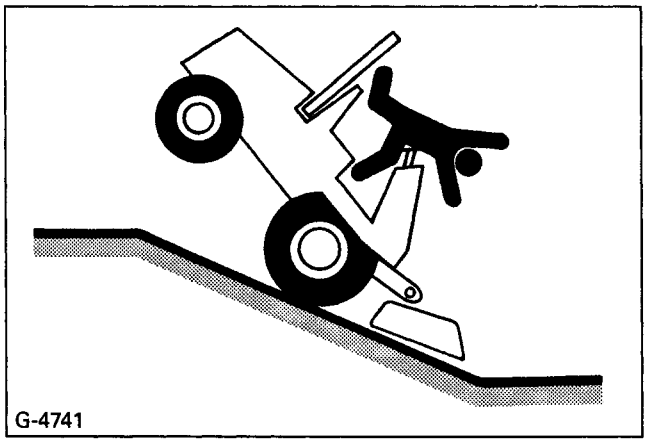
(2)換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。


F-8842

(3)溝や穴の近く，路肩などフロントモーアの重みでくずれやすい所では運転しないでください。


G-4745

(4)傾斜地や凹凸地，ぬかるんだ場所，湿った草地ではスリップし転倒しやすいので，特に運転操作に注意してください。


G-4741

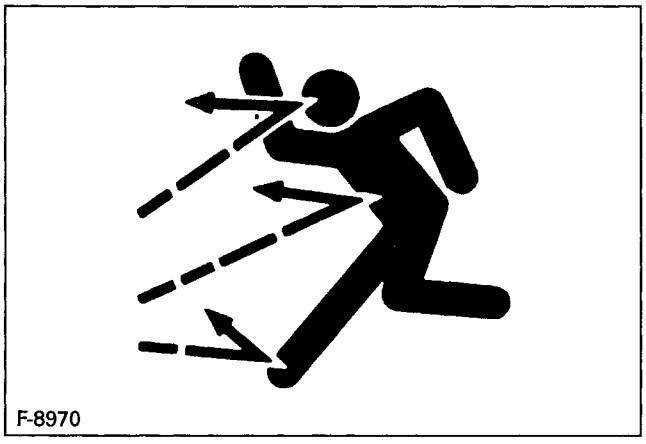
(5)転倒やスリップのおそれがある場所で使わないでください。

(6)高速・急発進・急停止，急旋回など，急激な運転操作をしないでください。

(7)斜面では上下方向に刈り，斜面を横切って刈らないでください。

(8)登板不能時は刈刃を止め，ゆっくり真直ぐに降り，駆動を切り惰性で斜面を降りたりしないでください。

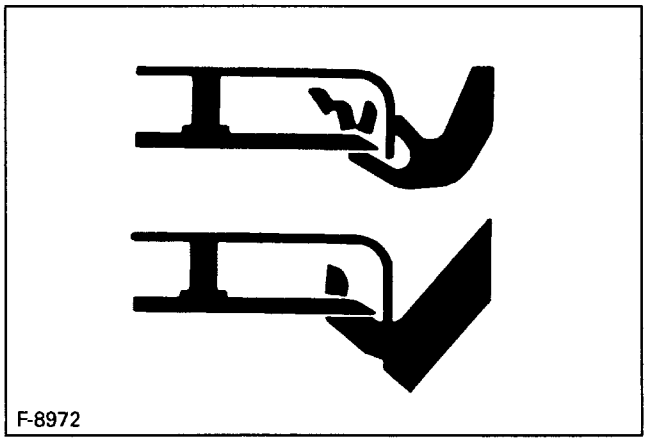
(9)作業場所を点検して，針金，石など飛散のおそれがある物は除去してください。


F-8970

(10)機械の周囲や，草の吐出し方向に人がいないことを確認しながら作業してください。

⚠ 安全に作業するために

(11)後進時は後方の安全を充分確認し且つ，必要な場合以外は刈刃を停止して後進してください。
手足を刈刃に近づける時は，エンジンを停止しキーを抜いてください。


F-8972

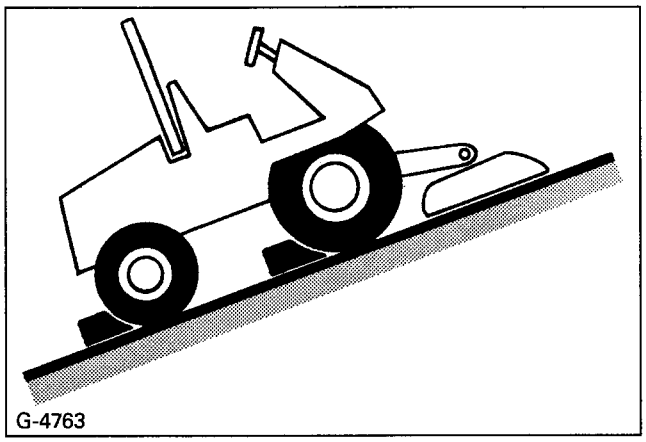
(12)集草機の脱着や詰まった時の掃除等は，エンジンを止めさらに刈刃が完全に停止したことを確かめて，行なってください。

(13)火災のおそれがあるので，排気を草や木の葉の堆積物などの可燃物には近づけないでください。

(14)公道は走行しないでください。公道での移動はトラックに積載して行なってください。

5．駐車，格納時に

(1)駐車するときは，平坦でフロントモーアが安定する場所を選び，ＰＴＯを**“切”**，作業機を**“下げ”**，各レバー及び速度コントロールペダル(HSTペダル)を**“中立”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，エンジンを**“停止”**してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。


G-4763

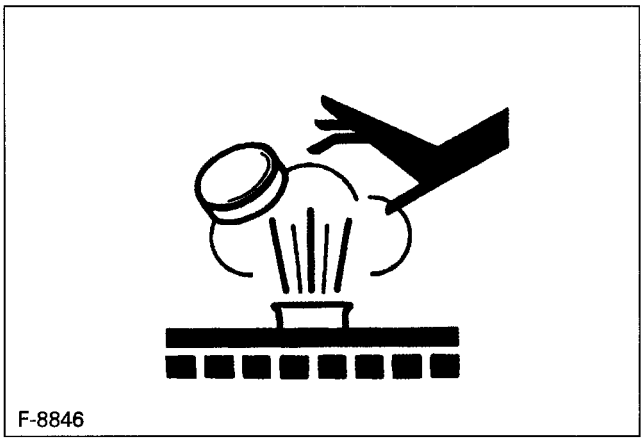
(2)乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災の恐れがあります。

(3)格納などでフロントモーアにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行ってください。火災の原因になります。

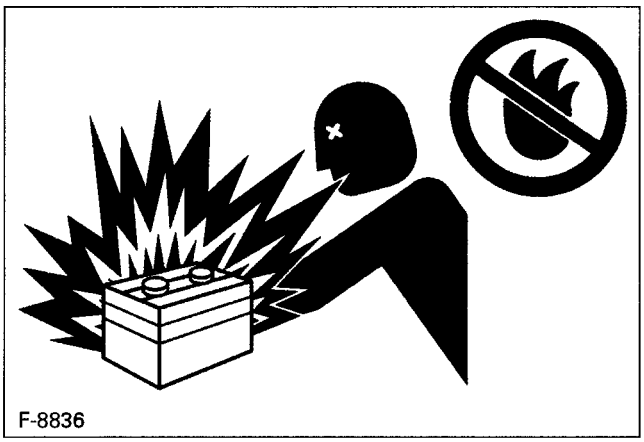
6．点検・給油・整備時に

(1)平たんな場所に駐車し，作業機を**“下げ”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，各レバー及び速度コントロールペダル(HSTペダル)を**“中立”**，PTOを**“切”**にし，そしてエンジンを停止してください。

(2)エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドの恐れがあります。


F-8846

(3)燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発の危険性があります。

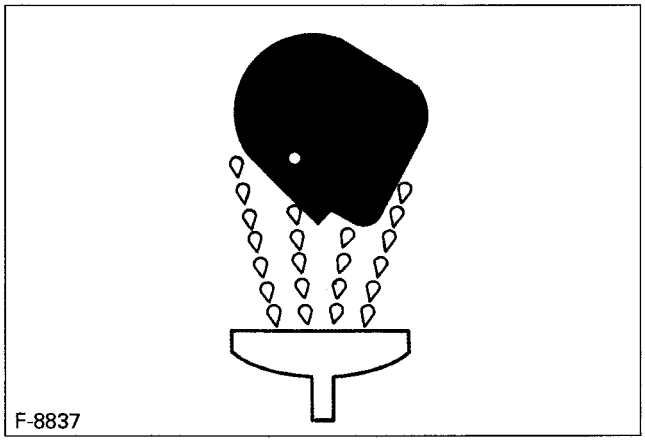

F-8836

(4)放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
(エンジンの始動と停止の章**“バッテリあがりの処置”**を参照)

(5)バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVEL(上限)とLOWER LEVEL(下限)の間に補水してください。(補水可能なバッテリ)

(6)バッテリをはずすときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。

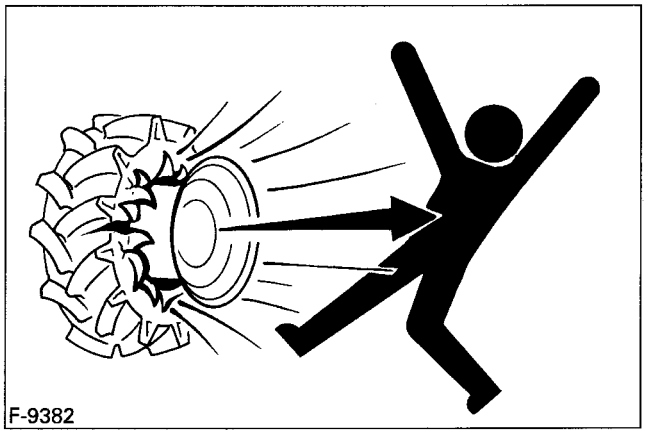
(7)バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。


F-8837

(8)タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。

(9)タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。

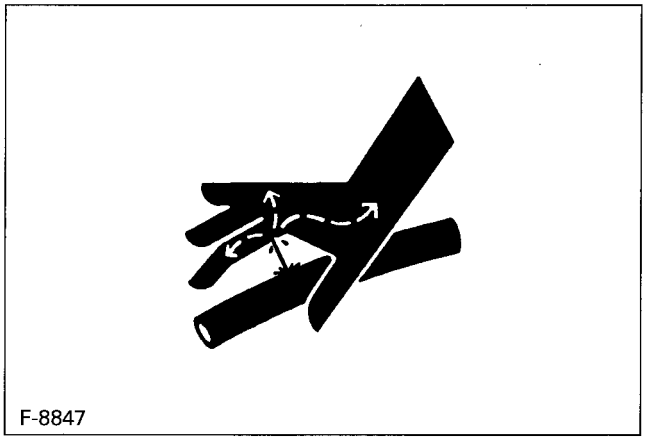
(10)タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。)

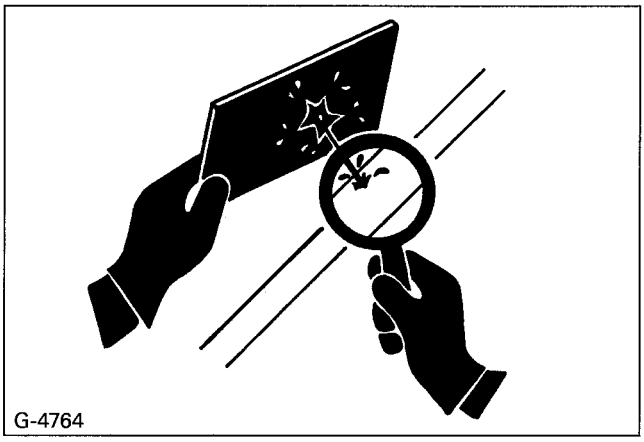

F-9382

⚠ 安全に作業するために

(11)圧力がかかり噴出した油は，皮膚に浸透する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

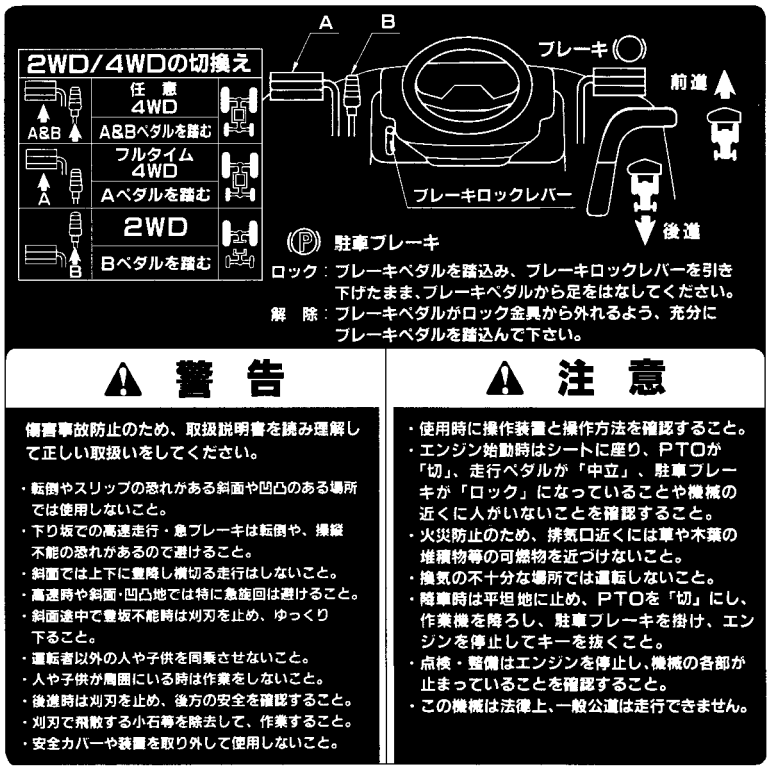
(12)見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。万一，油が皮膚に浸透したときは，強度のアレルギーを起こす恐れがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。


F-8847

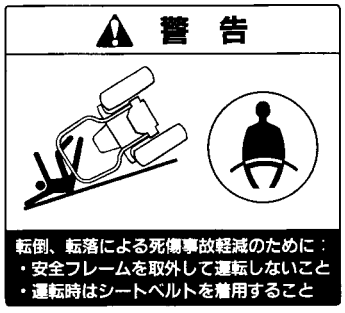

G-4764

7. ⚠表示ラベルと貼付け位置

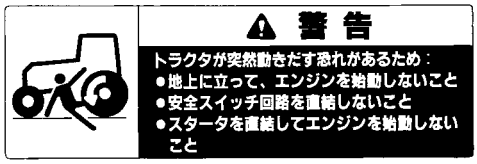
① 品番　K3361-4717-2



② 品番　K3518-4732-1



③ 品番　T0180-4965-2

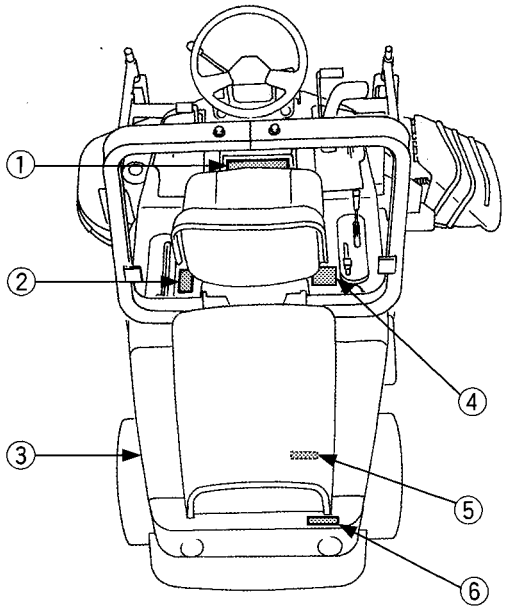


④ 品番　3F740-9828-2

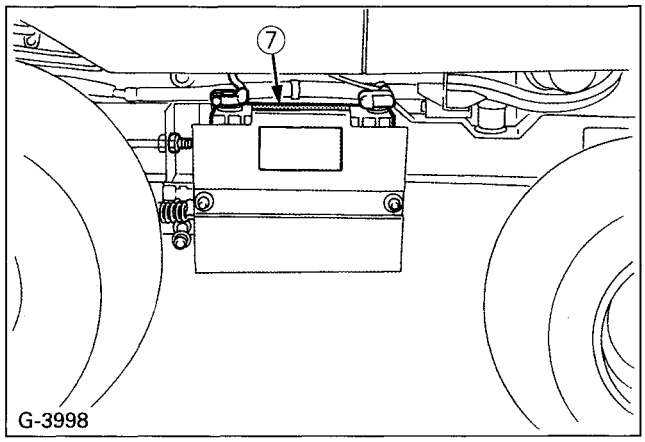
⑤ 品番　T0180-4957-1

⑥ 品番　11151-8706-1

⑦ 品番　6A320-5559-1



G-4020改



8. ⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルはいつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
(5)ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**"ご相談窓口"**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

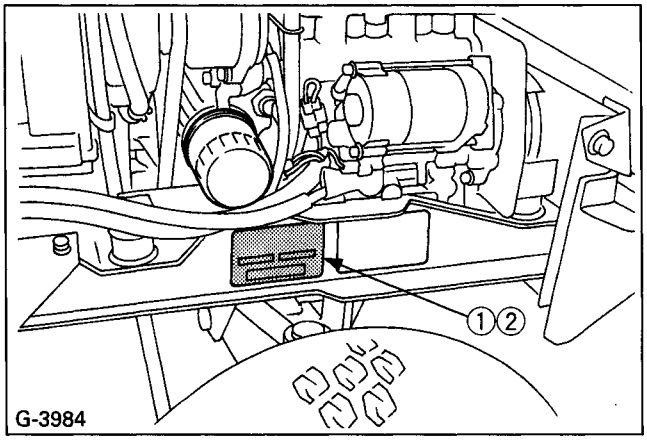
その際　1. フロントモーア名称と車台番号
　　2. エンジン名称とエンジン番号

を併せてご連絡ください。

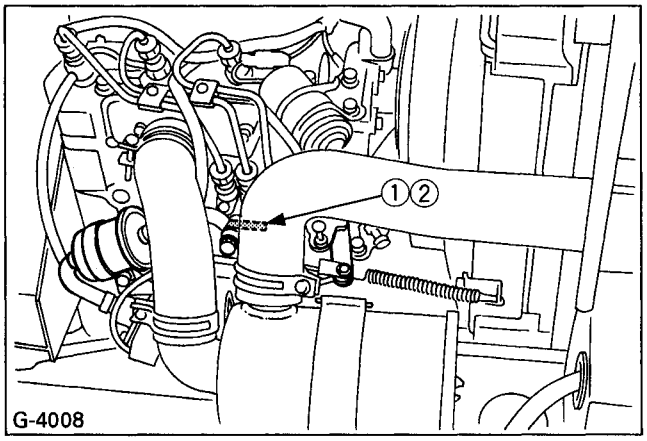
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



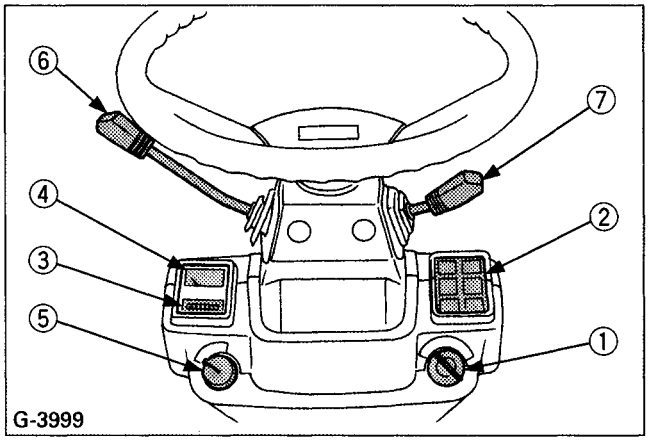
①フロントモーア名称
②車台番号



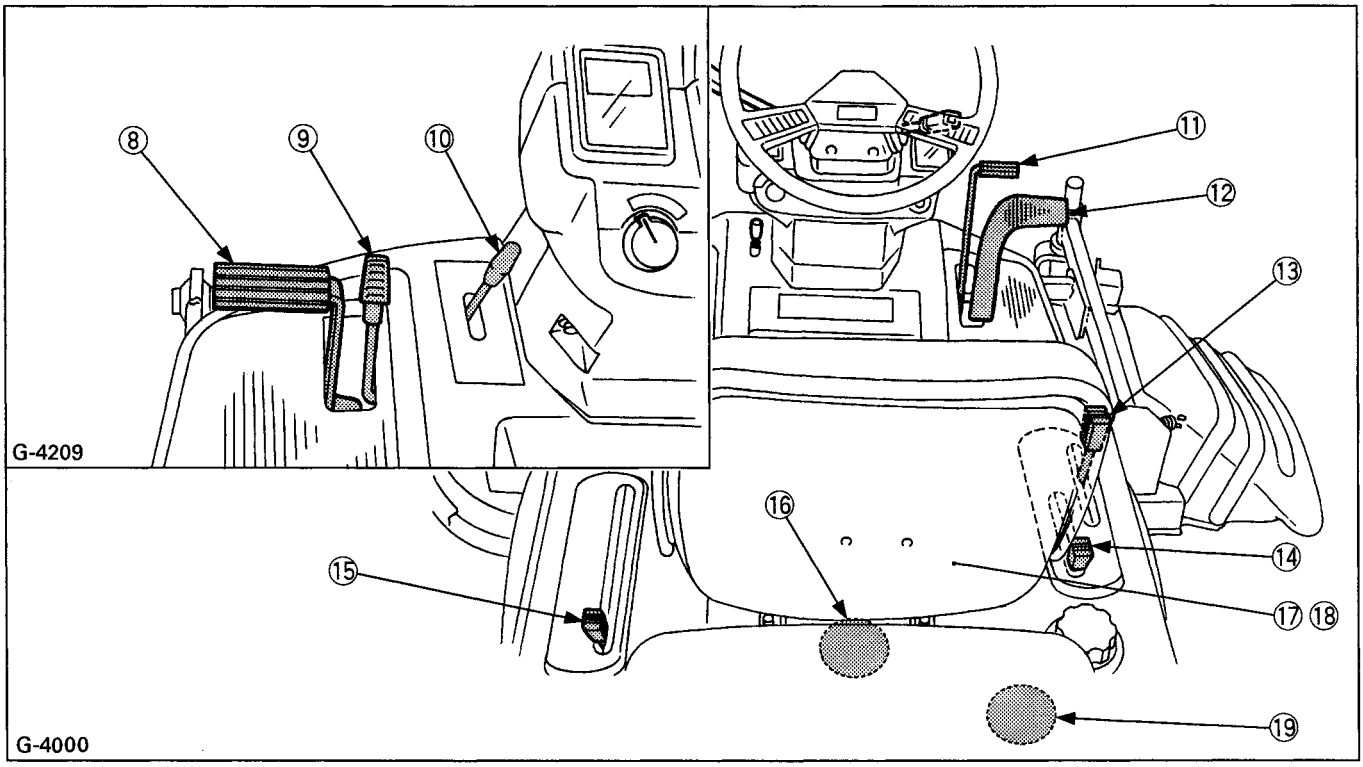
①エンジン名称
②エンジン番号

運転に必要な各部の名称

各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。



参照ページ
①キースイッチ …… 5, 6, 7
②イージーチェッカ …… 5, 6, 13
③積算時間計(アワメータ) …… 14
④水温計 …… 13, 14
⑤ヘッドランプスイッチ …… 10
⑥アクセルレバー …… 6, 7, 11
⑦チルトレバー …… 9



参照ページ
⑧4WDクラッチロックペダル …… 11
⑨4WDクラッチロック解除ペダル …… 11
⑩駐車ブレーキレバー …… 4, 11
⑪ブレーキペダル …… 4, 10
⑫速度コントロールペダル(HSTペダル) …… 4, 12
⑬油圧昇降レバー …… 5, 10, 16
⑭PTOレバー …… 4, 16

参照ページ
⑮速度固定レバー …… 4, 15
⑯ボンネットロックレバー …… 21
⑰シート …… 9
⑱シートベルト …… 10
⑲エンジンストップレバー(ボンネット内) …… 7

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
〔点検方法の詳細は，**“フロントモーアの簡単な手入れと処置”**の項を参照。〕

注　意

＊運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊点検をするときは，必ず作業機を降ろし駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止してから行なってください。
＊燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹出してヤケドをするおそれがあります。
＊エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジン停止後30分経過してから開ける。
❷点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重　要

各部への給油と交換
＊点検するときはフロントモーアを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，必ず指定**“クボタ純オイル”**を使用してください。
（**“推奨オイル・グリース一覧表”**の項を参照）

エンジンの始動と停止

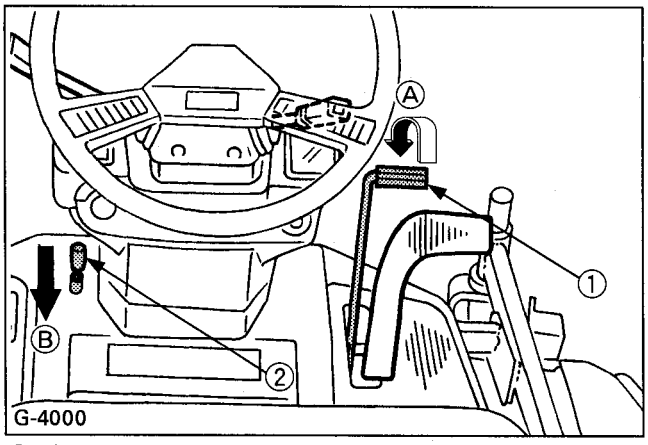
警 告

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
＊フロントモーアに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，各レバーや速度コントロールペダル(HSTペダル)が“中立”かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認し，PTOが確実に“切”の位置になっているかを確認してください。
＊フロントモーアが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
＊室内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

始動のしかた

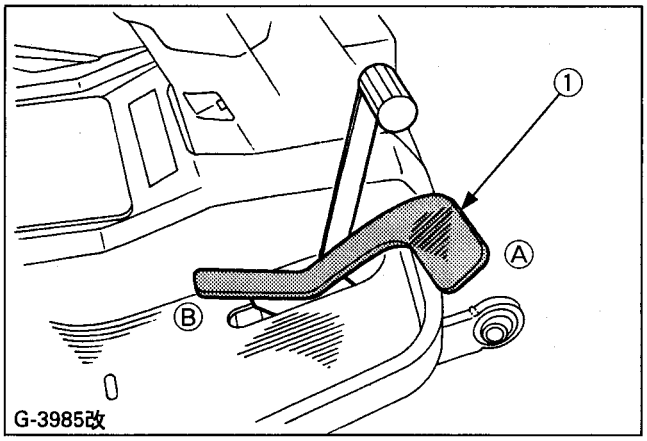
1.駐車ブレーキをかけます。

ブレーキペダルを踏込み，駐車ブレーキレバーを“引いた”まま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。

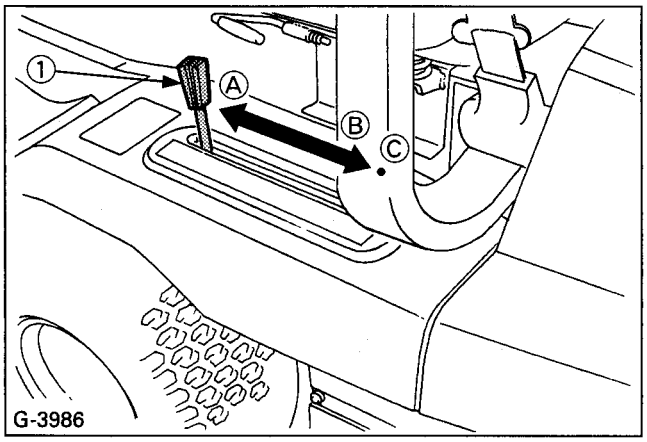


①ブレーキペダル　Ⓐ“踏込む”
②駐車ブレーキレバー　Ⓑ“引く”

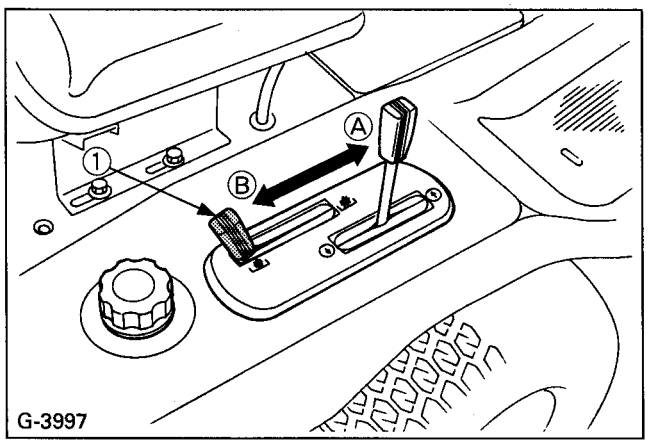
2.速度コントロールペダル(HSTペダル)を“中立”にしてPTOレバー，速度固定レバーを“切”の位置にします。



①速度コントロールペダル(HSTペダル)　Ⓐ“前進”　Ⓑ“後進”



①速度固定レバー　Ⓐ“高速固定”　Ⓑ“低速固定”　Ⓒ“切”



①PTOレバー　Ⓐ“入”　Ⓑ“切”

3.キースイッチにキーを差し込み“入”位置にします。

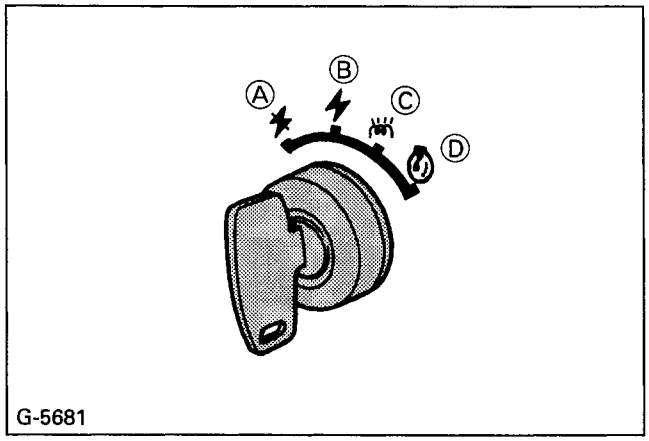
■キースイッチ

“切” …エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。

“入” …エンジン回転中の位置，すべての電気装置が使えます。

“予熱” …燃焼室内を予熱する位置。

“始動” …エンジンを始動する位置。手を離せば自動的に“入”に戻ります。



G-5681

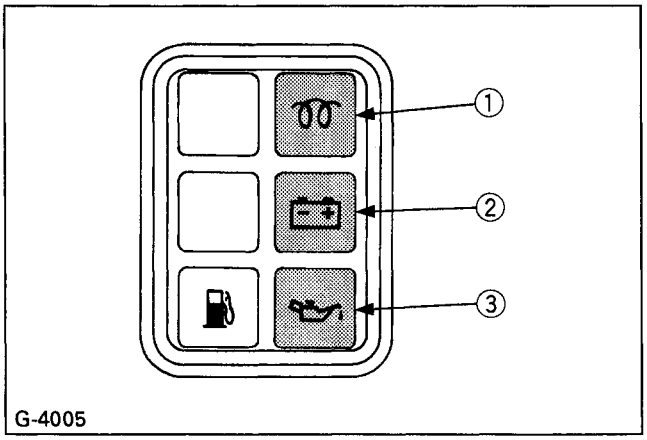
Ⓐ“切”
Ⓑ“入”
Ⓒ“予熱”
Ⓓ“始動”

補 足

＊運転者がシートに座り，ブレーキペダルを一杯踏み込んで，PTOレバーを“切”にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

◆イージーチェッカランプ

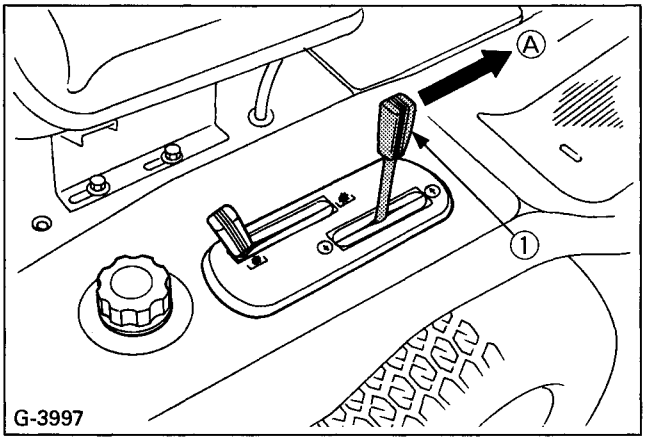
1. キースイッチを“入”位置にすると，①②③ランプが点灯します。
2. 予熱が完了すると自動的にグローランプ①が消灯します。但し，外気温が0℃以下のときは，消灯後も約５秒間予熱してください。



G-4005

①グローランプ
②バッテリチャージランプ(バッテリ充電警告灯)
③エンジンオイルランプ(エンジン油圧警告灯)

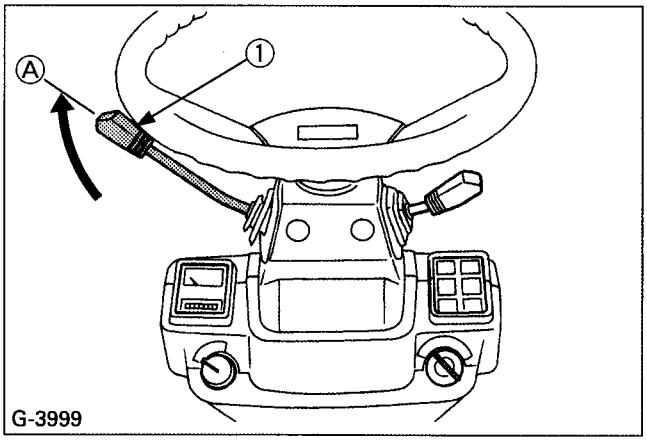
4.油圧昇降レバーを“前方に倒し”作業機を下げます。



G-3997

①油圧昇降レバー　　Ⓐ“下げる”

5.アクセルレバーを“中程”まで押します。



①アクセルレバー　　Ⓐ“加速”

6.キーを“予熱”位置に回します。

予熱時間は下表を参考に行なってください。
エンジンが暖まっている場合，予熱は不要です。

気　温	予熱時間
0℃以上	5秒
0℃以下	10秒以上

7. キーを“始動”位置に回します。

重　要

＊セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

補　足

＊運転者がシートに座り，ブレーキペダルを一杯踏み込んで，PTOレバーを**“切”**にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

8.エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。

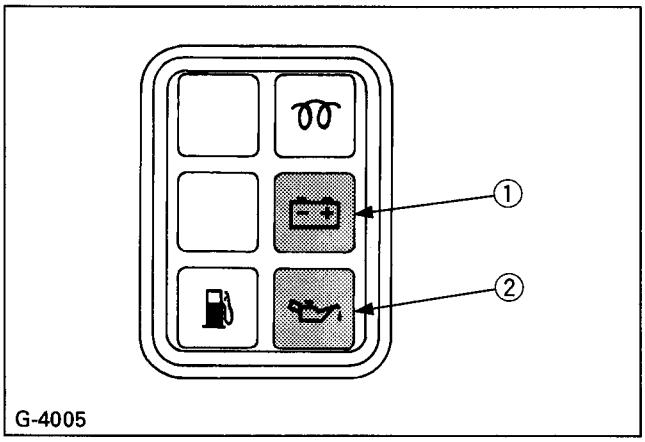
自動的に**“入”**にもどります。

重　要

＊エンジン回転中は，キーを**“始動”**位置にしないでください。セルモータ破損の原因になります。

9.イージーチェッカランプが“消灯”したか確認します。

もし，ランプが消灯しない場合は，エンジンを停止し，点検してください。

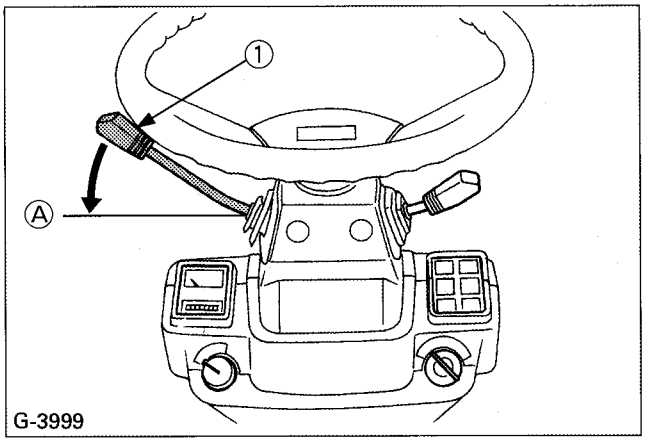


エンジン始動後消灯するランプ：①②

10.エンジン回転を下げ，そのまま5分程度暖機運転しましょう。

停止のしかた

1. アクセルレバーをいっぱい手前へ“引い”てアイドリング状態にします。

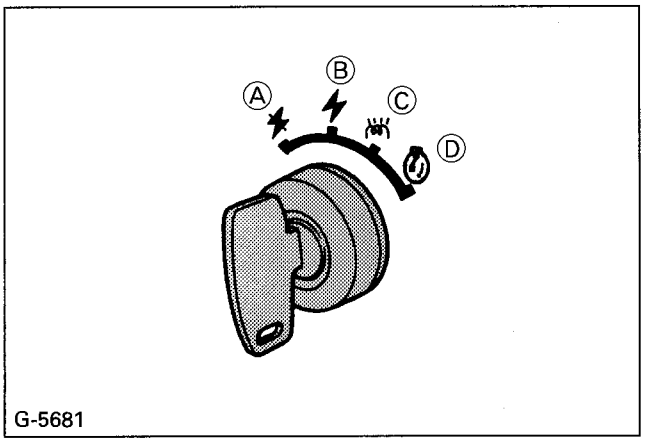


①アクセルレバー　　Ⓐ“アイドリング”

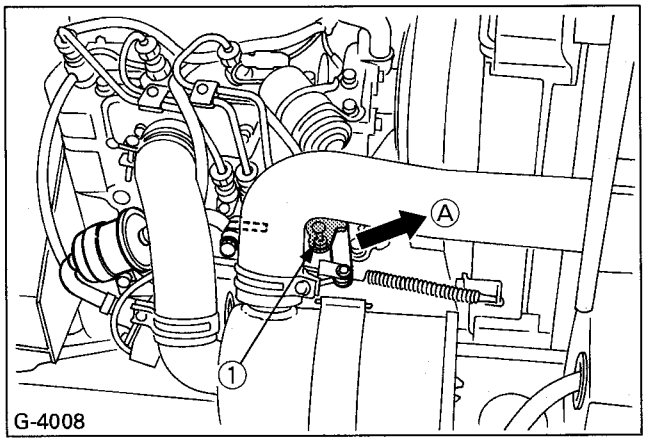
2. キースイッチのキーを“切”の位置にすると，エンジンは停止します。

注　意

＊万一停止しないときは，速度コントロールペダル(HSTペダル)を“中立”にし，駐車ブレーキをかけ降りてから，ボンネットを開けエンジン横のエンジンストップレバーを矢印側にいっぱい動かすと停止します。



Ⓐ“切”
Ⓑ“入”
Ⓒ“予熱”
Ⓓ“始動”



①エンジンストップレバー　　Ⓐ“引く”

3. キーは必ず“抜き”ましょう。

寒冷時の暖機運転

注　意

＊換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。
＊暖機運転中は必ず駐車ブレーキをかけてください。

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

■低温時におけるミッションオイルの暖機運転

この機械は，ミッションやステアリングを油圧で作動し，その油圧オイルはミッションオイルを兼用しております。そのため低温時は下記の要領で暖機運転を行ない，ミッションオイルを暖めてください。
暖機運転を行なわないと，満足な機能が得られないばかりか故障の原因になります。
尚，エンジン回転は**“中速”**にして暖機運転を行なってください。

気　温	暖機運転時間
0℃以上	約５分間
0℃～－10℃	５～10分間
－10℃～－20℃	10～15分間
－20℃以下	15分間以上

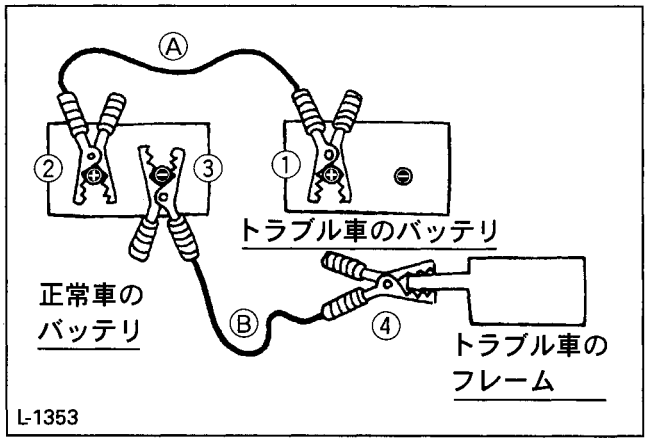
バッテリあがりの処置

ブースタケーブル(別売)があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

◆接続する前に

❶ブースタケーブル，クリップの容量は，バッテリ容量に合ったものを使います。
❷ケーブル，グリップ及びバッテリの⊕，⊖端子に断線や腐蝕がないか。
❸キースイッチは"切"になっていますか。
❹正常車のバッテリは，トラブル車のバッテリと同容量のものを使います。

◆ブースタケーブルの接続

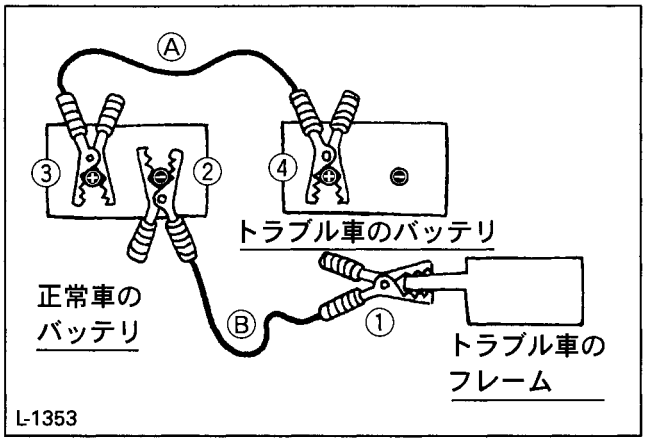


❶ブースタケーブルⒶのクリップを，トラブル車の⊕端子に接続し，片方のクリップは正常車の⊕端子に接続します。
❷ブースタケーブルⒷのクリップを正常車の⊖端子に接続し，片方のクリップをトラブル車のボデーに確実に接続します。
＊ボデーへの接続は，バッテリから離れている方がよい。
❸各端子に接続後，エンジン始動前に確実に接続されているか確認してください。

◆トラブル車のエンジン始動

❶接続確認が終ったら，エンジンを始動します。
❷始動に失敗したときは，しばらく(2～3分)おいてから再始動してください。

◆ブースタケーブルの取外し



❶ブースタケーブルⒷのクリップをトラブル車のフレームから取外し，つぎに正常車の⊖端子との接続を外します。
❷ブースタケーブルⒶのクリップを正常車の⊕端子から取外した後，トラブル車の⊕端子の接続を外します。

重 要

＊救援車は必ず12Vバッテリ車を使用してください。
＊ケーブル接続の際には，⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
＊ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。

フロントモーアの運転

警 告

＊フロントモーアを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人(特に子供)を近づけないでください。また，安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
＊子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてフロントモーアを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊溝や穴の近く，路肩などフロントモーアの重みでくずれやすい所では運転しないでください。転落事故のおそれがあります。
＊急な坂道の登坂は前進で行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
＊高速で旋回すると，横転するおそれがあります。必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊シート足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

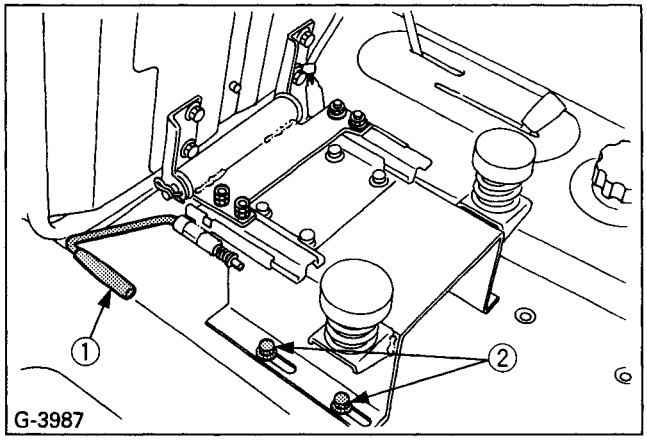
ならし運転(最初の約50時間)

この期間中は，特に次のことを厳守してください。
1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50時間使用後，**"定期点検箇所一覧表"**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

シート回りの調節

■シート

1. シート下の調整レバーで前後に調整できます。シート取付けボルトをゆるめると，さらに調整できます。調整後は，必ずシート取付けボルトを締め付けてください。
2. 雨のときは，シートを前に倒しておくと座席がぬれません。



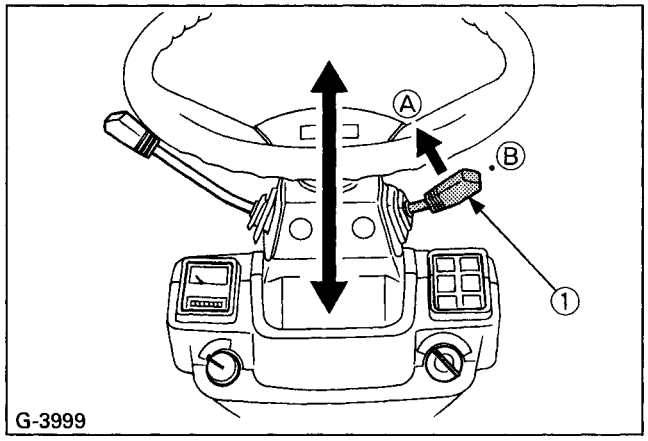
①調整レバー
②シート取付けボルト

■ステアリングハンドル

注 意

＊調節後，ハンドルがロックされていることを確認してください。
＊走行中の調節はしないでください。

チルトレバーでロックを**"解除"**すれば，ステアリングハンドルが4段階に調節できます。



①チルトレバー　　Ⓐ"ロック解除"
Ⓑ"ロック"

■安全フレームとシートベルトについて

警 告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

＊フロントモーアを使用するときは，安全フレームを外して運転しないでください。

＊運転時は必ずシートベルトを着用してください。

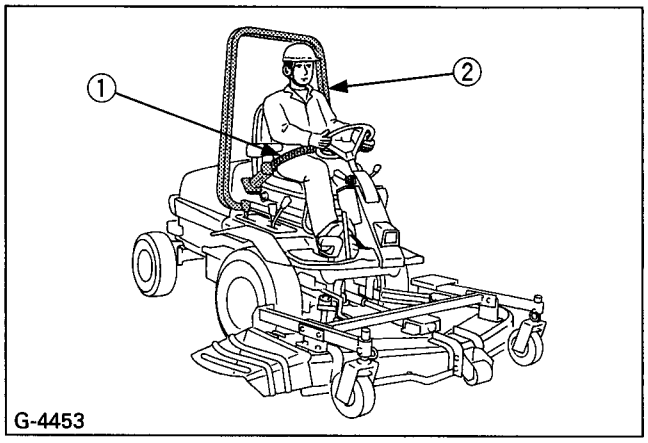
＊安全フレームの改造は絶対にしないでください。また，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

＊シートベルトは定期的に点検して，すり切れや損傷がないか確認してください。

＊シートベルトはシートに座った状態で，確実にフィットするよう調整してください。

補 足

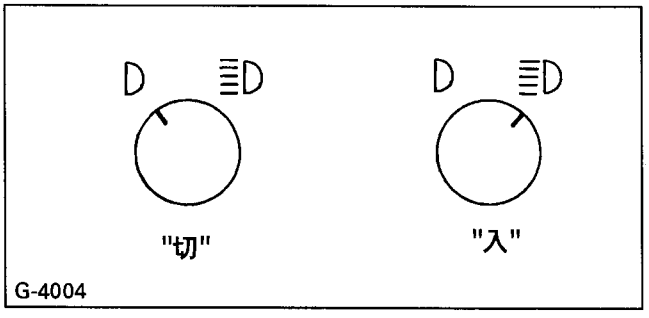
＊安全フレームは，万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって，すべての傷害を防げるものではありません。



①シートベルト
②安全フレーム

灯火類の操作

■ヘッドランプスイッチ



D…… ヘッドランプ消灯位置。

≡D…… ヘッドランプ点灯位置。

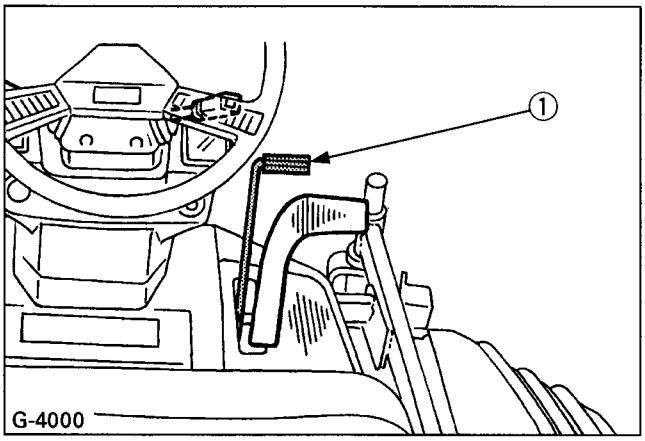
発進・走行

1. ブレーキペダルの確認

■ブレーキペダル

警 告

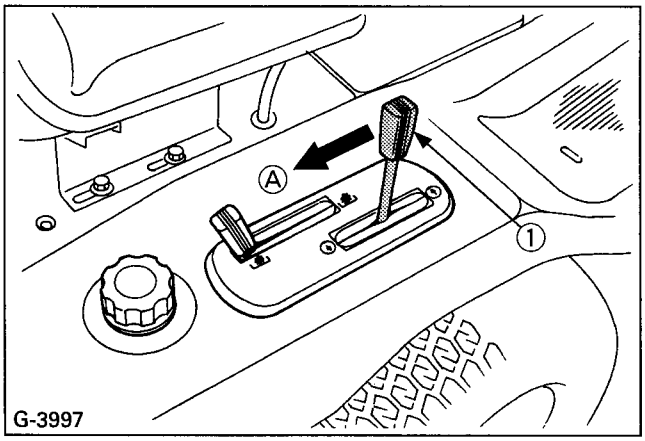
＊坂道での急激なブレーキ操作は転倒の原因となりますので絶対やめてください。



①ブレーキペダル

2. 油圧昇降レバーを“後方に引き”作業機を上げます。

〔詳細は**“油圧”**の項を参照〕



①油圧昇降レバー　　Ⓐ“上げる”

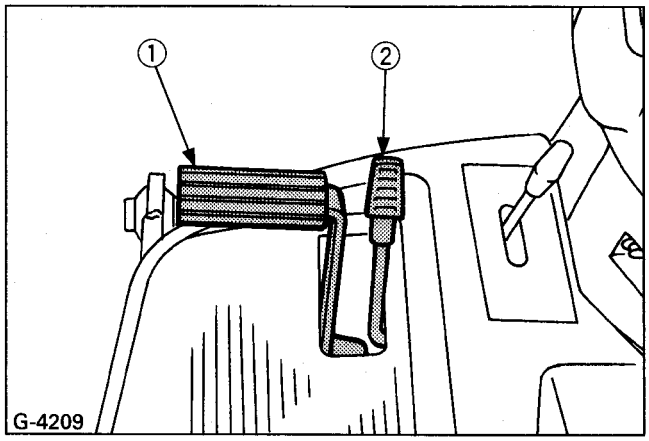
3. 作業に応じ必要なレバー類を操作します。

■4WDクラッチロックペダル

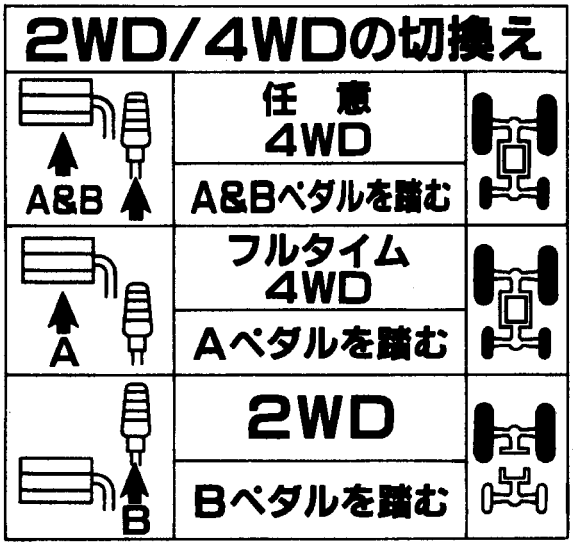
警 告

＊坂道では4WDで固定してください。
＊坂道では2WD・4WDの切換え操作をしないでください。
＊4WDの状態で旋回や道路走行はしないでください。

1. 4WDクラッチロックペダルと解除ペダルを同時に踏込むと，踏込んでいる間だけ4WDの状態にすることができます。
2. 4WDの状態を保ちたいときには，4WDクラッチロックペダルだけを踏込みます。
3. 解除ペダルを踏込めば，4WDは解除されます。



①4WDクラッチロックペダル
②4WDクラッチロック解除ペダル



重 要

＊4WDの状態で急なハンドル操作は行なわないでください。芝地を傷めることがあります。

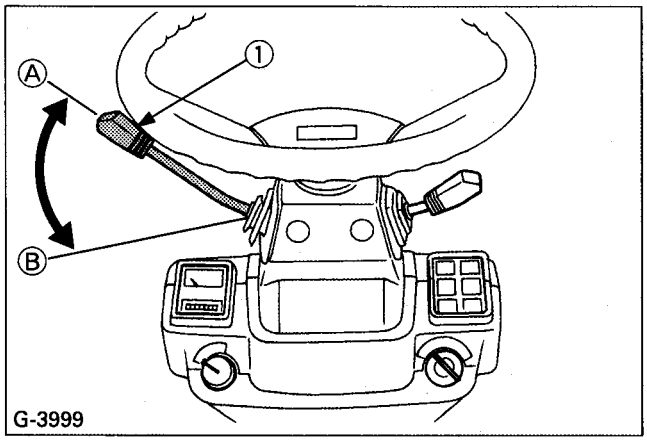
4. エンジンを加速します。

■アクセルレバー

◆アクセルレバー

… レバーを前側に押すと，エンジン回転が上がる。

… レバーを後側に引くと，エンジン回転が下がる。

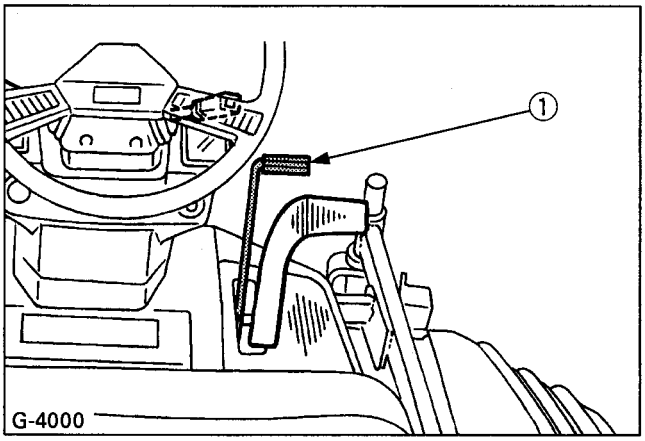


①アクセルレバー　Ⓐ"高速"　Ⓑ"低速"

5. 駐車ブレーキを解除します。

■駐車ブレーキ

ブレーキペダルを**"踏込む"**と駐車ブレーキレバーが解除されます。



①ブレーキペダル

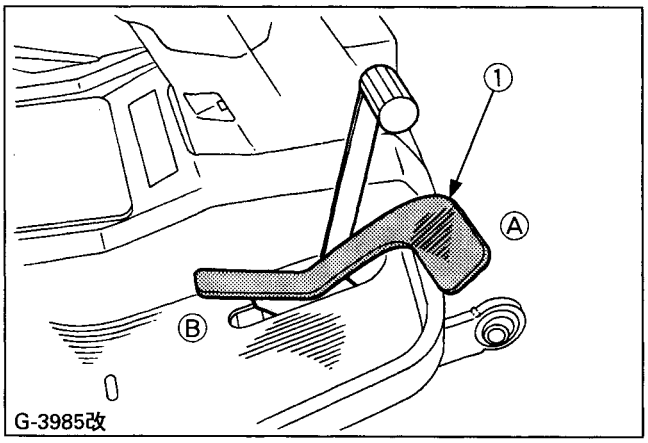
6. 速度コントロールペダル(HSTペダル)をゆっくり押して発進します。

■速度コントロールペダル(HSTペダル)

注 意

＊安全のため，急激な前後進の切換えは避けてください。
＊トラクタなどでフロントモーアを長距離けん引しないでください。油圧ミッション(HST)の破損につながります。

前進と後進の車速が無段階で選択できます。
“前進” …… 右足のつま先でペダルを押すと前進します。
“後進” …… 右足のかかとでペダルを押すと後進します。



G-3985改

①速度コントロールペダル(HSTペダル)　Ⓐ“前進”　Ⓑ“後進”

補 足

＊駐車ブレーキがかかっている時は速度コントロールペダル(HSTペダル)は**“中立”**位置にロックされています。
＊速度コントロールペダル(HSTペダル)から足を離してもフロントモーアがクリープ(超低速)する場合は購入先に問合せてください。

停車・駐車

注 意

＊駐車するときは，平坦でフロントモーアが安定する場所を選び，PTOレバーを“切”，作業機を“下げ”，駐車ブレーキを“掛け”，エンジンを“停止”してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災のおそれがあります。
＊格納などでフロントモーアにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。火災の原因になります。
＊停車時，空吹かしをしたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，枯草などに着火するおそれがあります。
＊フロントモーアから降りるときは，モーアなどのＰＴＯ作業機が完全に止まるまで待ってください。

1. アクセルレバーを手前に引いて，エンジン回転をアイドリング状態にします。

2. ブレーキペダルを“踏込み”ます。

3. 完全に停止してから，PTO レバーを“切”にします。

4. 作業機を取付けている場合は，油圧昇降レバーをゆっくり“前方に倒し”作業機を下げます。

5. 駐車ブレーキを確実に“ロック”してください。

6. キースイッチを“切”にして，エンジンを停止します。

運転中の作動確認

フロントモーアの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

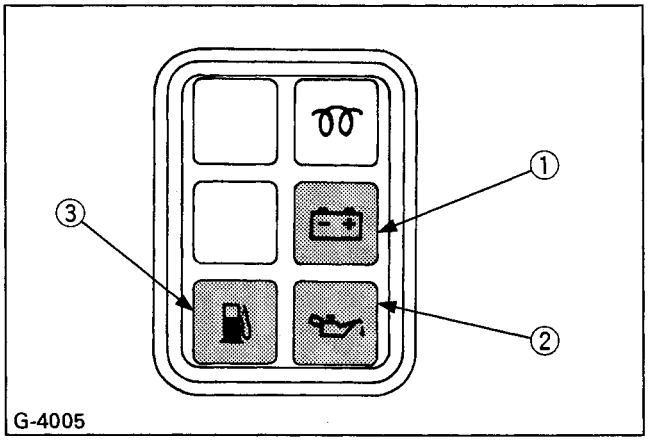
■次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。



① バッテリチャージランプ
(バッテリ充電警告灯)
エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
キースイッチを**"入"**にすると点灯し，始動すると消灯します。

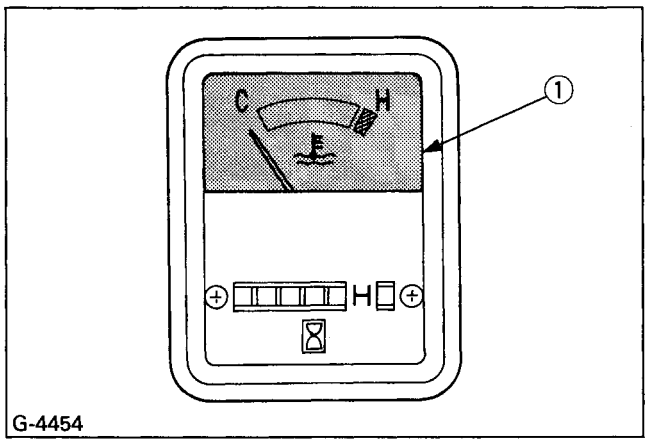
② エンジンオイルランプ
(エンジン油圧警告灯)
エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。
キースイッチを**"入"**にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。
点灯したままのときは，エンジンオイル量を点検してください。

③
(燃料給油警告灯)
燃料タンクがほとんど空になったとき，燃料の給油を促す給油警告灯です。
早めに燃料を補給してください。
空にすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。(**"必要に応じた点検・整備"**の**"燃料の空気抜きのしかた"**の項を参照)

■水温計

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が**"H"**(レッドゾーン)を示すときは，オーバヒート状態ですから次ページ**"◆オーバヒートしたときの処置"**に従って点検してください。



①水温計

◆オーバヒートしたときの処置

オーバヒート(水温計の針が**"H"**にあるとき)したときは,

❶作業を中止し,

❷エンジンを約５分間アイドリング回転してから,

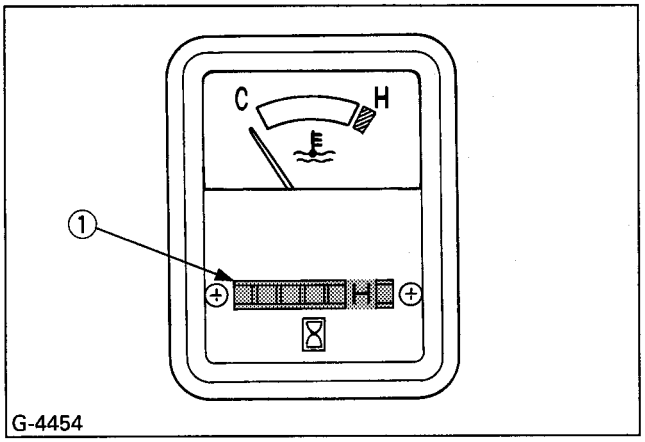
❸エンジンを停止し,停止後30分以上たって冷えてから,次の点検・整備をしてください。

1. リザーブタンク,ラジエータの冷却水の量(不足),及び水もれがないか。
2. 防じん網及びラジエータフィンとチューブの間に,泥やゴミが付着していないか。
3. ファンベルトのゆるみがないか。

重　要

＊リザーブタンクのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら,上記**"◆オーバヒートしたときの処置"**を行なってください。

■積算時間計(アワメータ)



①積算時間計(アワメータ)

◆積算時間計(アワメータ)

積算時間計(アワメータ)は６桁になっており,初めの５桁は時間,最後の１桁は1/10時間(６倍すると**"分"**単位)を示します。

補　足

＊この積算時間計(アワメータ)は電気によって作動するため,キースイッチを**"入"**又は**"予熱"**にすると動き始めます。

旋回のしかた

注　意

＊高速で回ると,横転するおそれがあります。できるだけ速度を落とし,ゆっくりと回ってください。

坂道での運転

警　告

＊４WDクラッチロックレバーを踏込んで,４WDの状態を確認してください。

＊坂道の途中で４WDから２WDへの切換え操作をしないでください。

▶ ２WDは４WDより登坂力が低い為,坂道の途中で切換え操作をすると,すべり落ちて制御不能になったり,転倒事故を引き起こすおそれがあります。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで,エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではエンストさせないように早めに遅い速度にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

道路走行中の注意(私道)

警　告

＊公道は走れません。

＊運転者のほかは乗せないようにしてください。転落事故の原因になります。

＊溝のある管理道路や両側が傾斜している管理道路を走るときは,特に路肩に注意してください。

速度固定での運転

注 意

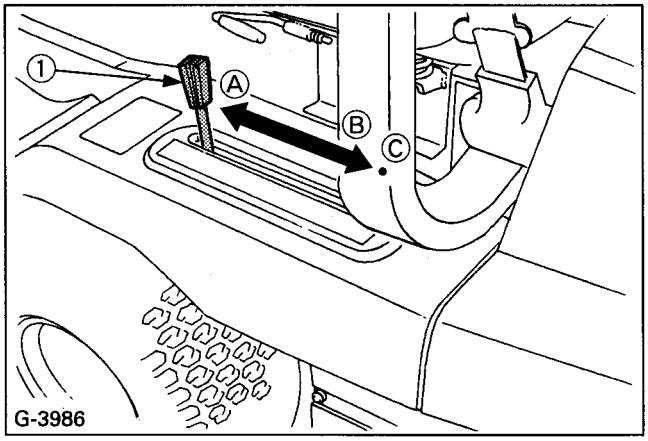
＊エンジンを始動する際は，必ず速度固定レバーを“切”にしてください。
＊坂道，狭い場所，凹凸や障害物のある場所では，危険ですので使用しないでください。
＊安全の為，最高速度では固定できないようになっています。

■速度固定走行のしかた

1. 速度コントロールペダル(HSTペダル)をゆっくりと踏んで，適当な速度になったら速度固定レバーを前方に押してください。
2. レバーが重くなったところで速度コントロールペダル(HSTペダル)から足をはなし，速度固定レバーから手をはなしてください。

■速度固定の解除のしかた

1. 速度固定レバーを後方いっぱいまで引き戻すか，ブレーキペダルを十分に踏み込んでください。ブレーキペダルを踏むと，自動的にレバーが戻り，速度固定が解除されます。



①速度固定レバー　　Ⓐ“高速固定”
Ⓑ“低速固定”
Ⓒ“切”

トラックへの積み・降ろし

注 意

＊アユミ板は，十分な強度・幅・長さ(傾斜が15度以下になる長さ：トラック荷台高さの4倍以上)のあるすべり止め付きのものを使用し，フロントモーアの質量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。
＊トラックへの積込みは，前進で行なってください。万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

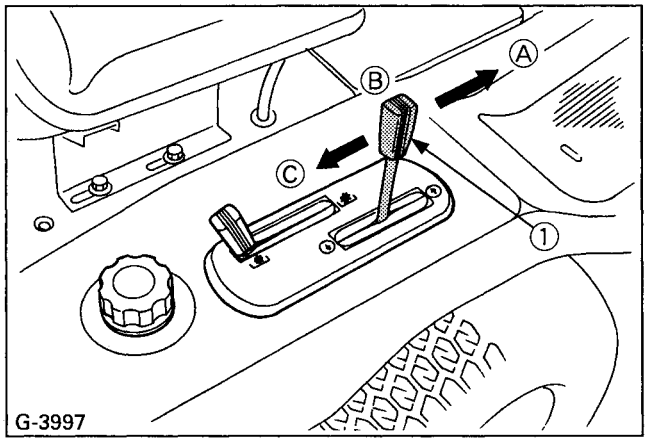
油圧・モーアリンク・PTO

油圧

油圧装置は，エンジン回転中は常に作動します。

■油圧昇降レバー

油圧昇降レバーは，油圧によって作業機を上下させる装置で，
“レバーを後方に引く”……作業機が上昇する。
“レバーを前方に倒す”……作業機が下降する。



①油圧昇降レバー　Ⓐ“下げ”　Ⓑ“中立”　Ⓒ“上げ”

モーアリンク

■作業機(モーア)の着脱

注　意

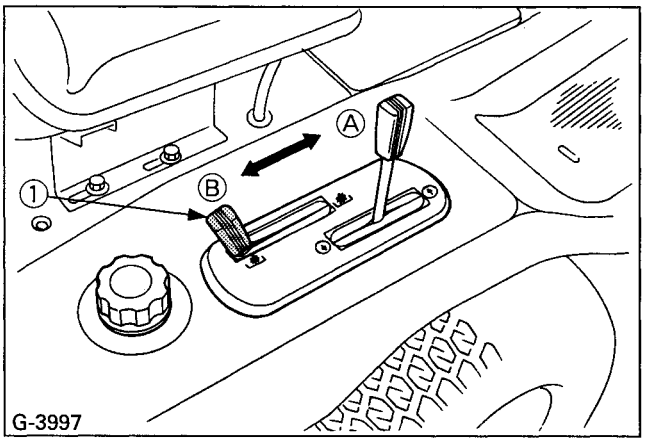
＊モーアデッキを着脱する前，必ずエンジンを停止してPTOレバーは“切”の位置にしてください。また，速度固定レバーも“切”の位置にしてください。
＊モーアデッキの着脱は，固い平坦な場所で行ない，駐車ブレーキを確実にかけてください。
＊モーアデッキを取付けたとき，油圧でモーアデッキを上下させ，フロントモーアとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。

モーアの着脱要領については**“モーアの取扱いについて”**の項を参照してください。

PTO

■PTOレバー

PTO(動力取出し)の**“入”“切”**はPTOレバーの操作で行なえます。



①PTOレバー　Ⓐ“入”　Ⓑ“切”

補　足

＊PTOが回転中に，シートから離れると自動的にエンジンが停止します。(シート安全装置)
＊エンジン始動時はPTOレバーを**“切”**の位置にしてください。もし**“入”**の位置にある場合は，エンジンが始動できません。

タイヤ

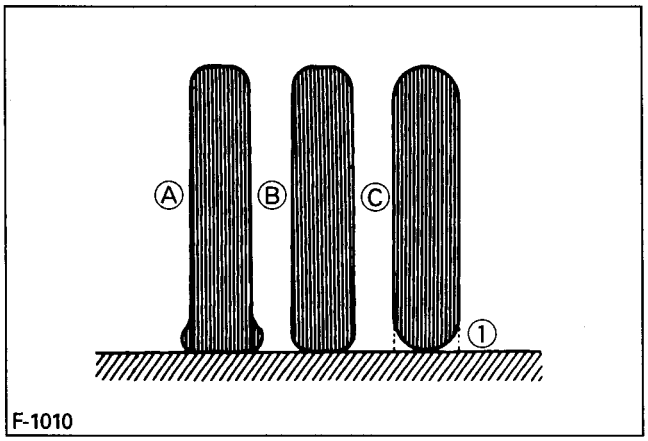
警 告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
規定圧力以上に空気を入れると，タイヤが破裂し死傷事故のおそれがあります。

＊パンク修理などでタイヤ，チューブを脱着する作業には特別な技能と器具が必要です。
自分で行なおうとしないで，必ず購入先にご相談ください。

■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安は次のとおりです。



①接地面

Ⓐ“空気が不足”
Ⓑ“標準”
Ⓒ“空気が多い”

◆標準空気圧

	タイヤ	空気圧 kPa(kgf/cm²)
前輪	20×10.00−8, 4PR ターフタイヤ	140(1.4)
後輪	16×6.50−8, 4PR ターフタイヤ	200(2.0)

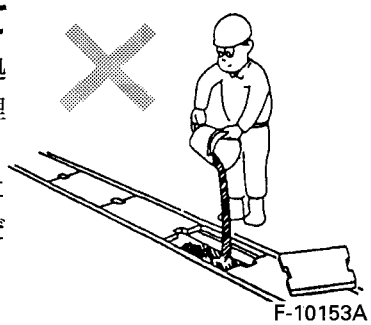
フロントモーアの簡単な手入れと処置

注 意

＊給油及び点検整備するときは
❶フロントモーアを平たんな広い場所に置き
❷作業機を降ろし
❸駐車ブレーキをかけ
❹エンジンを止め
❺キーを抜き，安全を確認してから行なってください。
そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

廃油処理について

＊抜取った廃油は廃油処理業者へ依頼し，処理してください。
＊廃油を溝や空地などに絶対に捨てないでください。



日常点検箇所一覧表

毎日作業前には，次の点検項目に従って，日常点検を行なってください。

	点検項目	参照ページ
前日の異常箇所	前日の異常箇所	21
フロントモーアの回りを歩いて	ボルトやナットのゆるみ，作業機取付けピンの脱落	21
	車体各部の変形や損傷	21
	油や水もれ	21
	エンジンオイルの量及び汚れ	22
	ミッションオイルの量及び汚れ	22
	冷却水の量	23
	エバキュエータバルブの清掃	23
	タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷	24
	防じん網の清掃	24

	点検項目	参照ページ
シートに座って	ブレーキペダルの遊び	25
	駐車ブレーキの作動	25
	レバー類の作動	25
エンジンを始動して	メータ・ランプ類の作動	25
	安全装置の作動	25
	異常音・異常振動等の有無	－
燃料の補給	燃料の点検と補給	27
	燃料キャップのゆるみ	27

給油(水)一覧表

給油（水）項目	容量（L）	備考
燃料	20.0	ディーゼル軽油
冷却水(ラジエータ)	3.3	清水又はクボタ不凍液(50％)
冷却水(リザーブタンク)	0.3	
エンジンオイル	3.0 (オイルゲージ上限全量，フィルタ部もむ。)	クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30
PTOギヤケース	0.6	クボタ純オイル
ミッションオイル	5.7	スーパーUDT又はバイオスーパーUDT
後車軸デフケース	1.5	クボタ純オイルスーパーUDT又はバイオ
後車軸ギヤケース（右，左）	各0.4	スーパーUDT又はクボタ純オイルM80B
グリースの補給 ・リフトリンク支点部(右，左) ・シート調整部 ・推進軸(ユニバーサルジョイント) ・速度コントロールペダル軸のボス部（右，左） ・PTO駆動軸 ・後輪駆動軸 ・ナックルアーム(右，左)	適量	シャーシグリース
注油 ・速度調整ワイヤ(アクセルワイヤ) ・2WD・4WD切換えケーブル	適量	クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30

定期点検箇所一覧表 〔専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。〕

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	項目＼時期		積算時間計(アワメータ)表示時間							それ以後	参照ページ
			50	100	200	300	400	500	600		
1	エンジンオイル	交換	◎	○	○	○	○	○	○	100時間ごと	31
2	エンジンオイルフィルタ	交換	◎		○		○		○	200時間ごと	33
3	ミッションオイル	交換			◎		○		○	200時間ごと	34
4	ミッションオイルフィルタ	交換	◎		○		○		○	200時間ごと	34
5	ミッションストレーナ	洗浄			◎		○		○	200時間ごと	35
6	後車軸デフケースオイル	交換			◎		○		○	200時間ごと	36
7	後車軸ケースオイル	交換			◎		○		○	200時間ごと	36
8	後車軸支点	調整					○			400時間ごと	38
9	グリースの補給	—	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	27,28
10	バッテリ電解液	点検	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	29
11	エアクリーナエレメント	清掃	○	○	○	○	○	○	○	*50時間ごと	30
		交換								1年ごと	38
12	燃料フィルタ	点検		○	○	○	○	○	○	100時間ごと	32
		交換					○			400時間ごと	38
13	ラジエータホースと締付けバンド	点検			○		○		○	200時間ごと	36
		交換								2年ごと	40
14	油圧ホース	点検			○		○		○	200時間ごと	37
		交換								2年ごと	40
15	燃料パイプ	点検			○		○		○	200時間ごと	37
		交換								2年ごと	40
16	ラジエータ	洗浄								1年ごと	39
17	ラジエータコア	清掃		○	○	○	○	○	○	100時間ごと	32
18	冷却水	交換								1年ごと	38
19	ファンベルト	調整		○	○	○	○	○	○	100時間ごと	32
20	ブレーキ	調整		○	○	○	○	○	○	100時間ごと	33
21	燃料系統の空気抜き	—								必要に応じて	40
22	ヒューズ類	交換									40,41
23	ランプ類	交換									41

重 要

＊◎は初回必ず行なってください。

＊＊はホコリの多いところで作業したときは，毎日行ってください。
通常のコンディションでは100時間ごとに清掃してください。

＊バッテリ電解液は年間使用時間が50時間以内の場合，1年ごとに点検を行なってください。

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル	ギヤオイル
日石三菱	クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30	クボタ純オイル スーパーUDT　又は バイオスーパーUDT	クボタ純オイルM80B
コスモ石油			
ジャパンエナジー			
昭和シェル石油			
富士興産			

■グリース

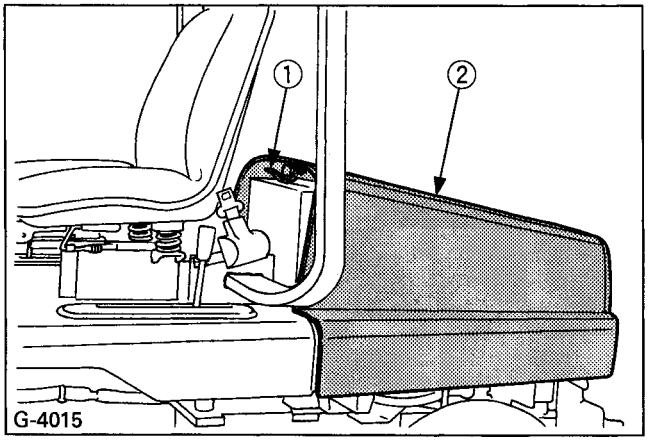
メーカ	グリース	
	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日石三菱	エビノックグリースAPNo 2	PAN WBグリース
コスモ石油	ダイナマックスEPNo 2	ロードマスターNo 2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEPNo 2	リゾニックスグリースNo 2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo 2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソ石油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出光興産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
ゼネラル石油	シャーシグリースNo 2	WBグリースNo 2
キグナス石油	シャーシグリースNo 2	MPグリースNo 2

ボンネットの開閉

注 意

＊エンジン回転中は絶対にボンネット又はエンジンスライドカバーを開けないでください。
＊マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。

■ボンネットの開閉



①ボンネットロックレバー
②ボンネット

❶ボンネットを開けるときは，ボンネットロックレバーを引き上げ，ボンネットを開けてください。
❷ボンネットを閉めるときは，ボンネットを閉め，ボンネットのロックが確実になっているか確認してください。

日常点検

注 意

＊火気厳禁
＊点検をするときは，必ずエンジンを停止し作業機を降ろしてから行なってください。
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊フロントモーアは常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹き出してヤケドをすることがあります。
＊エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部が十分に冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

1. 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

2. フロントモーアの回りを歩いて

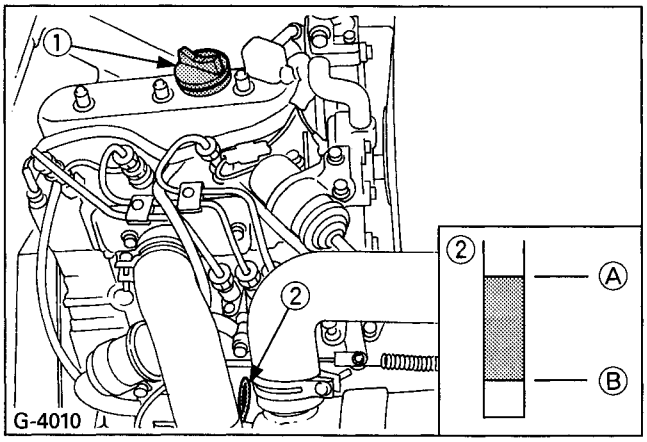
1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

■エンジンオイルの量及び汚れ

注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

❶オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**“下限と上限の間”**にオイルがあるかを調べます。
❷**“下限”**以下の場合は補給してください。ただし，**“上限”**以上には入れないでください。



①給油口　　Ⓐ“上限”
②オイルゲージ　　Ⓑ“下限”

重 要

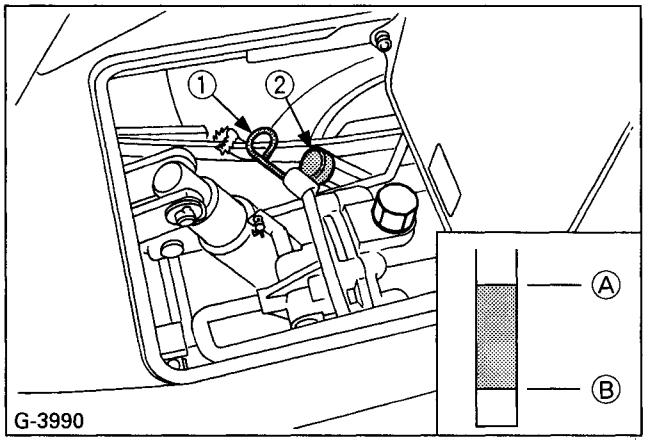
＊点検するときは，フロントモーアを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■ミッションオイルの量及び汚れ

注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

❶フロントモーアを水平な場所に置いて，作業機を下げて確認してください。
❷ミッションケース前のオイルレベルゲージを見て，確認してください。
❸オイルが見えない場合は補給してください。
ただし，規定以上は入れないでください。



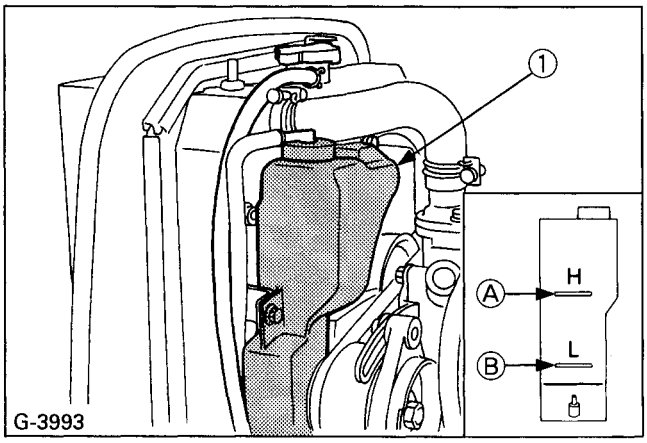
①オイルゲージ　　Ⓐ“上限”
②給油口　　Ⓑ“下限”

■冷却水の量

注 意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**“HからLの範囲”**であれば正常です。冷却水が**“L”**以下の場合は，**“H”**のレベルまで補給してください。**“H”**以上は入れないでください。



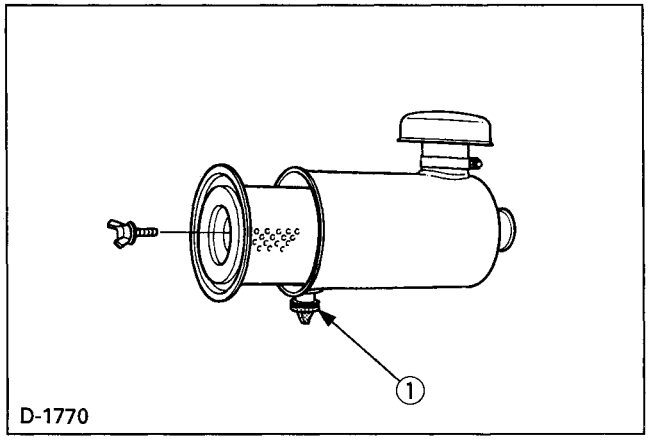
①リザーブタンク　　Ⓐ“H”
Ⓑ“L”

補 足

＊ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

■エバキュエータバルブの清掃

エバキュエータバルブを開き，ゴミを取除いてください。
水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。



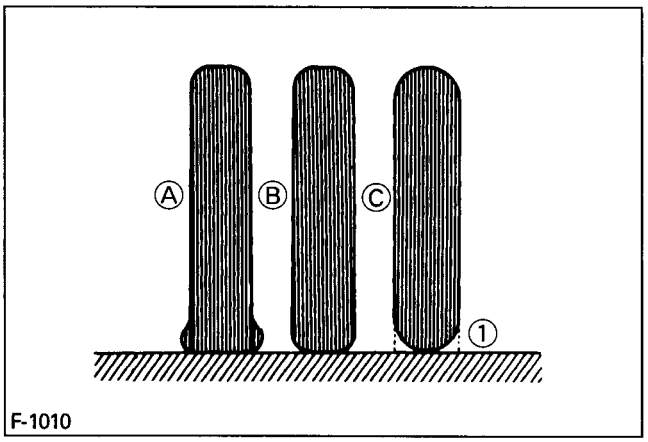
①エバキュエータバルブ

■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

警 告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
規定圧力以上に空気を入れると，タイヤが破裂し死傷事故のおそれがあります。
＊パンク修理などでタイヤ，チューブを脱着する作業には特別な技能と器具が必要です。
自分で行なおうとしないで，必ず購入先にご相談ください。

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。



①接地面

Ⓐ空気が不足
Ⓑ標準
Ⓒ空気が多い

◆標準空気圧

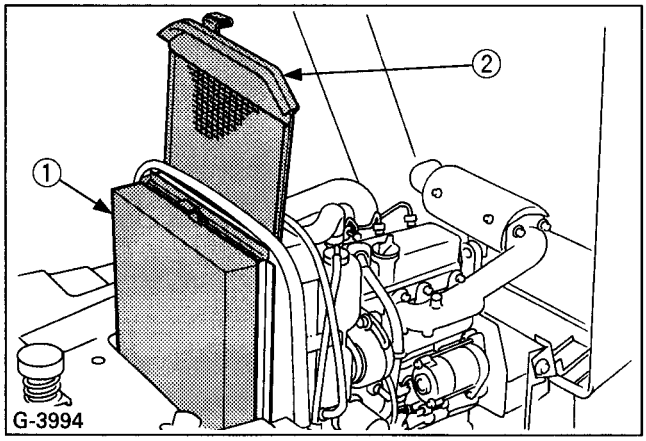
	タイヤ	空気圧 kPa(kgf/cm²)
前輪	20×10.00－8, 4PR	140(1.4)
後輪	16×6.50－8, 4PR	200(2.0)

■防じん網の清掃

注 意

＊エンジンを必ず停止して清掃してください。

草刈り作業中，防じん網に枯草・草の実やこん虫が付着し詰まることがありますので，こんなときは防じん網を清掃してください。



①防じん網(パネルスクリーン)
②防じん網(ラジエータスクリーン)

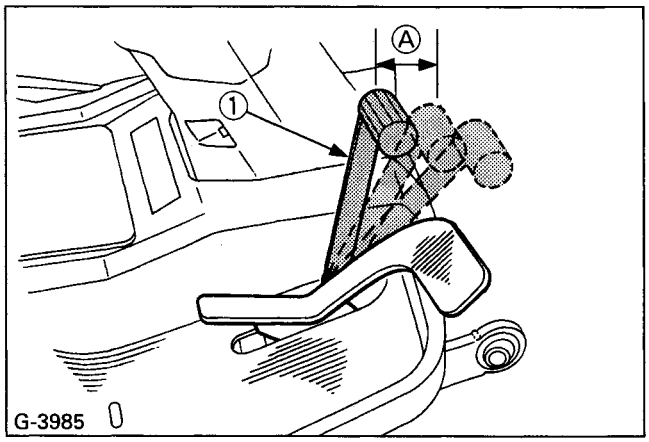
3. シートに座って

■ブレーキペダルの遊び・点検

警 告

＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

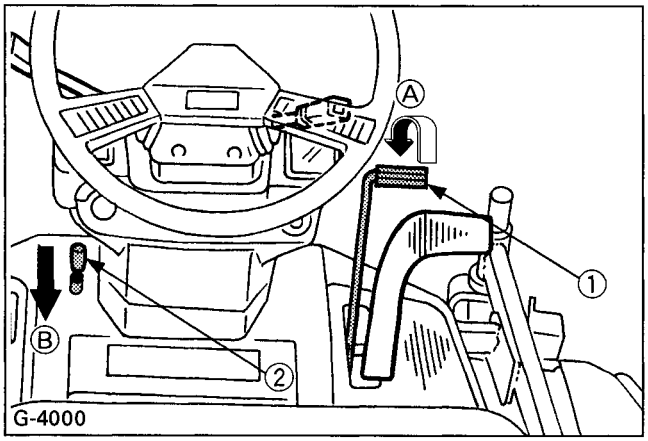
ペダルを踏んで遊び量が**“20～60㎜”**かどうかを調べます。
（調整のしかたは**“100時間ごとの点検・整備”**の**“ブレーキペダルの点検・調整”**の項を参照）



①ブレーキペダル　　Ⓐ“遊び”

■駐車ブレーキの作動点検

ブレーキペダルを踏込み，駐車ブレーキレバーを**“後方に引い“**たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。
外すときは，ペダルを踏込めば外れます。

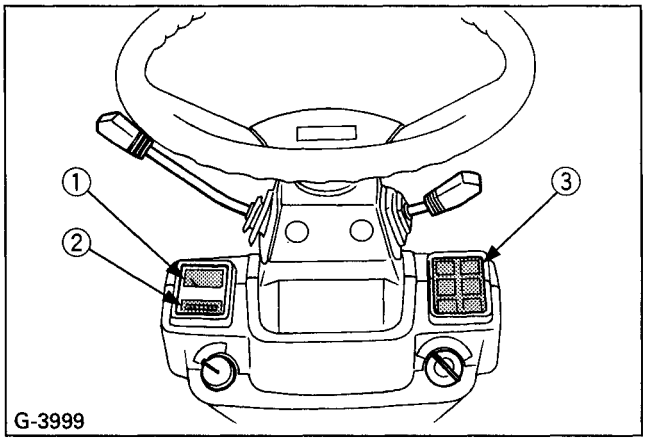


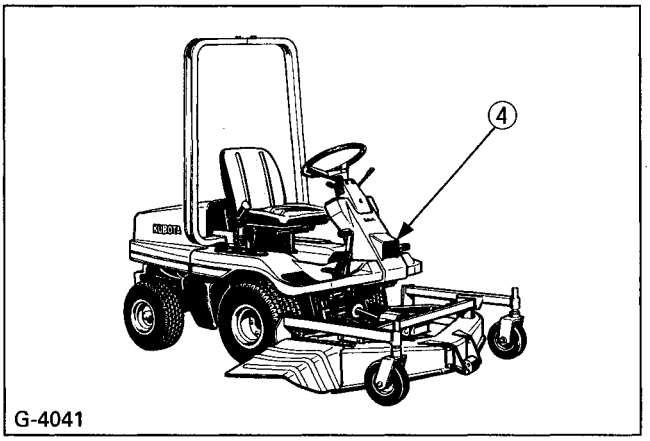
①ブレーキペダル　　Ⓐ“踏み込む”
②駐車ブレーキレバー　　Ⓑ“後方に引く”

4. エンジンを始動して

■メータ・ランプ類の作動

下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。
①水温計
②積算時間計（アワメータ）
③イージーチェッカ
④ヘッドランプ





■安全装置の点検方法

◆安全装置

安全装置は運転者を運転時の事故やけがから守るためのものですので，必ず，点検を行なってください。
毎日作業前には，次の点検項目に従って点検するようにしてください。

注 意

＊点検中は，機械のそばに人を近寄らせないでください。
＊点検で，不具合が見つかった場合は，運転を行わないですぐに，お買い求めいただいた購入先に連絡してください。
＊点検1以外はシートに座って，点検を行なってください。
＊点検は平らで，障害物が近くにない広い場所で行なってください。

◆点検

点検を始める前に，PTOレバー，速度固定レバーが**“切”**，速度コントロールペダル(HSTペダル)が**“中立”**，油圧昇降レバーが**“下げ”**の位置にあることを十分確認してください。また，点検の前に点検方法を良く読み，十分理解してから行なってください。

点検1

1. 駐車ブレーキを解除してください。
2. 足元に注意して，フロントモーアの横に立ち，ブレーキペダルには触らずエンジンを**“始動”**させてください。
3. エンジンが**“始動”**しないことを確認してください。

点検2

1. シートに座って，駐車ブレーキを解除してください。
2. ブレーキペダルは踏まずに，PTOレバーを**“切”**の位置にしてください。
3. エンジンを**“始動”**させてください。
4. エンジンが**“始動”**しないことを確認してください。

点検3

1. シートに座って，駐車ブレーキを解除してください。
2. ブレーキペダルは踏まずに，PTOレバーを**“切”**の位置にしてください。
3. 速度コントロールペダル(HSTペダル)を前進側に踏み込んでください。
4. エンジンを**“始動”**させてください。
5. エンジンが**“始動”**しないことを確認してください。

点検4

1. シートに座って，ブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
2. PTOレバーを**“入”**の位置にしてください。
3. エンジンを**“始動”**させてください。
4. エンジンが**“始動”**しないことを確認してください。

点検5

1. シートに座って，駐車ブレーキをロックしてください。
2. エンジンを**“始動”**させてください。
3. PTOレバーを**“入”**の位置にしてください。
4. シートから立ち上がってください。
5. エンジンが**“停止”**することを確認してください。

補 足

＊不具合がある場合は，運転をしないで，すぐにお買い上げいただいた購入先に連絡してください。

5. 燃料の補給

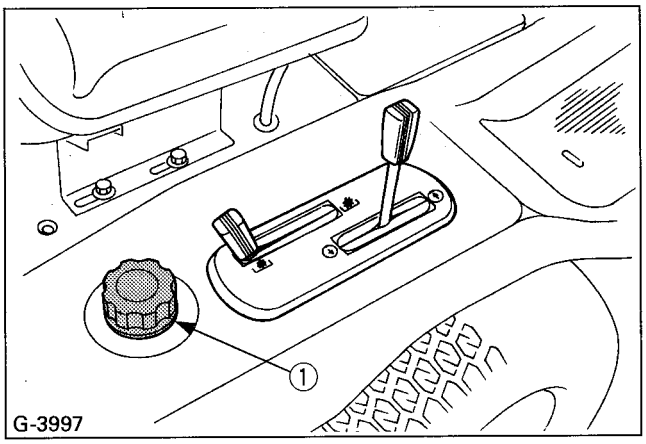
注 意

＊燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊火気厳禁。

燃料には，**“ディーゼル軽油”**を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　　類	ディーゼル軽油の流動点(℃)
特　1　号	+5以上
1　　号	0及び−5
2　　号	−10
3　　号	−15及び−20
特　3　号	−25及び−30

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。



①給油口

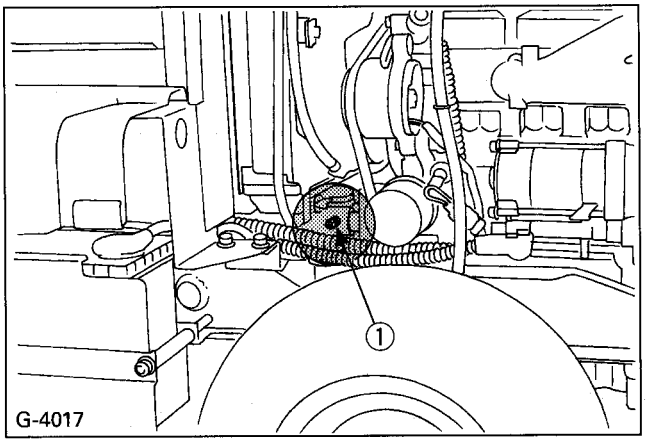
重 要

＊燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，注意してください。
＊燃料キャップの空気穴が土やゴミでふさがれていないか点検してください。
＊燃料キャップが締まっているか確認してください。

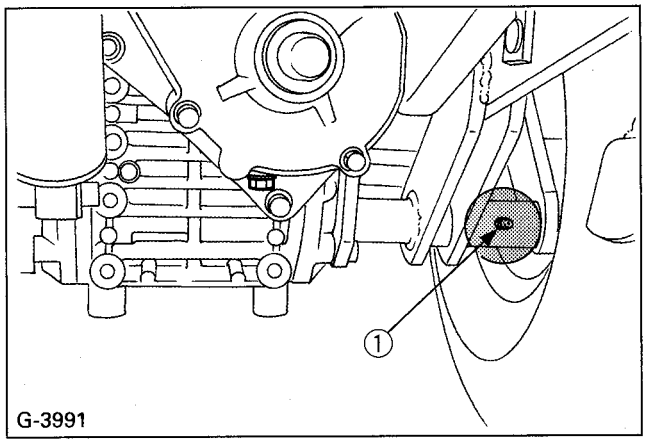
50時間ごとの点検・整備

■グリースの補給

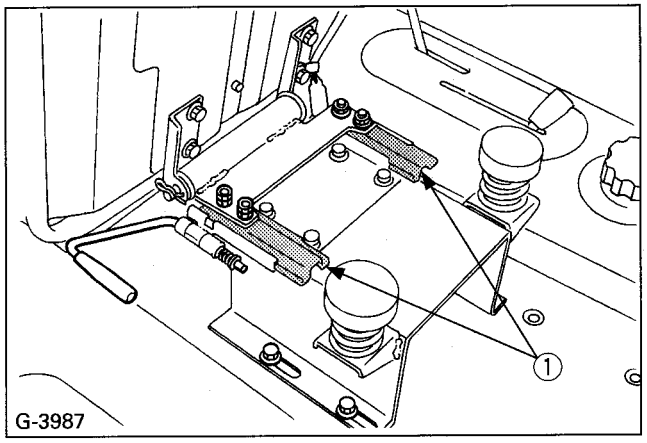
水はけが悪く，ぬかるんだほ場などで泥水の中に入ったときは，1日の作業が終わったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは，**“クボタ推奨グリース”**を使用してください。(**“推奨オイル・グリース一覧表”**の項を参照)



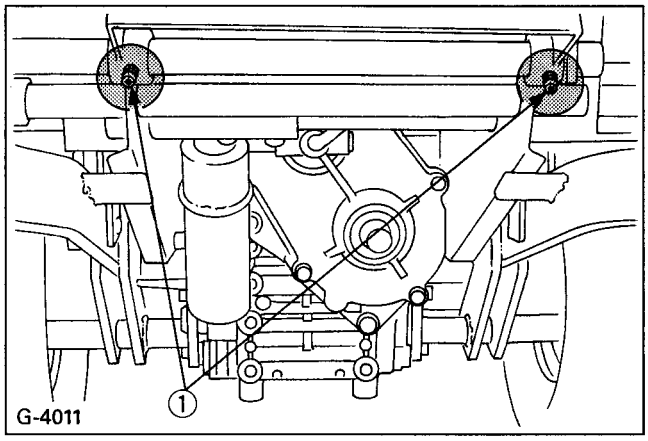
①推進軸(ユニバーサルジョイント)



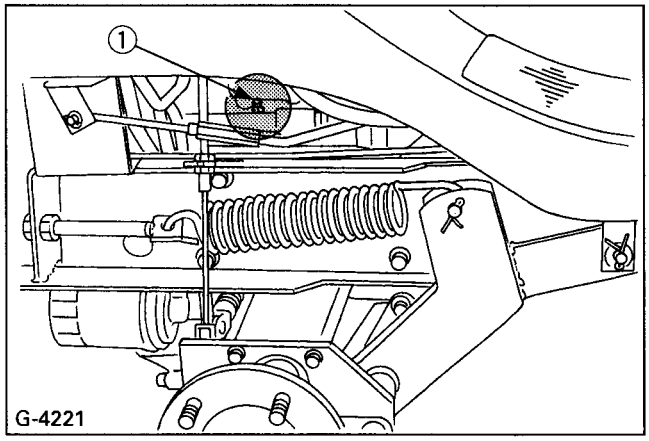
①リンク支点



①シート調整部



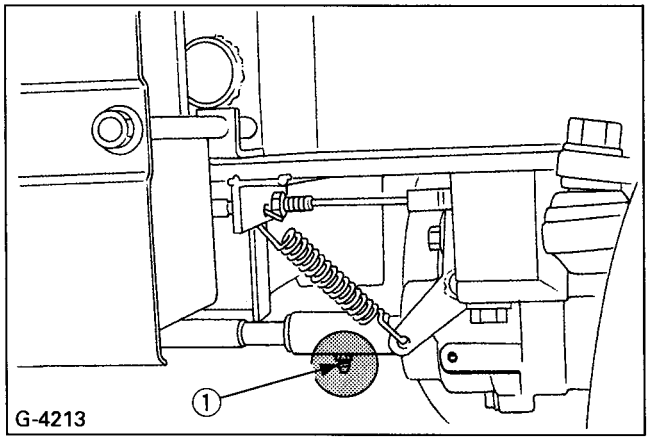
①速度コントロールペダル軸



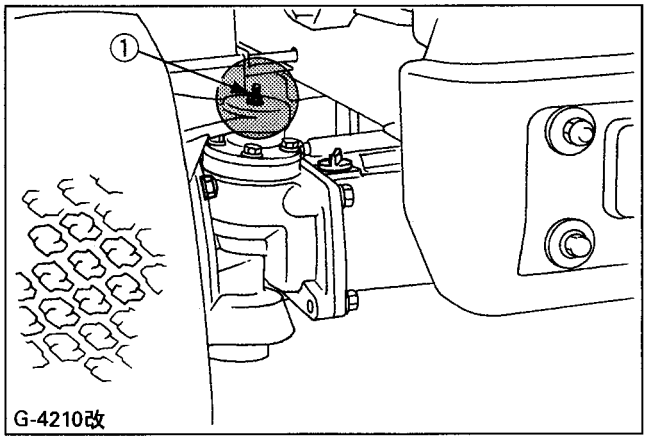
①PTO駆動軸

補　足

＊PTO軸にグリースを注入しやすくするために，あらかじめタイヤを右に向けておいてください。



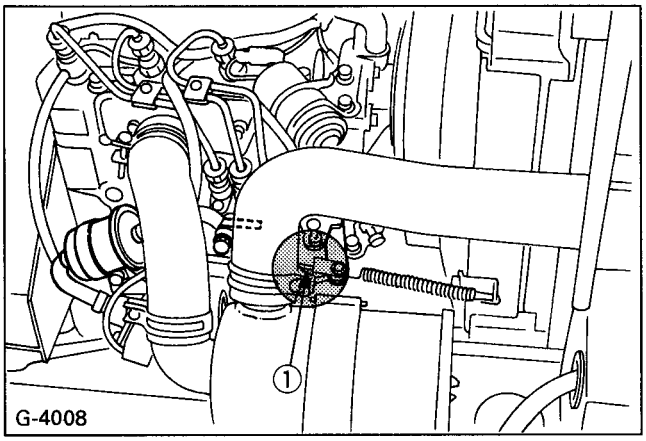
①後輪(DT)駆動軸



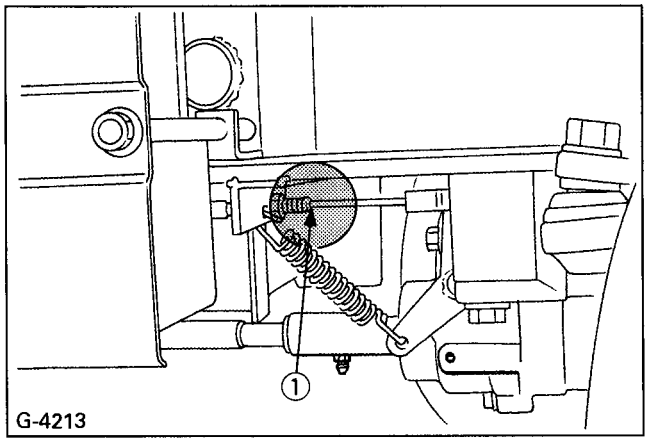
①ナックルアーム

■注油

洗車のあとやほこりの多いほ場などで作業したあとは，1日の作業が終わったあと，必ず注油しておきましょう。オイルは**“クボタ推奨オイル”**を使用してください。(**“推奨オイル・グリース一覧表”**の項を参照)



①速度調整ワイヤ(アクセルワイヤ)



①2WD・4WD切換えケーブル

■バッテリ電解液の点検

危 険

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの2種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。

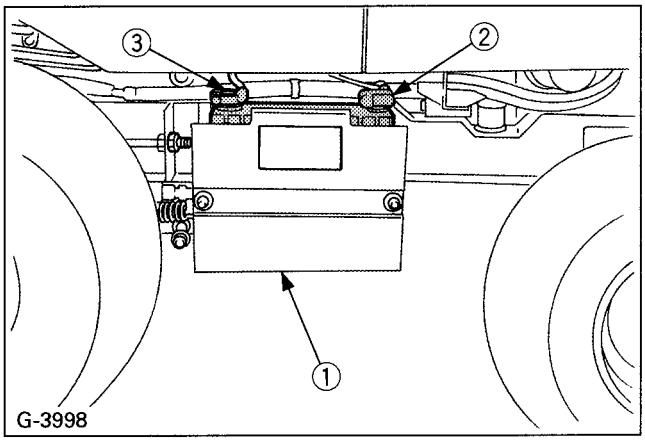
＊バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

警 告

＊バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。
状況により医師の診断を受けてください。
＊バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止してください。
＊バッテリを取外すときは，短絡(ショート)事故を防ぐため，最初にバッテリ⊖コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ⊖コードを接続してください。
＊子供がバッテリをさわらないよう十分注意してください。

◆バッテリ液の点検

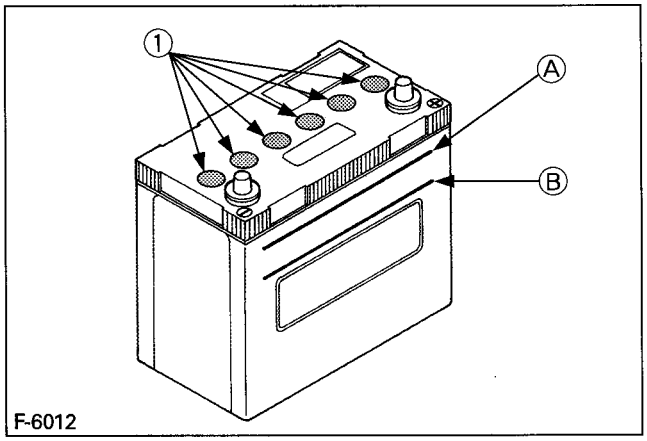
バッテリはMF(メンテナンスフリー)バッテリを使用していますので従来品に比べ，液の減り具合がきわめて少なくなっていますが側面に2本の線(レベル)があり，その間に液面があればよく，少ないときは上側の線(レベル)まで蒸留水を補給してください。



①バッテリ
②⊕コード
③⊖コード

◆補水のしかた

❶バッテリ上フタの補水キャップを外します。
❷6個の補水穴から蒸留水を均一に上側の線(レベル)まで補水します。
❸キャップを元の穴にねじ込みます。



①補水キャップ　　Ⓐ"上限"
Ⓑ"下限"

◆バッテリの取付け，取外し

警 告

＊バッテリを取外すときは，バッテリ⊖コードを最初に外し，次に⊕コードを外してください。
＊取付けるときは，必ず⊕側から取付けます。
逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重 要

＊バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式〔50B24L(S)-MF〕のバッテリを使用してください。
＊バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの⊕，⊖のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆補充電のしかた

警　告

＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。
2. バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。
   コードの接続をまちがわないように注意してください。

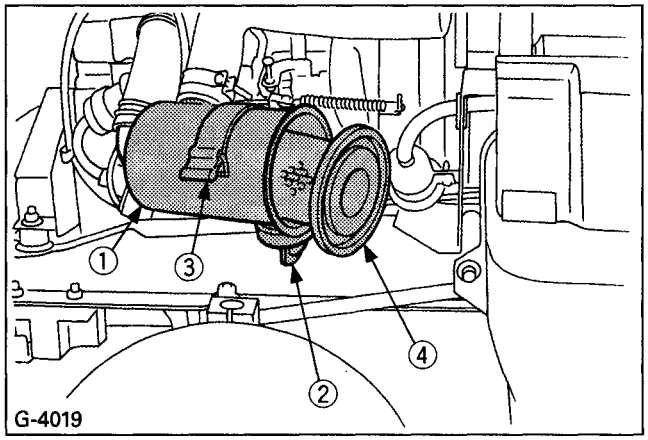
■エアクリーナエレメントの清掃

◆エレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアで吹き飛ばしてください。(エアの圧力は205kPa(2.1kgf/cm²)を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。)

◆エレメントの交換

エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。



①エレメント
②エバキュエータバルブ
③エアクリーナバンド
④エアクリーナエレメント

重　要

＊エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊エレメントをたたいて変形させないでください。
変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。
変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。

◆エバキュエータバルブの清掃

エバキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

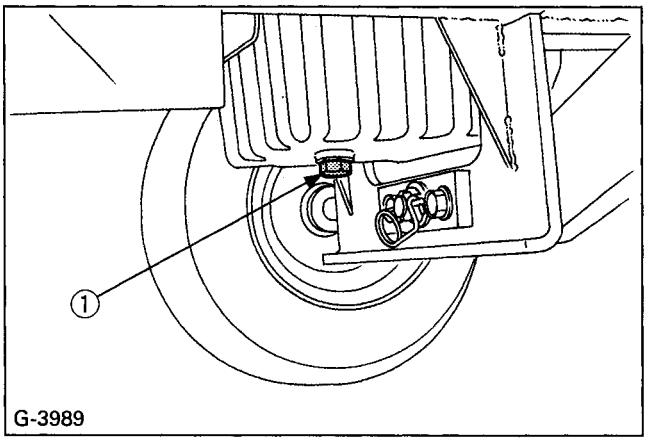
100時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換

注 意

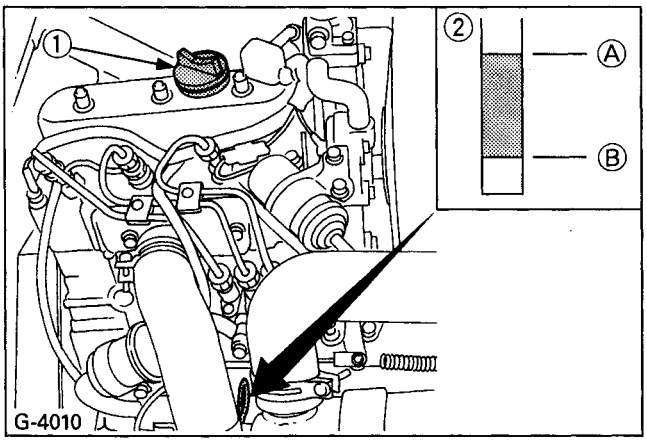
＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。ただしヤケドに注意してください。



①ドレーンプラグ

❷エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと給油がしやすくなります。



①給油口　　Ⓐ“上限”
②オイルゲージ　　Ⓑ“下限”

重 要

＊今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度No.の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。
注ぎ足し使用は絶対しないでください。

＊気温により次のように使いわけてください。

15℃以下	D10W30(オールシーズン用)
15℃以上	D30，又はD10W30

＊冬期は必ずD10W30を使用してください。

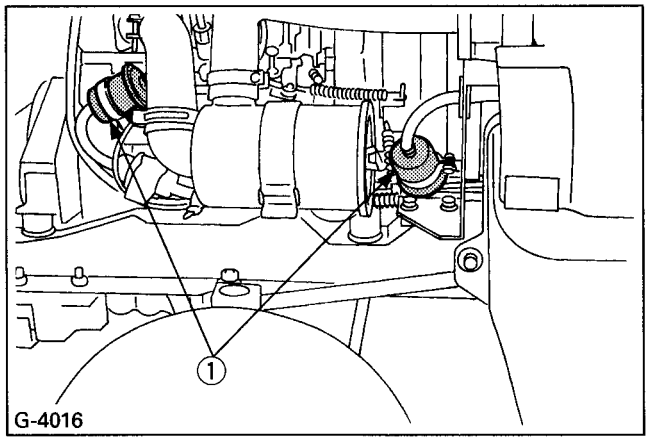
■燃料フィルタの点検・交換

燃料が満タンに近い場合はカップを外したとき，燃料戻りチューブからフィルタに燃料が逆流します。
フィルタ交換の作業は，燃料タンクの燃料が半分以下のときに実施してください。

❶フィルタを点検してください。
❷フィルタが黒ずんでいたら，新しいフィルタと交換します。

重　要

＊組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊フィルタ交換後は，必ず空気抜きをしてください。
（**“必要に応じた点検・整備”の“燃料の空気抜きのしかた”**の項参照）



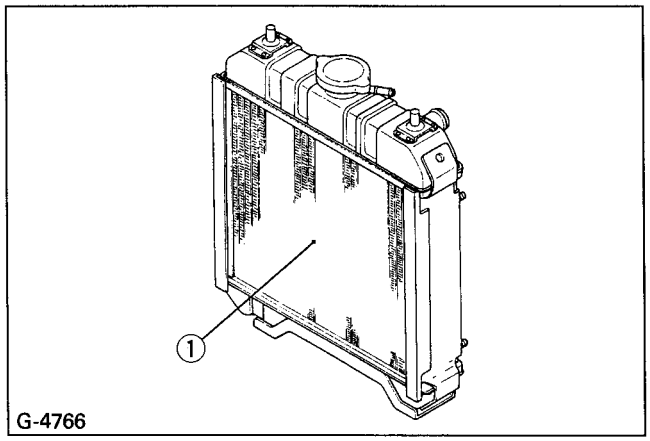
①燃料フィルタ

■ラジエータコアの清掃

注　意

＊必ずエンジンを停止してから，清掃してください。

ラジエータコアにホコリ・刈草等が付着して詰まることがありますので，定期的にコンプレッサのエアを吹きつけて清掃してください。



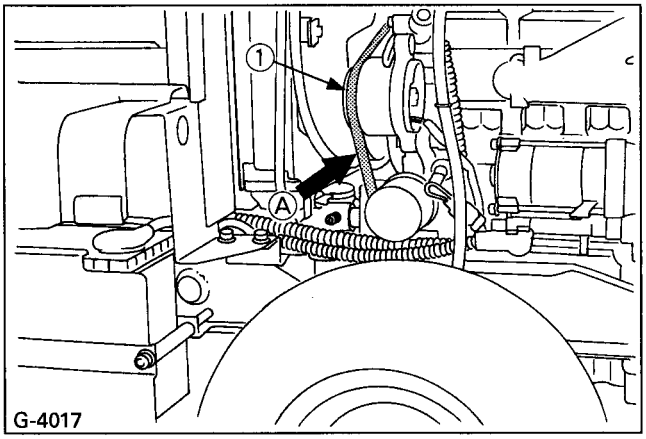
①ラジエータコア

■ファンベルトの点検・調整

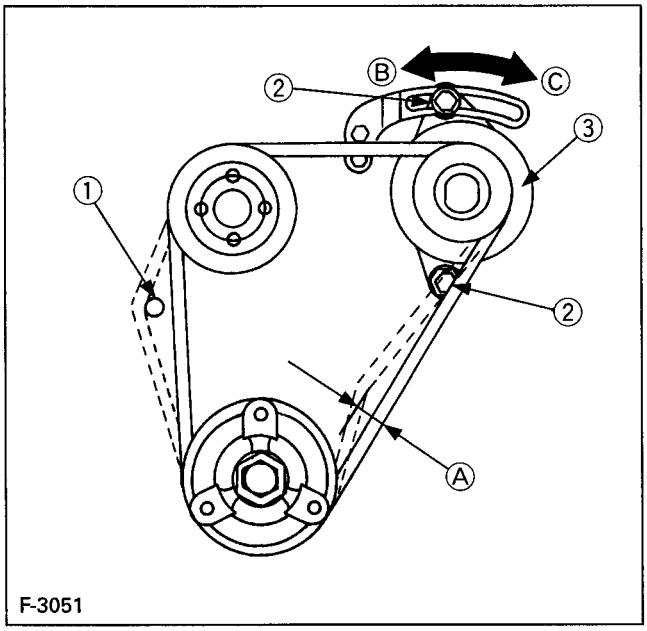
適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約98N(10kgf)の力で抑えて，約10㎜たわむ程度

◆調整方法

❶ダイナモを取付けているボルト・ナットをゆるめて，ダイナモを動かして調整します。
❷調整後はボルト・ナットを確実に締付けておいてください。



①ファンベルト　　Ⓐ押す



①キャップ　　Ⓐたわみ(約10㎜)
②ボルト及びナット　　Ⓑ“ゆるみ”
③ダイナモ　　Ⓒ“張る”

重　要

＊ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
＊ベルトにき裂やはがれがあれば交換してください。

補　足

＊ファンベルトを交換するときは，ウォータポンプのキャップに，ベルトがかからないよう注意してください。

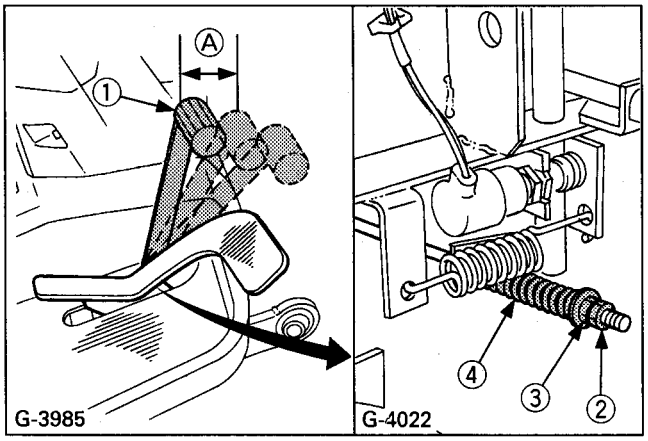
■ブレーキペダルの点検・調整

警 告

＊点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。
＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。
常に作動状態に注意してください。

適正遊び量	ペダルで20～60mm

◆調整方法



①ブレーキペダル　　Ⓐ"遊び"
②ロックナット
③ナット
④スプリング

❶駐車ブレーキを解除します。
❷ロックナットをゆるめブレーキロッドで，ペダルの遊びを調整します。
❸調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。
❹駐車ブレーキロックが確実に作動するか確認してください。

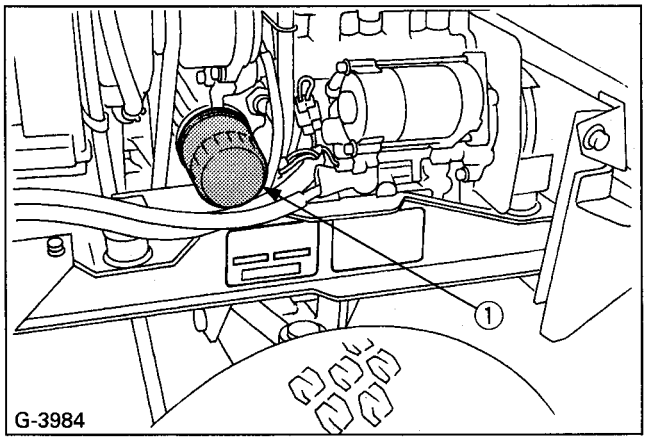
200時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

注 意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

オイルフィルタは，カートリッジタイプです。
このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。



①エンジンオイルフィルタカートリッジ

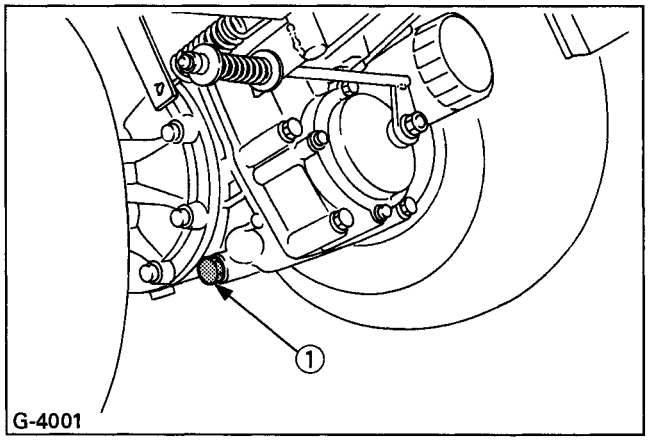
❶フィルタレンチでフィルタを取外します。
❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❸エンジンオイルを規定量まで補給します。
❹約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
❺再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。

■ミッションオイルの交換

注 意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

❶ドレーンプラグを外してオイルを抜きます。

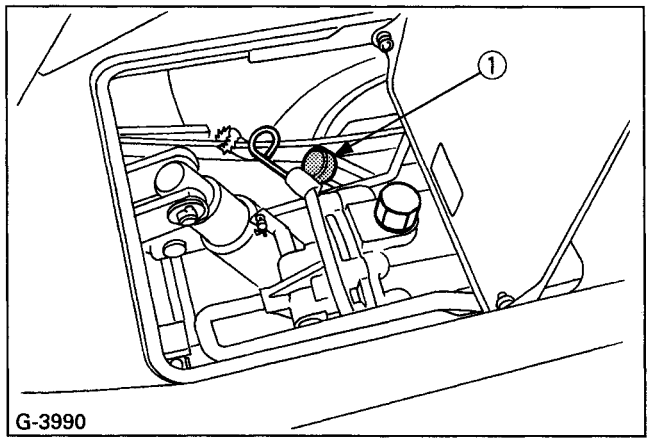


①ドレーンプラグ

補 足

＊給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。

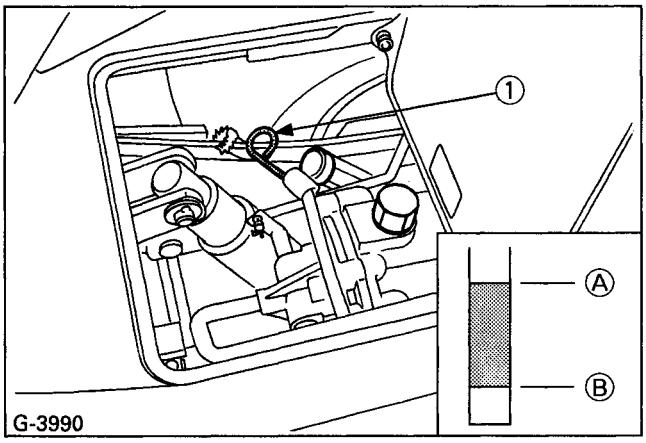
❷給油口からミッションオイルを規定量入れてください。



①給油口

❸約５分間運転し，ドレーンプラグを締付けた所より油漏れがないか確認し，エンジンを停止します。

❹一度オイルゲージの油を拭き取り再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給します。
作業機付の場合は,作業機を下げて確認してください。



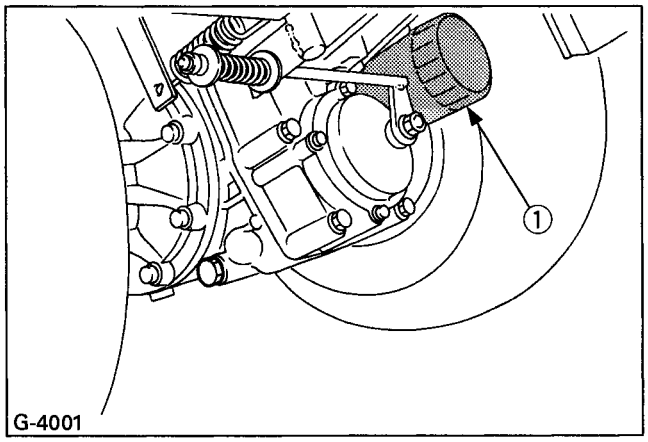
①オイルゲージ　　Ⓐ“上限”
Ⓑ“下限”

■ミッションオイルフィルタカートリッジの交換

注 意

＊交換するときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。



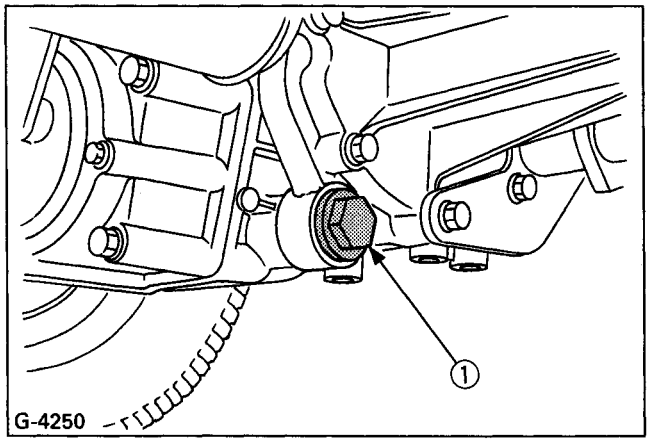
①ミッションオイルフィルタカートリッジ

❶ミッションオイルを抜きます。
❷フィルタレンチでフィルタを取外します。
❸新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❹ミッションオイルを規定量まで補給します。
❺約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
❻再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。

■ミッションストレーナの洗浄

トランスミッションオイル交換時は，ミッションストレーナを取外して，灯油で十分洗浄してください。
組付時は，ストレーナにダメージを与えないよう十分注意してください。

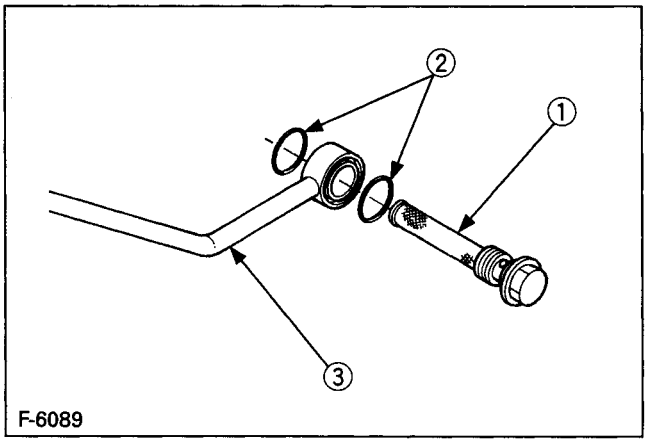
❶ミッションオイルを抜いた後，ミッションストレーナを取外します。



①ストレーナ

❷ミッションストレーナを灯油で洗浄します。

❸組付けは，吸入パイプ両側のOリングにオイルを薄く塗布してから，ミッションストレーナを確実に取付けます。



①ストレーナ
②Oリング
③吸入パイプ

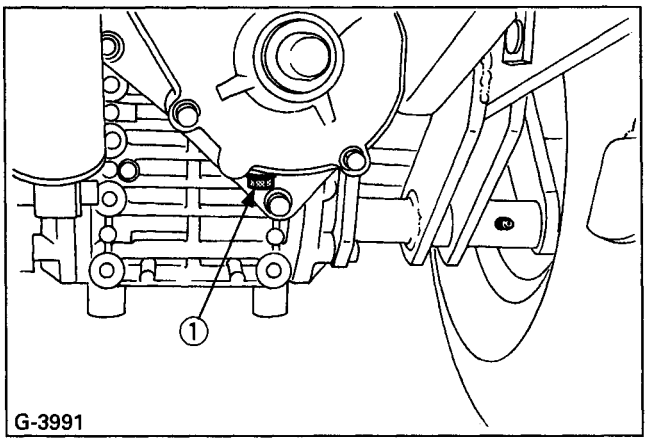
❹ミッションオイルを規定量まで補給します。

❺約５分間運転し，ミッションストレーナを締付けた所より油漏れがないか又は空気を吸い込んでいないか確認し，エンジンを停止します。

❻再びオイルレベルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。

■PTOギヤケースオイルの交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。



①ドレーンプラグ

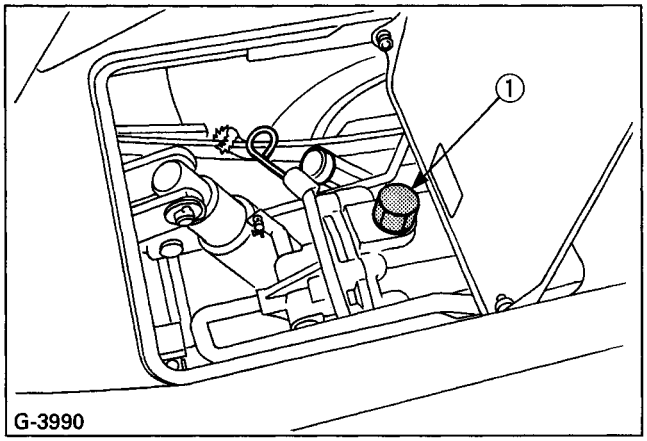
補　足

＊給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。

❷ドレーンプラグを締めます。

❸給油口からミッションオイルを規定量いれてください。

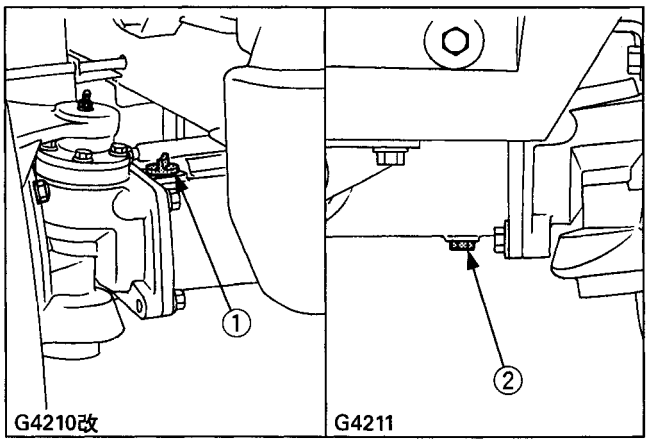
❹給油プラグを確実に締めてください。



①給油口

■後車軸デフケースオイルの交換

❶ドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを抜きます。(左右とも)
❷ドレーンプラグを締めます。(左右とも)
❸給油口から新しいオイルを規定量入れてください。
❹給油プラグを確実に締めてください。



①給油口
②ドレーンプラグ

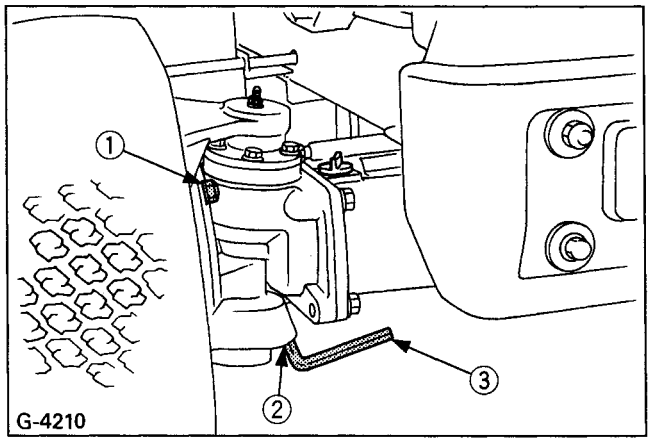
■後車軸ケースオイルの交換

❶ドレーンプラグ，空気抜きプラグと給油プラグを外してオイルを抜きます。
❷ドレーンプラグを締めます。
❸給油口からミッションオイルを規定量入れてください。

重　要

＊オイルが左右のケースに充満するまで時間がかかります。
給油の約10分後，給油プラグを差込み油面を点検し，不足していれば補給します。

❹給油プラグを確実に締めてください。



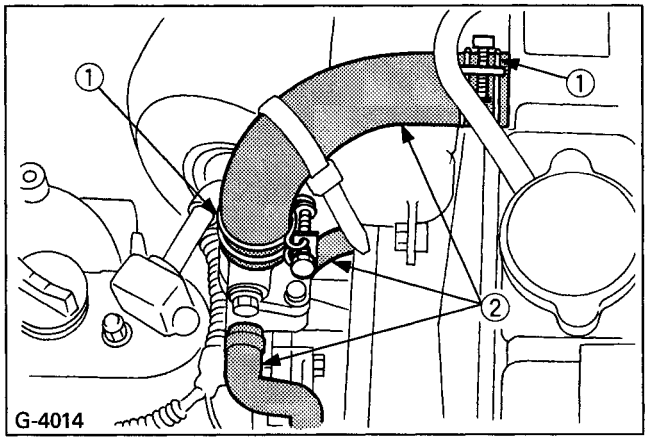
①給油口
②ドレーンプラグ(左・右)
③六角レンチ

■ラジエータホースと締付けバンドの点検・交換

注　意

＊ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に2年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。



①締付けバンド
②ラジエータホース

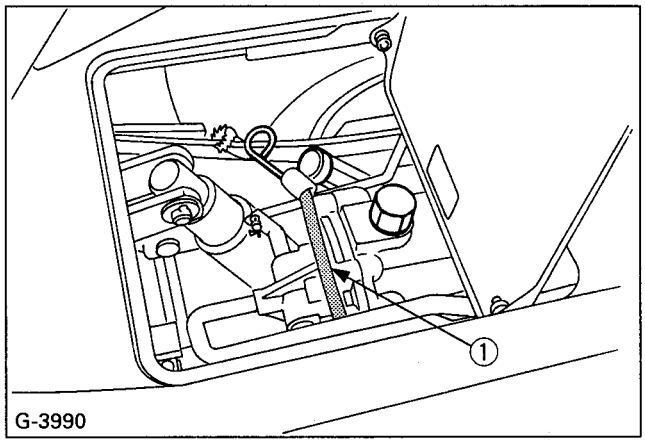
■油圧ホースの点検・交換

注 意

＊ホース類の傷みや締付け金具のゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
油もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。
＊ホース類の交換は，必ずエンジンを止め，駐車ブレーキを掛け，作業機を降ろしてから行なってください。
＊油圧回路の油が十分冷えてから，交換作業をしてください。

油圧ホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付け金具と共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

1. ホース類や締付け金具がゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。
2. もしホース類や金具が傷んでいたら，すぐに交換してください。



①油圧ホース(昇降シリンダ)

重 要

＊交換時にホースやシリンダなどにゴミが入らないように注意してください。
ゴミが入ると，油圧機器の作動不良の原因になります。

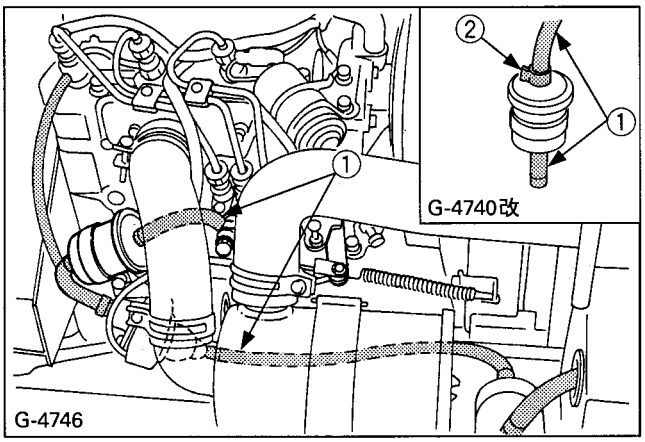
■燃料パイプの点検・交換

注 意

＊パイプ類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。
＊パイプ類の交換は，必ずエンジンを止め，駐車ブレーキを掛け，作業機を降ろしてから行なってください。
＊エンジンが十分冷えてから，交換作業をしてください。もれた燃料が火災の原因になります。
＊燃料が満タンに近い場合は，燃料パイプを外したとき，パイプから燃料がもれだすことがあり危険です。パイプ類を交換するときは，燃料が半分以下のときに実施してください。

燃料パイプなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

1. パイプ類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。
2. 燃料パイプを交換した場合は，必ず空気抜きをする必要があります。
(**“必要に応じた点検・整備”の“燃料の空気抜きのしかた”**の項を参照)



①燃料パイプ
②締付けバンド

重 要

＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。
ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

400時間ごとの点検・整備

■後部デフケース前後遊びの調整

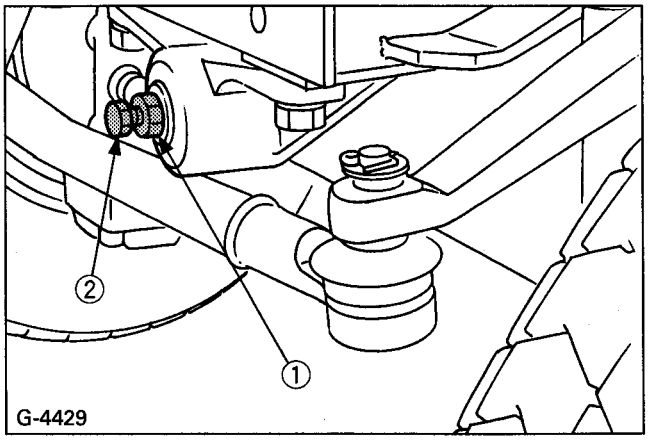
後部デフケース支持部の調整が悪いと，後輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

◆調整

後輪タイヤ(両輪)を持上げて，ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込み，ガタを調整します。



①ロックナット
②調整ボルト

■燃料フィルタの交換

燃料フィルタは，1年使用後に交換が必要です。
(**“100時間ごとの点検・整備”の“燃料フィルタの点検・交換”**の項を参照。)

1年ごとの点検・整備

■エアクリーナエレメントの交換

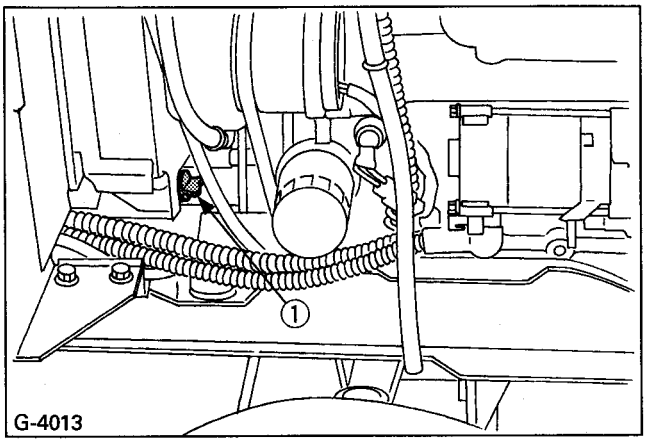
エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。
(**“50時間ごとの点検・整備”の“エアクリーナエレメントの清掃”**の項を参照。)

■冷却水の交換

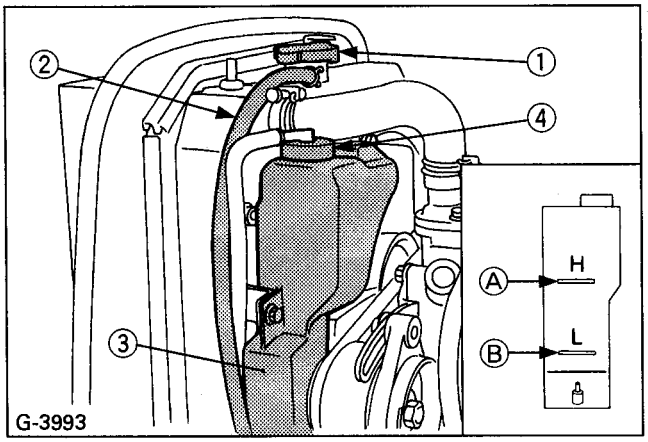
注 意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

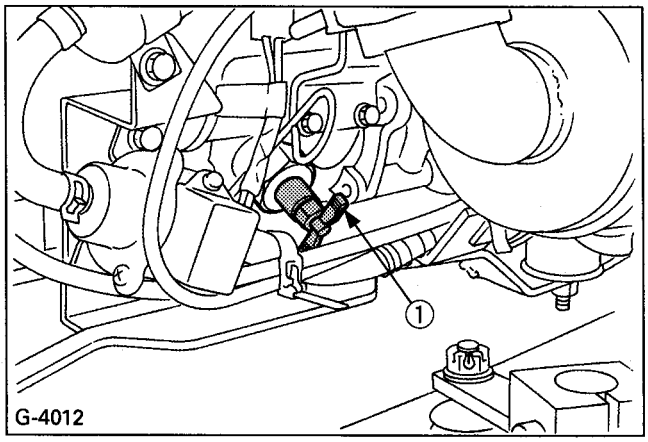
❶ラジエータ下側の排水コックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。
リザーブタンクの排水は，リザーブタンクを上方へ引き抜き排水します。



①排水コック



①ラジエータキャップ　Ⓐ“FULL”
②リザーブタンク　Ⓑ“LOW”



①ドレーンコック

❷水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックを締めオーバフローパイプを取付けます。

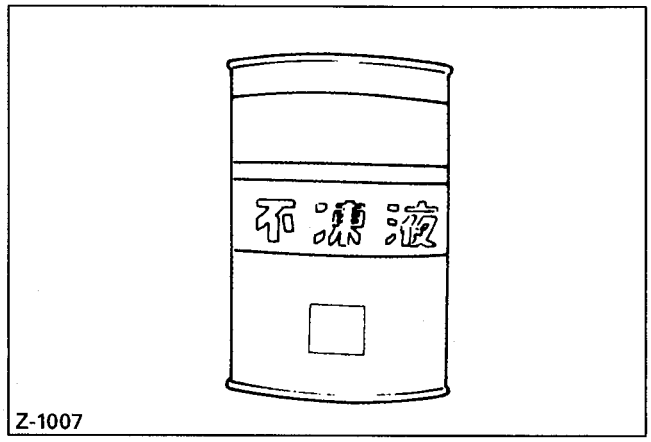
❸ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に締めてください。

◆不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

冬期気温が0℃以下になるようなときは，必ず不凍液(ロングライフクーラント)を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。

〔工場出荷時は，不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。〕



重 要

＊冷却水には，不凍液(ロングライフクーラント)を50%入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。

＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。

＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。

＊クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は2年間です。
必ず2年で交換してください。

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比 %	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度 ℃	−4	−5	−8	−11.5	−15	−20	−25	−30	−35	−40

■ラジエータの洗浄

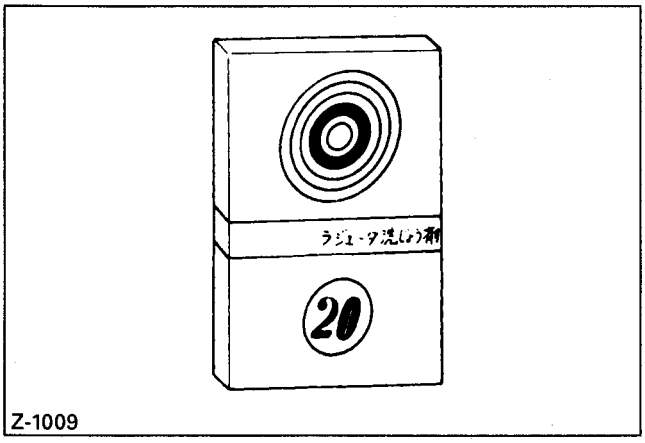
洗浄には，クボタラジエータ洗じょう剤No.20を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。

＊1年使用ごと

＊不凍液を混入するとき

＊不凍液混入から水だけに変えるとき

などに使用してください。



2年ごとの点検・整備

■ラジエータホースの交換

“200時間ごとの点検・整備”の“ラジエータホースの点検・交換”の項を参照ください。

■油圧ホースの交換

“200時間ごとの点検・整備”の“油圧ホースの点検・交換”の項を参照ください。

■燃料パイプの交換

“200時間ごとの点検・整備”の“燃料パイプの点検・交換”の項を参照ください。

必要に応じた点検・整備

■燃料の空気抜きのしかた

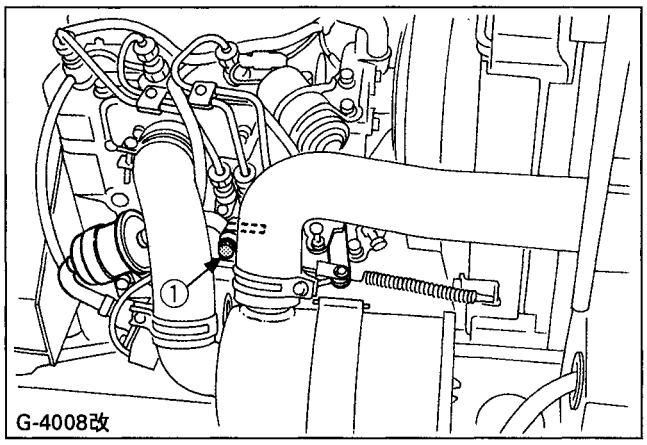
燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。

- ●燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- ●燃料切れが起きたとき
- ●フロントモーアを長時間使用しなかったとき

注 意

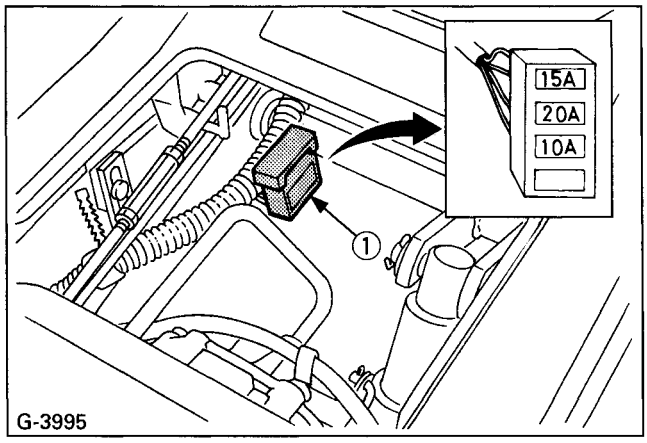
＊エンジンが熱いときは，空気抜きをしないでください。

❶燃料タンクに燃料を満たします。
❷エンジンを始動します。
❸空気抜きプラグをゆるめて，泡が消えるまで燃料を出した後，空気抜きプラグを締付けます。



①空気抜きプラグ

■ヒューズの交換



①ヒューズボックス

❶ヒューズボックスのふたを外す。
❷ヒューズを外す。
❸切れたものと同容量のヒューズと交換する。

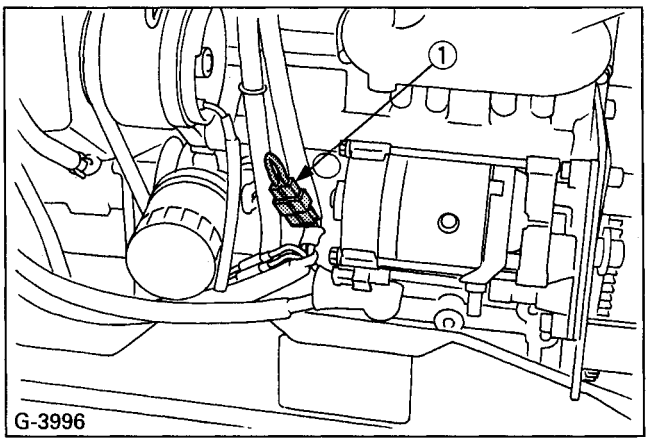
重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

補　足

＊フロントモーアに作業灯やラジオなどを取付けるときの電源取出しは，購入先にご相談ください。

■ヒュージブルリンクの交換



①ヒュージブルリンク

ヒュージブルリンクは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

■ランプ類の交換

1.ヘッドランプは，ランプのボディ後部からバルブを取出して交換します。
2.その他のランプ(オプション)
レンズを外し，バルブを交換します。

格　　納

注　意

＊エンジンが回っている状態で，機械の清掃を行なわないでください。

＊換気の不十分な所では，エンジンの運転は行なわないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。

＊格納時は，必ず“切”の位置でキーを抜いておいてください。

長期格納時の手入れ

フロントモーアを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し，2000回転／分以上で10～15分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
   その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
5. 冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
6. タイヤの空気圧は，標準より少し多いめにしてください。
7. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。
8. 作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
9. 前輪の前後に車止めをしておいてください。
10. 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
11. 格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。
12. 格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。

重　要

＊長期格納時，洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアークリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。

＊シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
火災を起こす原因になります。

不調と処置

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　象	原　因	処　置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない。	●燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を除く。 ●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に，空気や水が混入している。	●パイプ・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修する。 ●空気抜きをする。 (**"必要に応じた点検・整備"**の項を参照)
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	●ラジエータに熱湯をそそぐ。 ●気温によってオイルの使い分けをする。 (冬期はD10W30を使用)
	(4)バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	●バッテリを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。 ●燃料系統を調べる。(特に空気混入に注意)
	(2)燃料の流れ不足	●燃料フィルタの清掃をする。
	(3)エアクリーナの目詰まり	●エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。 ●燃料系統を調べる。(特に空気混入に注意)
	(2)燃料が流れない。	●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	(1)燃料が悪い。	●良質の燃料に交換する。
	(2)エンジンオイルの入り過ぎ	●正規のオイル量にする。
	(3)エアクリーナの目詰まり	●エレメントを清掃する。
水温計の指針がレッドゾーン付近を示すとき	(1)冷却水が125℃付近になったため。	●冷却水の量(不足)及び水漏れの点検 ●ファンベルトの張り(ゆるみ)の点検 ●フロントグリル，ラジエータの防じん網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない場合	(1)前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	●負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	(2)ノズル不良	●ノズルを点検する。
	(3)燃料不良	●良質の燃料に交換する。

●わからない場合は，購入先にご相談ください。

バッテリの不調と処置

バッテリの取扱いについては，バッテリに関する項目の注意事項を良く読んで十分注意してください。

現　象	原　因	処　置
スタータが作動しない場合	(1)ランプが暗くなるまでバッテリを使いすぎた。	●十分にバッテリを充電する。
	(2)バッテリが充電されていない。	
	(3)バッテリ端子の接触不良	●端子をきれいにして締付けボルト，ナットを締め直す。
	(4)バッテリの寿命	●バッテリを交換する。
スタータが作動しかけて止まったり，ランプがみるみるうちに暗くなる場合	(1)バッテリの充電が不十分	●十分にバッテリを充電する。
給水プラグをあけて電極を見ると白っぽく見える場合 ⚠警告 **＊火気厳禁，取扱い注意**	(1)バッテリ液(電解液)が不十分な状態で使用した。	●蒸留水を適量追加して，充電する。
	(2)充電せずにバッテリを使用した。	●十分にバッテリを充電する。
充電できない場合	(1)バッテリの寿命	●バッテリを交換する。
端子がひどく変色し，熱を持っている場合	(1)端子の締付けが不十分	●端子をきれいにして締付けボルト，ナットを締め直す。
バッテリ液が急に少なくなった場合	(1)バッテリに割れや，小さな穴が開いている。	●バッテリを交換する。

●わからない場合は，購入先にご相談ください。

本機の不調と処置

現　象	原　因	処　置
リフトリンクが動かない場合	(1)ストレーナが詰まっている。	●ストレーナを清掃する。
	(2)コントロールバルブが不良である。	●コントロールバルブを点検する。
スムーズに走行しない場合	(1)HSTの油圧オイルが不足している。	●オイルを補給する。
	(2)油圧オイルフィルタカートリッジが詰まっている。	●フィルタを交換する。
	(3)ストレーナが詰まっている。	●ストレーナを清掃する。
本機が動かない場合 (エンジンは回転している。)	(1)駐車ブレーキが効いている。	●駐車ブレーキを解除する。
	(2)ミッションオイルが不足している。	●ミッションオイルを補給する。
速度コントロールペダル(HSTペダル)を踏んでいなくても本機が動く場合 (エンジンは回転している)	(1)HST変速リンクの中立調整がくるっている。	●購入先に調整を依頼する。

●わからない場合は，購入先にご相談ください。

付　表

主要諸元

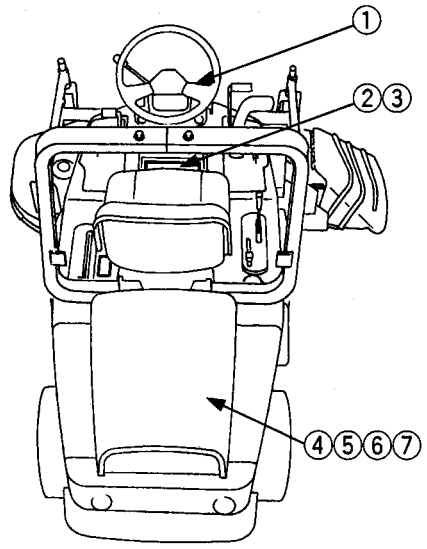
形式			GF1800
エンジン	名称		D722-FM
	形式		水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル
	シリンダ内径×行程		67㎜×68㎜
	総排気量L		0.719
	出力/回転速度 kW/rpm（PS/rpm）		13.4/3200(18/3200)
	使用燃料		ディーゼル軽油
	セルスタータ出力		12V，1.0kW
	潤滑方式		強制潤滑
	冷却方式		加圧ラジエータ(冷却水ポンプによる強制循環)
	バッテリ		12V 45AH
容量	燃料タンクL		20
	エンジンオイルL		3.0
	冷却水L		3.3
	リザーブタンクL		0.3
	ミッションオイルL		5.7
	PTOギヤケースL		0.6
	後部デフギヤケースオイルL		1.5
	後部車軸ケース右･左のオイルL		各0.4
タイヤ	前輪		20×10.00－8
	後輪		16×6.50－8
機体寸法	全長㎜(注)		1950
	全幅㎜		970
	全高㎜		1860(安全フレーム付)
	軸距㎜		850
	輪距	前輪㎜	724
		後輪㎜	795
	最低地上高㎜		102
質量kg			453(安全フレーム付・モーア除く)
走行速度 km/h		前進	0～13.5
		後進	0～6.5
PTO	回転速度/エンジン回転速度		2604rpm/3200rpm
	動力伝達方式		シャフトドライブ
	クラッチ方式		湿式多板
	PTOブレーキ		湿式単板
変速方式			油圧無段変速(HST)
最小旋回半径㎜			355(2WD時)
制動装置			内拡式
差動方式			かさ歯車式

注）全長はバンパ先端から後輪タイヤ後端までの寸法です。

標準付属品

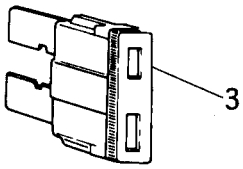
品　名	数量／台	備　考	品　名	数量／台	備　考
取扱説明書	1		予備ヒューズ 15A	1	
合格証	1		予備ヒューズ 20A	1	
純正部品表	1		予備ヒュージブルリンク	1	
サービスブック	1				

主な消耗部品一覧表

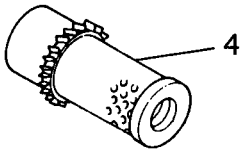


G-4020

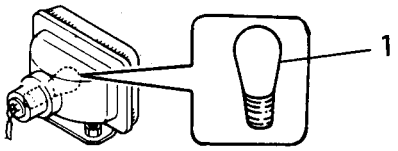
ヒューズ



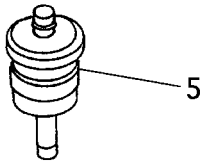
エアクリーナエレメントアッシ



デンキュウ

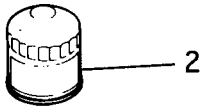


燃料フィルタ

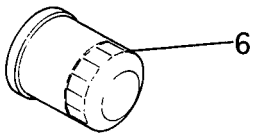


G-4740改

オイルフィルタカートリッジ
(トランスミッション)



オイルフィルタカートリッジ
(エンジン)



図番	品　名	品　番	図番	品　名	品　番
1	デンキュウ	76611-5519-0	4	エアクリーナエレメントアッシ	15852-1108-0
2	オイルフィルタカートリッジ (トランスミッション)	66021-3606-0	5	燃料フィルタ	12581-4301-0
			6	オイルフィルタカートリッジ(エンジン)	15853-9917-0
3	ヒューズ 10A	36730-7555-0	7	ヒュージブルリンク	55611-4162-0
	ヒューズ 15A	35820-7556-0			
	ヒューズ 20A	36919-5665-0			

モーアの取扱いについて

(RC54-F19)

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**： 注意事項を守らないと，死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告**： 注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**： 注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重要： 注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足： その他，使用上役立つ補足説明を示します。

目　次

⚠安全に作業するために … ⚠-1

サービスと保証について …… 1
ご相談窓口 …… 1

各部の名称 …… 2

組立て要領 …… 3
組立て前の準備 …… 3
モーアの組立て …… 3

モーアの着脱のしかた …… 5
モーアの装着 …… 5
モーアの取外し …… 5

モーアの上手な使い方 …… 6
モーアの性能を十分発揮させるために … 6
刈高さ調整 …… 6
草刈り作業要領 …… 7

モーアの簡単な手入れと処置 …… 8
定期点検箇所一覧表 …… 8
推奨オイル・グリース一覧表 …… 9
ギヤオイル …… 9
グリース …… 9
日常点検 …… 10
1.前回作業時の異常箇所 …… 10
2.モーアの回りを歩いて …… 10
グリースの補給 …… 10
ギヤボックス内の油量点検 …… 11
50時間ごとの点検・整備 …… 11
ベルトテンションの確認 …… 11
グリースの 補給 …… 11
150時間ごとの点検・整備 …… 12
ギヤボックスオイルの交換 …… 12
ベルトカバー内の清掃 …… 12
2年ごとの点検・整備 …… 12
ギヤボックスのオイルシールの交換 …… 12
必要に応じた点検・整備 …… 13
刈刃の交換と研磨のしかた …… 13
ベルトの交換 …… 14
前輪の空気圧 …… 15
リフトロッドの調整 …… 15

モーア刈取り性能の不調と処置 …… 16

長期格納時の手入れ …… 17
冬期の保管 …… 17

付表 …… 18
主要諸元 …… 18
主な消耗部品一覧表 …… 18

⚠ 安全に作業するために

必ず読んで
ください。

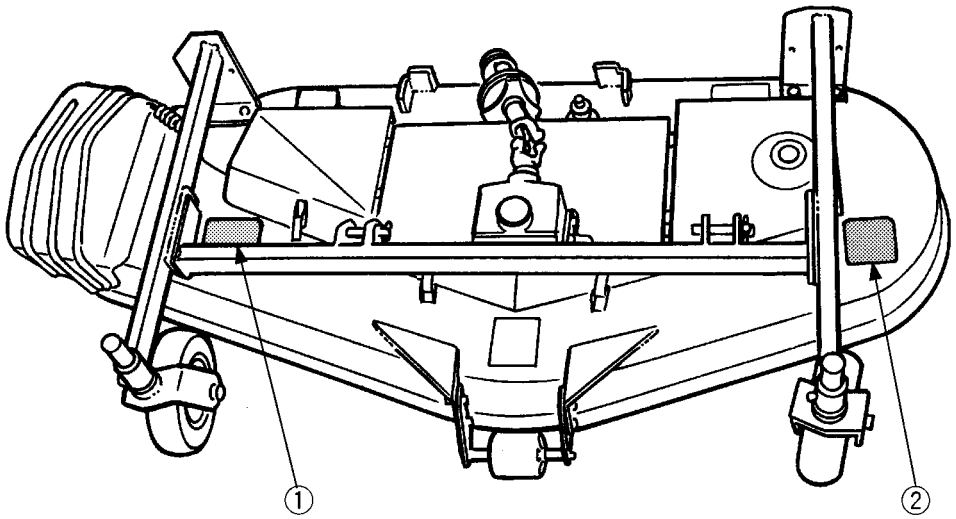
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1. 作業中は周囲の人を近づけないようにしてください。
2. 作業前に，モーアによって拾いあげられたり，飛ばされたりすると思われるすべての障害物を，ほ場から取除いてください。
   草刈りは昼間，又は良好な照明を使用して行なってください。
3. 作業中はだぶついた服装を着用しないでください。だぶついた服は可動部分に巻込まれたり，けがをひき起こします。
4. モーアの上に立たないでください。
5. モーアを外したり，点検・調整するときは，
   ●エンジンを停止してください。
   ●キーを抜いてください。
   ●駐車ブレーキを掛けてください。
   ●刈刃が停止していることを確認してください。
6. 作業前にすべてのボルト，ナットなどを，確実に締めてください。
7. 周囲の人や動物に放出口を向けないでください。
8. 移動状態(モーアを吊上げた状態)で作業をしないでください。
9. 作業前にモーア及び，フロントモーアの取扱説明書を読んでください。
10. エンジンを始動する前に，PTOレバーを“切”位置にしてください。
11. 傾斜地作業は危険で，おすすめできません。傾斜地で作業する必要があるときは，特に注意を払ってください。等高線方向での作業はしないようにしてください。
12. 起伏地での作業中に旋回するときは，フロントモーアの速度を落としてください。
13. 障害物に当ったときは，停止し，フロントモーアとモーアの破損を点検してください。作業を再開する前に，破損部を修理してください。
14. 放出カバーが曲がったときは，フロントモーアを停止しモーアの動力を切り，エンジンを停止し，キーを抜いて放出カバーをなおしてください。
15. モーア及び，エンジンをすばやく停止する方法を知っておいてください。
    どのような緊急事態にも対応できるようにしてください。
16. 起伏地や高い草を刈るときは，異物や，かくれている障害物に当たる危険性を少なくするため，刈高さを高くセットしてください。
17. フロントモーアを後退させるときは，区域内に障害物がないかを確認してください。
18. すべてのカバーや，ガードを所定位置に付けないで作業しないでください。
19. このモーアを使用するときは，安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。
20. フロントモーア及び，モーアが動いているときは，いかなる調整や修理もしてはいけません。
21. 傷ついた安全ラベルは貼替えてください。

⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

22. ⚠表示ラベルと貼付け位置



G-4034

① 品番　76598-4931-1

② 品番　76598-4932-1

23. ⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルはいつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剝がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
(5)ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

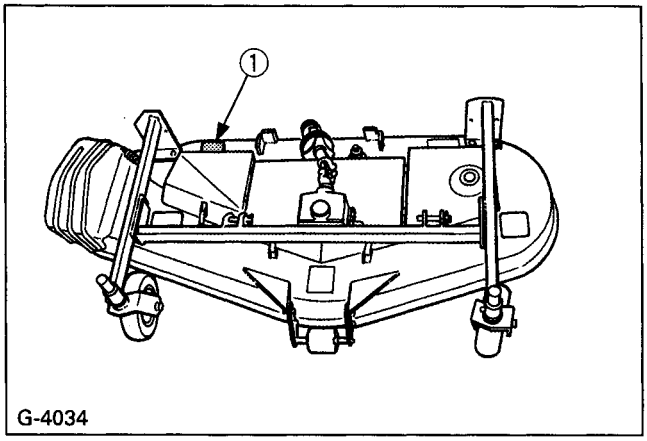
この製品には，サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際，モーア名称とモーア番号を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

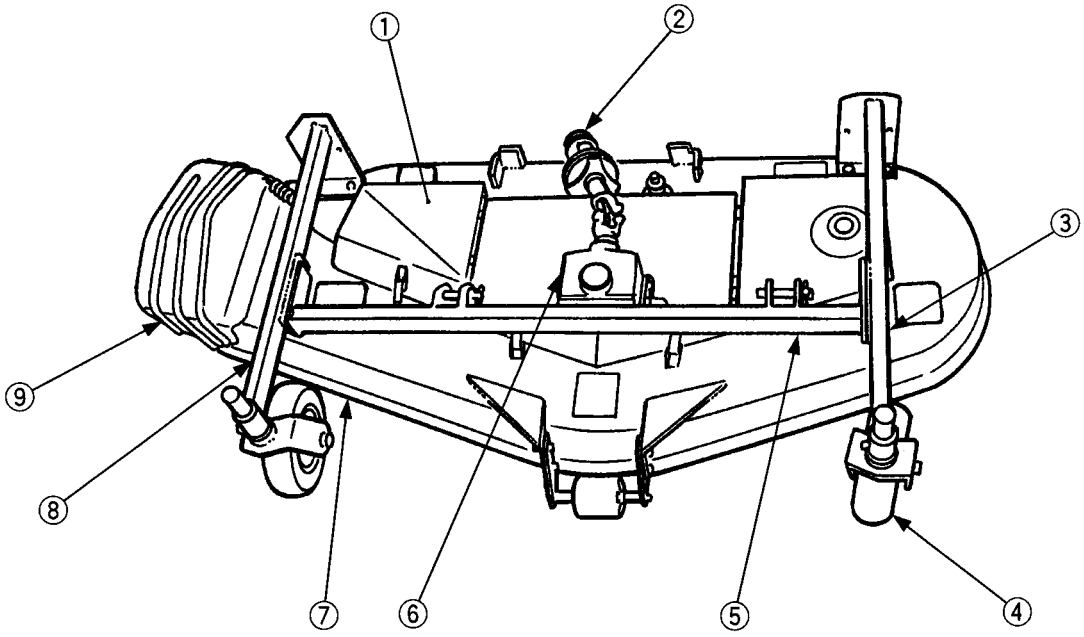
警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

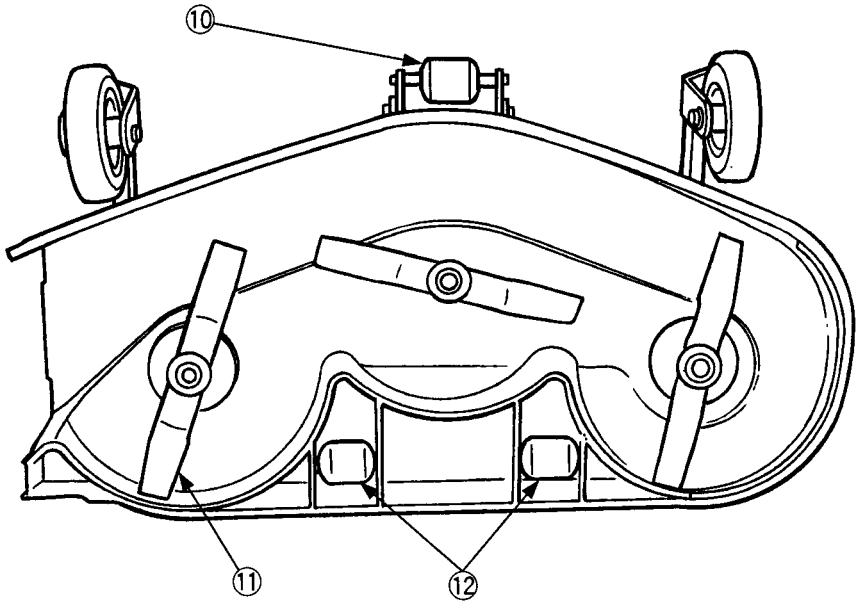


①モーア名称，モーア番号

各部の名称



G-4034



G-4035

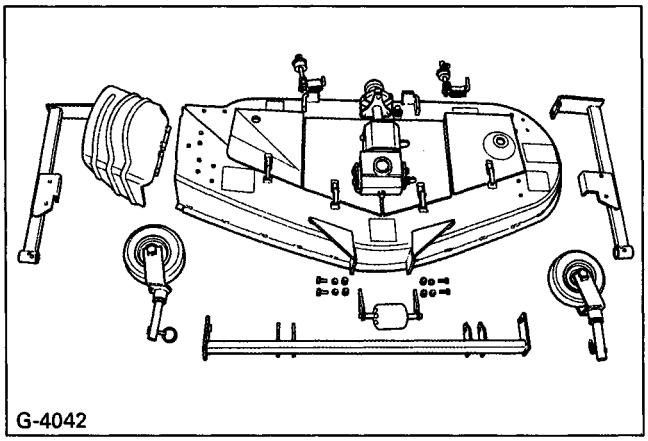
①ベルトカバー
②ユニバーサルジョイント
③前輪アーム(左)
④前輪
⑤センターアーム
⑥ギヤボックス
⑦モーアデッキ
⑧前輪アーム(右)
⑨放出カバー
⑩前補助輪
⑪刈刃
⑫内補助輪

組立て要領

RC54-F19は，出荷時分解梱包されています。正しく組立てるために，下記の内容をよく読んでください。

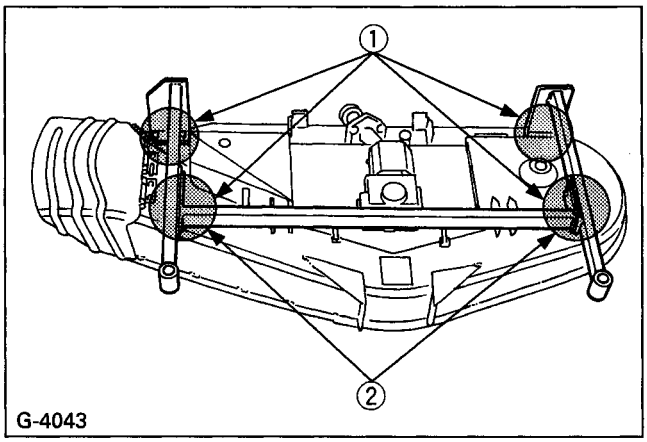
組立て前の準備

梱包から，モーア構成部品を取出し，下図により部品をチェックしてください。


G-4042

モーアの組立て

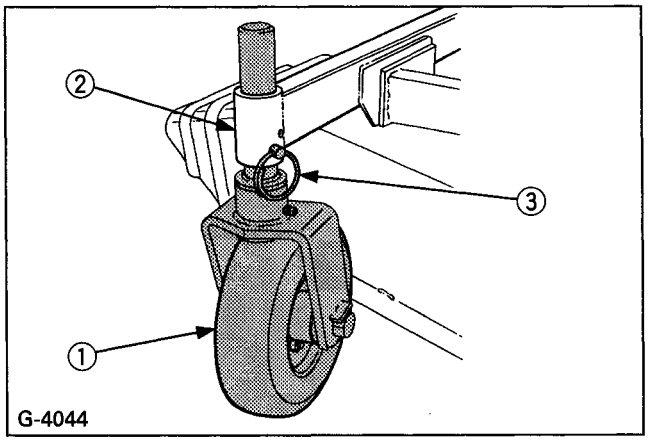
❶M10ボルトとバネ座金，平座金，ナットを用いて車輪ステー左，右とセンターフレームを下図のように取付けてください。



G-4043

①8-M10×28 ボルト，バネ座金，平座金，ナット
②4-M10×25ボルト

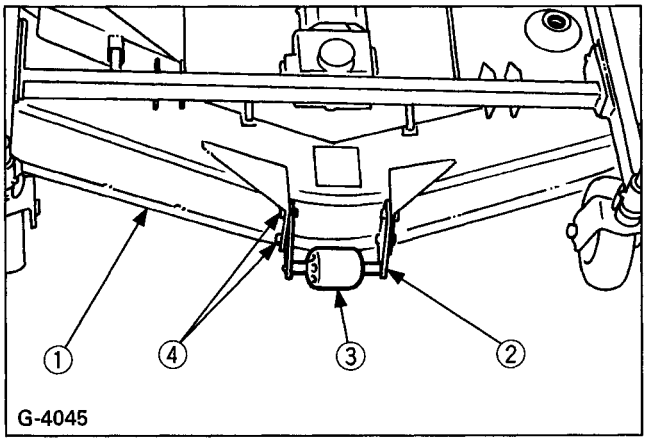
❷頭付きピン(φ10×55)とスナップリングを用いて，2つの前輪を車輪ステー左，右に取付けてください。



G-4044

①前輪
②前輪アーム
③頭付きピン(φ10×55)，スナップリング

❸前補助輪軸に平座金，ブラケットを通してください。M10ボルト，ナットを用いて前の補助輪をモーアデッキに仮止めしてください。前の補助輪を上方向に押上げながらボルト，バネ座金ナットをしっかり締付けてください。



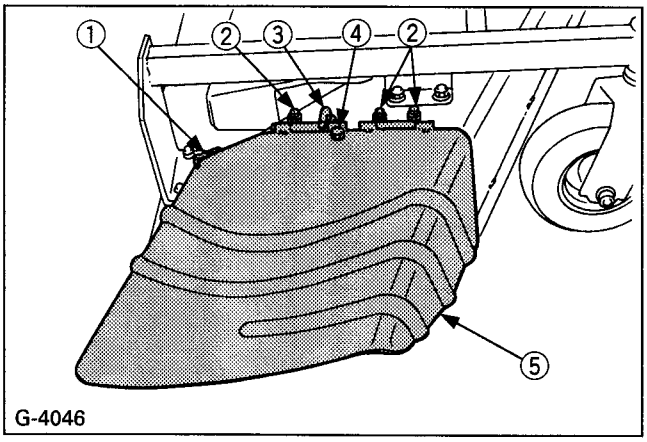
G-4045

①モーアデッキ
②ブラケット
③前補助輪
④4-M10×25ボルト

❹M10ボルト，バネ座金，ナットを用いて放出カバーと放出止め金具をモーアデッキに取付けてください。スプリングを放出カバーに確実に取付けてください。

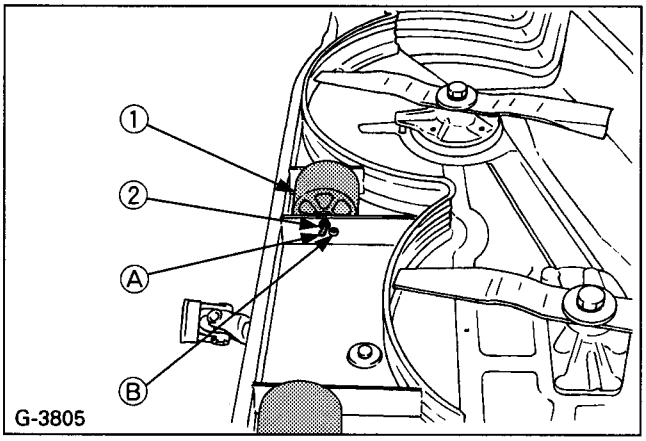
注　意

＊草刈り作業をする時は，放出カバー止め金具を下図のようにセットしてください。



①スプリング
②3-M10×25ボルト
③放出カバー止め金具
④M10×28ボルト
⑤放出カバー

❺ローラピン，平座金，割りピンを用いて内補助輪をⒶまたはⒷの穴に取付けてください。



①内補助輪　　Ⓐ穴
②ローラピン，平座金，割ピン　Ⓑ穴

モーアの着脱のしかた

注 意

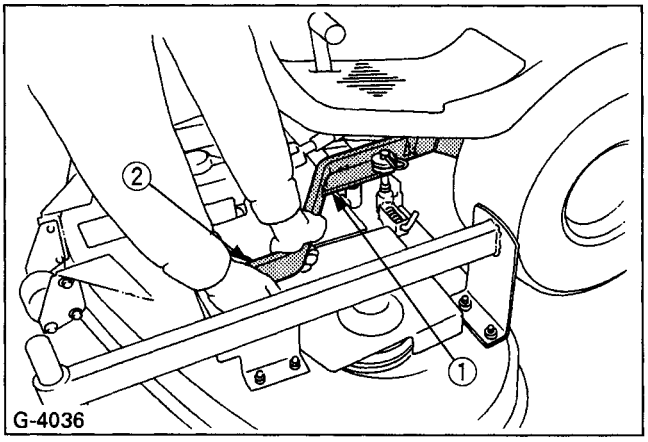
＊モーアデッキを着脱する前，必ずエンジンを停止してPTOレバーは"切"の位置にしてください。
＊モーアデッキの着脱は，固い平坦な場所で行ない，駐車ブレーキを確実にかけてください。
＊モーアデッキを取付けたとき，油圧でモーアデッキを上下させ，フロントモーアとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。

■モーアの装着

1. モーアリンクの下にモーアデッキを動かし，油圧レバーを**"下げ"**位置にしてください。

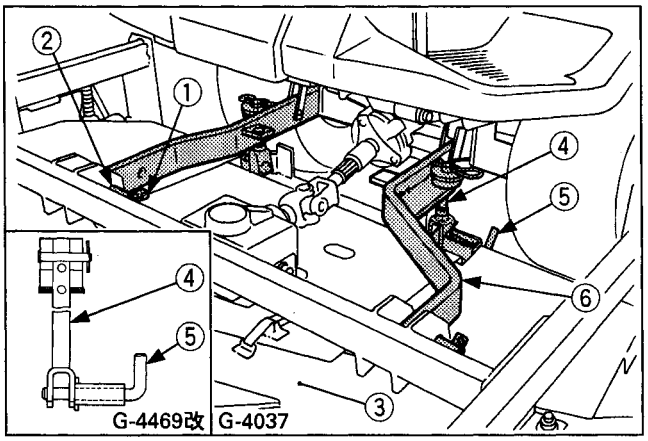
注 意

＊モーアリンクはスプリング張力によって引張られています。モーアリンクをモーアデッキに取付けるときは，モーアリンクを押さえながら取付けてください。



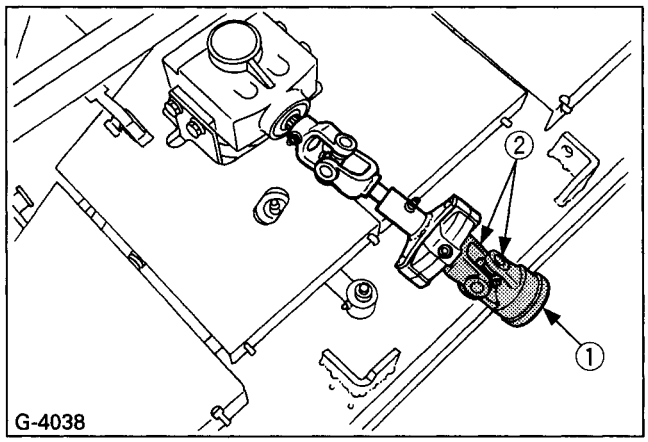
①モーアリンク
②頭付きピン，セットピン

2. モーアリンク先端部とモーアデッキを頭付きピン，セットピンで取付けます。
3. エンジンを始動して，油圧昇降レバーでモーアデッキを上昇させます。その後エンジンを停止します。
4. リフトロッドをモーアデッキにロックピンで取付け，モーアデッキを床面まで下げます。



①頭付きピン
②セットピン
③モーアデッキ
④リフトロッド
⑤ロックピン
⑥モーアリンク

5. ユニバーサルジョイントのカプラを後ろに引張り，カプラがロックするまでPTO軸に沿ってユニバーサルジョイントを押込んでください。その後，ユニバーサルジョイントを前後方向に動かし確実に固定されたことを確認してください。



①カプラ
②ヨーク

重 要

＊最後にもう一度，ユニバーサルジョイントが確実に固定位置に納まっているか確認してください。

■モーアの取外し

前述の**"■モーアの装着"**の反対の要領で行なってください。

モーアの上手な使い方

モーアの性能を十分発揮させるために

❶初めてモーアを使用するときは，平坦地を選びゆっくりと少し重複するように真っすぐに刈ってください。

❷適切な草刈り方法は，ほ場の大きさや形で決まります。木やフェンス，建物のような障害物を考慮してください。刈り草がフェンスや歩道にかからないように，ほ場の外周を数回右旋回で刈取りすることをおすすめします。中の区域を刈るために，刈り草が前に刈った跡に放散するように，左旋回刈りをしてください。

❸障害物の回りの枕刈りのときは，木，柱及び，他の障害物の方向に常にモーアの左側を位置させてください。(左旋回してください。)

❹刈取りは草が50～80㎜の高さを保つように行ってください。余り短く刈らずに，度々，刈ることが，最高の仕上がりを約束します。緑の芝を保つために草丈の1/3以上もしくは1回で25㎜以上で草刈りはしないでください。極度に草丈の高い場合，最大刈高さで作業し，次に必要刈高さにセットし，刈ってください。

❺密生，弾力性のある草，又は軟弱地では，ローラが地面に沈んで低刈りになることがあります。希望の刈高さになるように刈高さを調整してください。

❻刈り跡が美しく見えるようにするには，湿気の少ない午後，又は夕方に作業するのが良いでしょう。

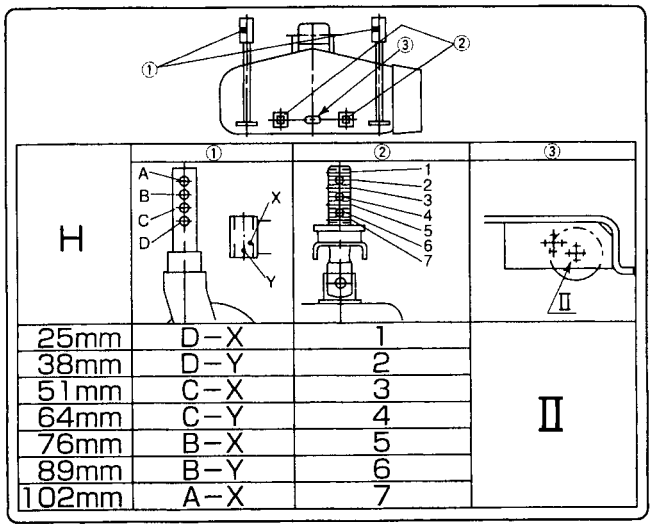
刈高さ調整

警　告

＊移動状態(モーアを吊り上げた状態)で，作業しないようにしてください。

❶前輪の空気圧が適正かどうか，毎回必ず確認してください。刈高さが不ぞろいにならないよう適正空気圧を保ってください。
(空気圧は**“前輪の空気圧”**の項を参照)

❷刈高さは25～102㎜まで調整できます。
刈高さ調整のために，下図のように両前輪，及びリフトロッドの調整をしてください。



H	①	②	③
25mm	D－X	1	Ⅱ
38mm	D－Y	2	
51mm	C－X	3	
64mm	C－Y	4	
76mm	B－X	5	
89mm	B－Y	6	
102mm	A－X	7	

①前輪
②リフトロッド
③内補助輪

重　要

＊リフトロッドの調整を容易に行なうため，モーアデッキを下げる前に後端下部に木片をかましてください。

＊ほ場の条件により，刈高さが変化する場合があります。

❸フロントモーアを作業状態にするために，コントロールレバーを前に倒してモーアデッキを降ろします。

❹荒地や高い草を刈るときは，高い刈高さにしてください。低刈りをしたい平坦な芝のときのみ低い刈高さにしてください。

草刈り作業要領

警　告

＊放出カバーが適切にボルト締めされない状態で作業しないでください。

注　意

＊刈刃で拾い上げられたり，飛ばされたりするほ場の障害物を取除いてください。
＊周囲の人や動物に放出口を向けないようにしてください。傷害を起こす障害物を取除いてください。作業する前に注意深く作業計画を立ててください。
＊周囲の人や動物を，草刈りほ場に入れないようにしてください。
＊エンジンを始動する前に，ＰＴＯを切り，ＰＴＯレバーが”切”にあることを確認してください。

❶美しく刈るために，エンジンが最高に回転するようにしてください。車速はペダル又はレバーで調節してください。
❷負荷の大きいときは，車速を落とすか，２回刈りをしてください。
❸作業をしていないときは，モーアデッキ，モーアデッキの前輪を上げたままにしてください。
❹車速が速すぎたり，負荷が大きいために刈刃周速が落ちたりすると，美しく刈れません。

補　足

＊エンジンのオーバーヒートを防止するために，ラジエータ及びラジエータスクリーンは，きれいにしておいてください。

モーアの簡単な手入れと処置

注 意

＊給油及び点検整備するときは，❶フロントモーアを平坦な広い場所に置き，❷モーアを降ろし，❸駐車ブレーキをかけ，❹エンジンを止め，❺キーを抜き，安全を確認してから行なってください。
そうしないと傷害事故を引起こすおそれがあります。

定期点検箇所一覧表

〔専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。〕

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No	項目＼時期		日常点検	積算時間計（アワーメータ）												それ以後	参照ページ
				50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600		
1	前回作業時の不具合箇所	確認	○														10
2	油漏れ	確認	○														10
3	刈刃取付けボルトトルクの状態	確認	○														13,14
4	刈刃の摩耗状態	確認	○														13
5	すべてのボルト・ナットの状態	確認	○														10
6	すべてのピンが付いているか	確認	○														10
7	モーアデッキ	清掃	○														10
8	ギヤボックスオイル	点検	○														11
		交換		◎		○			○			○			○	150時間ごと	12
9	ベルトテンション	確認		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	11
10	ベルトカバー内	清掃				○			○			○			○	150時間ごと	12
11	ギヤボックスオイルシール	交換														2年ごと	12
12	グリースの補給 ・ユニバーサルジョイント ・スピンドル軸 ・ベルトテンション，プー	－	○														10
13	グリースの補給 ・前輪のブラケット	－		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	11
14	刈刃	研磨														必要に応じて	13
		交換															14
15	ベルト	交換															15
16	前輪の空気圧 リフトロッド	点検 調整															15
17		調整															15

重 要

＊◎は初回必ず行なってください。

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

■ギヤオイル

メーカ	ギヤオイル
日石三菱	クボタ純オイル(ミッション用)M90
コスモ石油	
ジャパンエナジー	
昭和シェル石油	
富士興産	

■グリース

メーカ	グリース	
	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日石三菱	エビノックグリースAPNo.2	PAN WBグリース
コスモ石油	ダイナマックスEPNo.2	ロードマスターNo.2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEPNo.2	リゾニックスグリースNo.2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo.2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソ石油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出光興産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
ゼネラル石油	シャーシグリースNo.2	WBグリースNo.2
キグナス石油	シャーシグリースNo.2	MPグリースNo.2

日常点検

注 意

＊火気厳禁

＊点検をするときは，必ずエンジンを停止し，モーアを降ろしてから行なってください。

＊オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

1. 前回作業時の異常箇所

前回の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

2. モーアの回りを歩いて

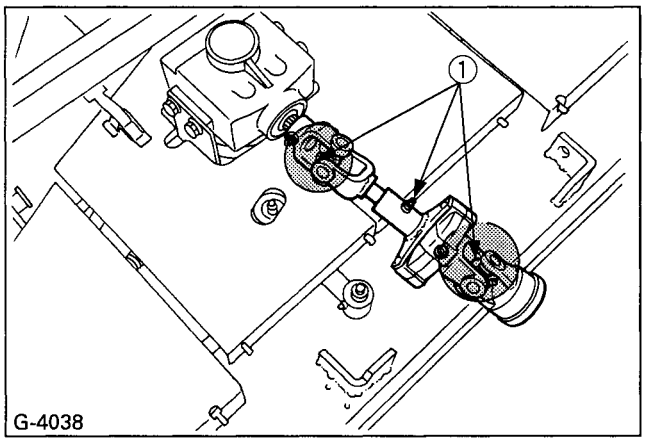
1. ボルトやナットのゆるみ及びモーア取付けピンの脱落，
2. モーア各部の変形や損傷，
3. 油もれなど異常がないか，

点検してください。

■グリースの補給

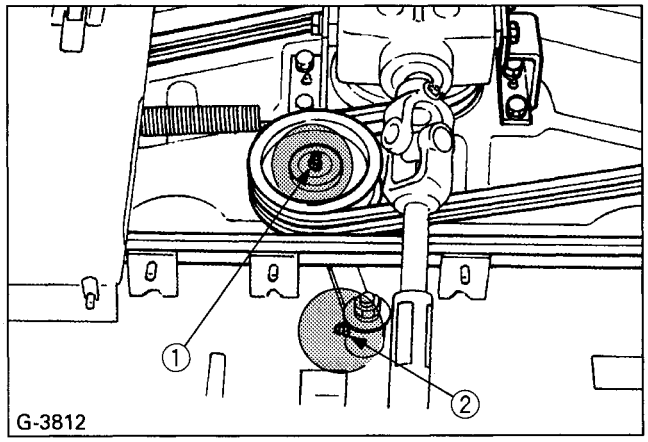
通常のグリースアップは，定期点検個所一覧表に従って行なってください。但し，水はけが悪く，ぬかるんだほ場などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終わったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは，**“クボタ推奨グリース”**を使用してください。（**“推奨オイル・グリース一覧表”**の項を参照）

◆ユニバーサルジョイント



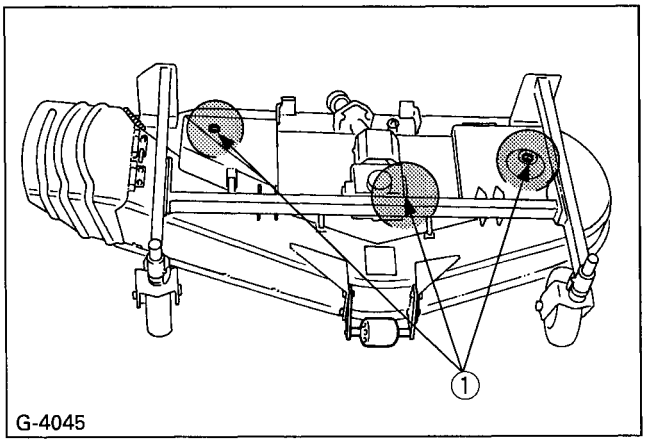
①ユニバーサルジョイント（グリースニップル）

◆ベルトテンションプーリ，ベルトテンション支点



①ベルトテンションプーリ（グリースニップル）
②ベルトテンション支点（グリースニップル）

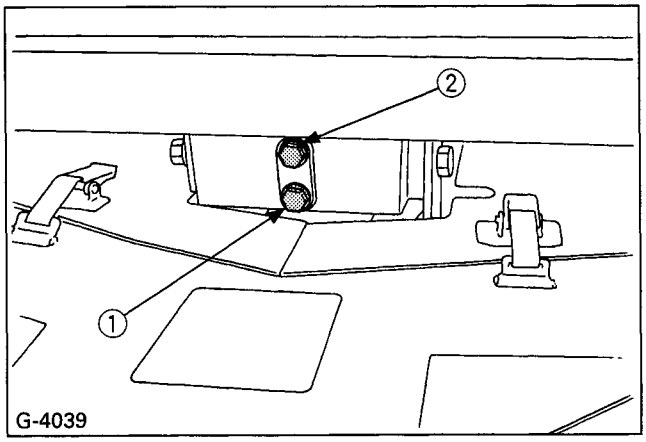
◆3点スピンドル軸



①３点スピンドル軸（グリースニップル）

■ギヤボックス内の油量点検

❶平坦地にモーアを置いてください。
❷検油プラグをゆるめてください。
❸油が検油口から出てくることを確認してください。
もし出てこなければオイルを追加してください。



①ドレーンプラグ(ボルト)
②給油・検油プラグ(ボルト)

重 要

＊検油プラグのレベル以上にオイルを追加しないでください。
＊使用するギヤオイルは，必ず**"クボタ純オイルM90"**を使用してください。(**"推奨オイル・グリース一覧表"**の項を参照)

50時間ごとの点検・整備

■ベルトテンションの確認

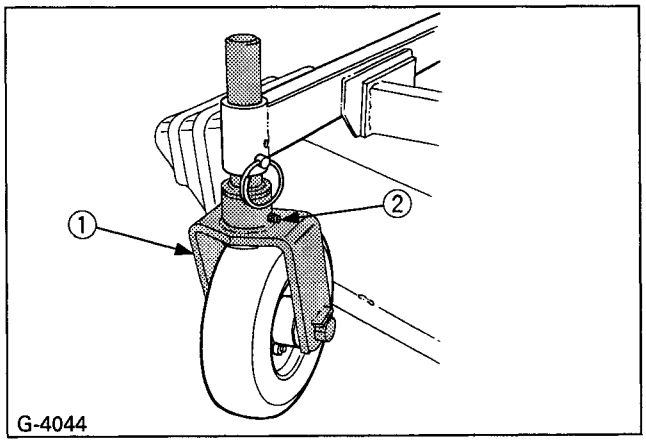
ベルトテンションの張り状態や作動を確認してください。

重 要

＊ベルトにき裂やはがれがあれば交換してください。(**"必要に応じた点検・整備"**の**"ベルトの交換"**の項目参照。)

■グリースの補給

通常のグリースアップは，定期点検個所一覧表に従って行なってください。但し，水はけが悪く，ぬかるんだほ場などで泥水の中に入ったときは，1日の作業が終わったあと必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，**"クボタ推奨グリース"**を使用してください。(**"推奨オイル・グリース一覧表"**の項を参照)



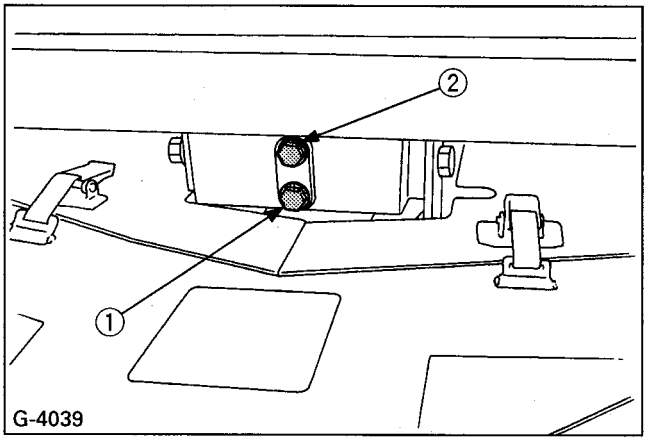
①前輪ブラケット
②グリースニップル

150時間ごとの点検・整備

■ギヤボックスオイルの交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを出してください。オイルが抜けたらドレーンプラグをしっかりと締付けてください。ゴム座金に変形や損傷がある場合は，すみやかに交換してください。

❷ギヤオイルを給油口から，規定量入れてください。



①ドレーンプラグ
②給油・検油プラグ(ボルト)

重　要

＊使用するギヤオイルは，必ず**“クボタ純オイルM90”**を使用してください。(**“推奨オイル・グリース一覧表”**の項を参照)

＊ギヤボックスオイル容量……0.4L

補　足

＊給油プラグを外すと，オイルが抜けやすくなります。

■ベルトカバー内の清掃

注　意

＊ベルトカバー内の清掃は，必ずエンジンを止め，駐車ブレーキを掛け，PTOを切り，作業機を降ろしてから行ってください。

＊カバー止め金具がかたい場合は，マイナスドライバ等の工具を使用して止め金具を開けてください。

ベルトカバー内に刈草やほこり等をためると，ベルトを傷つけたり早期の磨耗の原因になります。また，オイルシールやベアリング等に不具合を引き起こす原因となります。日頃からベルトカバー内の清掃を心がけ刈草やほこり等がたまったままにならないよう注意してください。

2年ごとの点検・整備

■ギヤボックスのオイルシールの交換

交換に関しては，購入先にお申しつけください。

必要に応じた点検・整備

■刈刃の交換と研磨のしかた

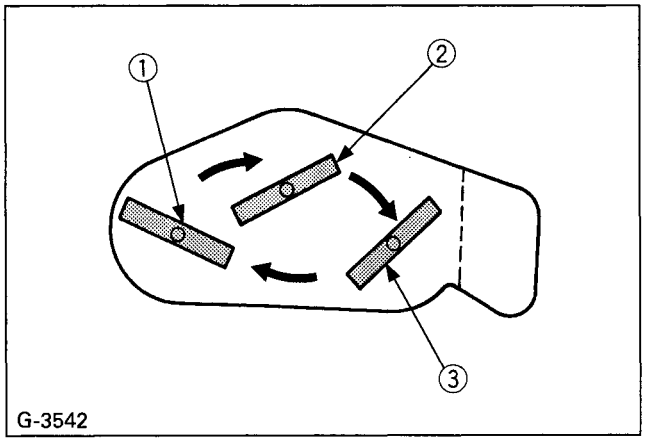
注 意

＊ケガをさけるために,注意深く刈刃を扱ってください。

重 要

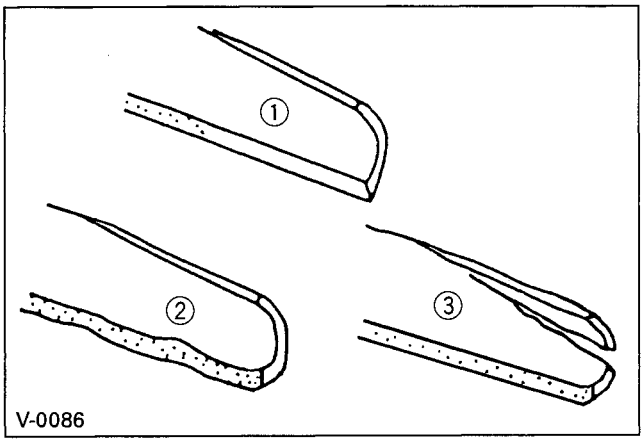
＊刈刃ボルトは右ネジです。ゆるめるときには左方向にボルトを回してください。刈刃の刃先は常に鋭くしておいてください。

＊刈刃を長持ちさせるため，下図の様に刈刃のローテーションを行ってください。



①刈刃(左)
②刈刃(中央)
③刈刃(右)

刈刃は常によく切れる状態にしておいてください。
下図②のようになったときは刃を研いでください。
下図③のようになったときは，刈刃を交換してください。



①新しい刈刃
②摩耗した刈刃
③破損した刈刃

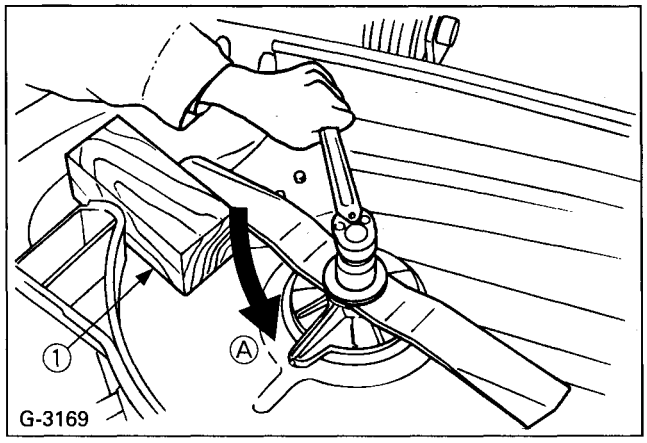
◆刈刃の確認と外しかた

❶本機からモーアを外し，刈刃が見えるように，ひっくり返してください。

❷刈刃締付けボルトをゆるめるとき，軸が回らないように，刈刃とモーアデッキの間に木片またはプーリ上にあるナットにボックスレンチをはめてください。そして図のように刈刃締付けボルトをゆるめてください。

注 意

＊刈刃を交換するときは皮手袋を使用してください。



①木片　　Ⓐ“ゆるむ”

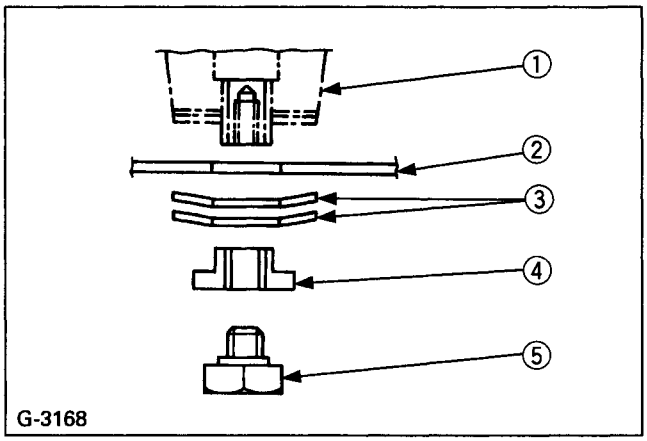
◆刈刃の研磨のしかた

❶刈刃を研磨するときは，しっかりと確実に刈刃を万力ではさんでください。
大きな研磨機で，鋭くなるまで元の角度に沿って研いでください。

❷刈刃のバランスがとれているか，チェックするときは，中央穴に細い棒を通してください。もし刈刃のバランスがとれていない場合は，バランスがとれるまで，刈刃の重い側を削ってください。

◆刈刃の交換

刈刃の交換は下図のように行なってください。



①スピンドルケース　④スプラインボス
②刈刃　⑤ボルト
③皿バネ

刈刃ボルト締付けトルク	98～118 N·m (10～12 kgf·m)

重　要

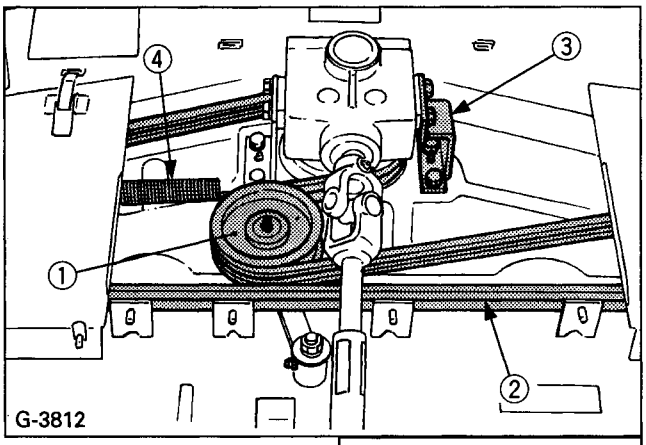
＊刈刃が簡単にスリップするようであれば，皿バネのへたり，摩耗をチェックしてください。もしどちらかが，痛んでいる場合は，２枚とも交換してください。
＊刈刃締付けボルトの着脱は適正な工具を使用してください。

■ベルトの交換

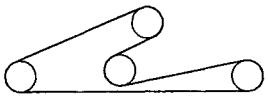
❶モーアを本機から外してください。
❷左右のモーアカバーをデッキから外してください。
❸ギヤボックスの周りから草などを，取除いてください。
❹ギヤボックスの右側のブラケットをモーアデッキから外してください。
❺テンションプーリからベルトを外してください。ギヤボックスの上からベルトをすべらせるようにしてください。
❻ベルトを取付けるときは，上記の手順を逆に行なってください。

補　足

＊ブラケットのボルトはしっかり締付けてください。



①テンションプーリ
②ベルト
③右側ブラケット
④テンションスプリング



ベルトの配置

重　要

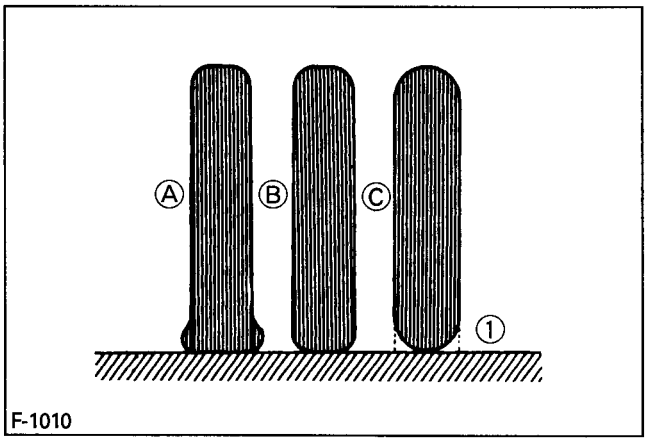
＊中心軸の芯ずれを防ぐために
- 張りボルトを再装着する前に，右側のブラケットをしっかり取付けてください。

■前輪の空気圧

警　告

＊前輪の空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
指定圧力以上に空気を入れると，タイヤが破裂し死傷事故のおそれがあります。
＊パンク修理などでタイヤ，チューブを脱着する作業には特別な技能と器具が必要です。
自分で行おうとしないで，必ず購入先にご相談ください。

前輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。



①接地面

Ⓐ空気が不足
Ⓑ標準
Ⓒ空気が多い

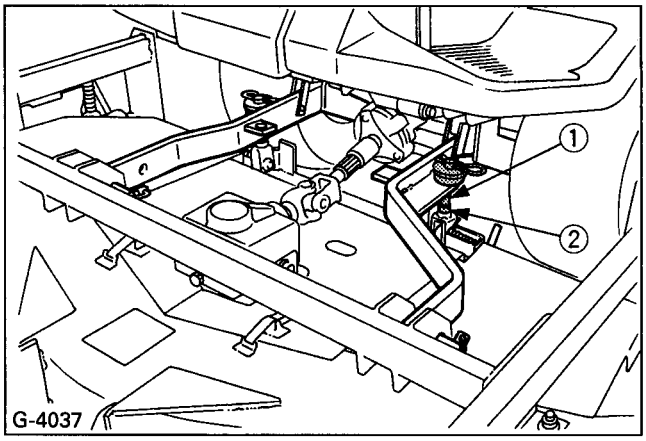
標準空気圧	200 kPa (2.0 kgf／cm²)

■リフトロッドの調整

注　意

＊エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけ，キーを抜いてください。

❶フロントモーアとモーアを水平な場所に置いて希望する刈高さにセットしてください。
❷モーアデッキが水平かどうか確認してください。
❸水平でなければ水平になるようにリフトロッドのターンバックルを調整してください。
❹確実にロックナットを締付けてください。



①リフトロッド
②ロックナット

モーア刈取り性能の不調と処置

もし次のような現象が発生した場合には，取扱説明書を参考にして適切な処置をしてください。

現　　象	原　　因	処　　置
刈草が、うまく放出されない。	芝が湿っている。	芝が乾燥してから作業する。
	芝が長い。	刈高さを高くして，２度刈りをする。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	エンジン回転数が低い。	最高回転数にする。
	作業速度がはやい。	作業速度を落とす。
刈残しが出る。	作業速度がはやい。	作業速度を落とす。
	エンジン回転数が低い。	最高回転数にする。(エンジン回転をチェックする。)
	芝が長い。	２度刈りをする。
	刈刃の摩耗、破損	刈刃を研磨するか，新しい刈刃と交換する。
	モーアデッキ内面への草のたい積	モーアデッキ内面をきれいに掃除する。
均平に刈れない。	モーアデッキが水平でない。(傾いている。)	モーアデッキを水平にする。
	作業速度が速い。	作業速度を落す。
	刈刃の切味が悪い。	刈刃を研ぐ。
	刈刃の摩耗	新しい刈刃と交換する。
	モーア前輪の空気圧が低い。	正しい空気圧になるようエアを入れる。
	モーア前輪が正しく調整されていない。	車輪を正しく調整する。
芝削り(土削り)を発生する。	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	旋回速度が速い。	旋回時の速度を落す。
	地形にうねりがある。	芝刈作業のパターン(刈取方向等)を変える。
	地形に起伏(凹凸)が多い。	モーア前輪と補助輪を調整する。
	モーア前輪が正しく調整されていない。	モーア前輪と補助輪を調整する。
	刈刃の曲り	新しい刈刃と交換する。
ベルトがスリップする。	ベルト張力が低い。	ベルト張力を調整する。
	モーアデッキ内に草がつまっている。	つまった草を取り出し，モーアデッキ内をきれいにする。
	プーリへの草のたい積。	プーリをきれいに掃除する。
	ベルトの摩耗	新しいベルトと交換する。
振動が大きい。	モーアデッキ内およびプーリに草がたい積している。	モーアデッキおよびプーリをきれいに掃除する。
	ベルトの破損	新しいベルトに交換する。
	プーリの破損	新しいプーリに交換する。
	プーリのアライメント(芯合わせ)がずれている。	購入先に相談する。
	刈刃のバランスが悪い。	新しい刈刃と交換するか，刈刃のバランスをとる。
モーア作業負荷が大きい。	エンジン回転が低い。	エンジン回転数を最高にする。(エンジン回転数をチェックする。)
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	モーアの回転軸まわりに草がたい積，あるいは巻きついている。	モーアをきれいに掃除する。

長期格納時の手入れ

モーアを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。
(1)不具合箇所は整備してください。
(2)定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。
(3)車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
(4)前輪の空気圧は，標準より高いめにしてください。
(5)格納場所は，雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。

■冬期の保管

草刈りシーズン終了後モーアを保管する場合，次の事を行ってください。
(1)モーアベルトカバーをはずしてください。
(2)ベルトテンションを緩め，ベルトをはずしてください。
(3)プーリを乾いた布でふきとり，きれいにしてください。
(4)モーアデッキ上の草や汚れを取り除いてください。

注　意

＊ベルトをつける時は，ベルトを必要以上に張らないよう注意してください。
＊次の草刈りシーズンに入る前に再調整をしてください。

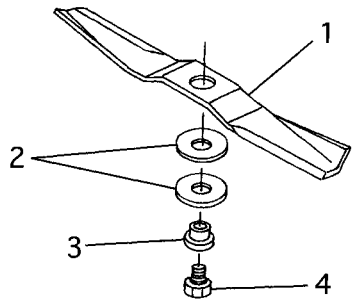
付表

主要諸元

モ ー ア 形 式	RC54-F19
適用フロントモーア	GF1800
装 着 方 法	2点リンク
刈高さ調整方式	車輪(ピン抜差し)
刈 幅 mm	1372
刈 高 さ mm	25～102
重 量 kg	112
刈刃回転数 rpm	3255
刈 刃 周 速 m/s	80.9
刈 刃 長 さ mm	475
刈 刃 枚 数	3枚
全 長 mm	805
全 幅 mm	1737
全 高 mm	407

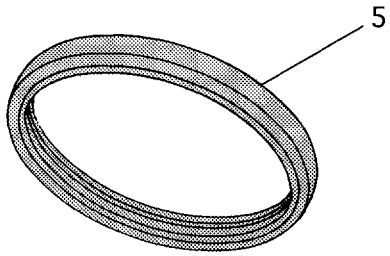
主な消耗部品一覧表

刈刃



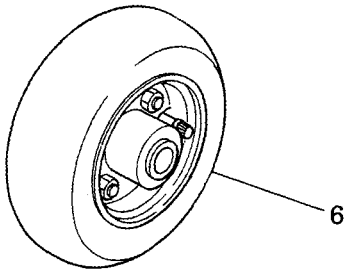
G-4739

ベルト



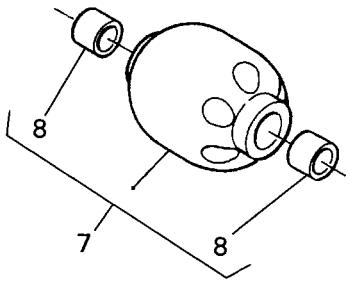
G-4738

前輪



G-4768

補助輪



G-4769

図番	品 名	品 番	図番	品 名	品 番
1	刈刃(低刈)	76529-3433-0	5	ベルト(110インチ)	76529-3471-0
2	皿バネ	76550-3435-0	6	前輪	K5611-4223-0
3	ブレードボス	76539-3439-0	7	補助輪，アッシ	76507-4625-0
4	ボルト	76539-3437-0	8	ブッシュ	08511-01220

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ　ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　ー

ご購入日	型式名	区分

車台番号(製造番号)	エンジン型式　　エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121　〒338-0832　さいたま市西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(072)241-8506　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
機械福岡事務所：電(092)606-3161　〒811-0213　福岡市東区和白丘１丁目７番３号

クボタ機械サービス株式会社

本社営業技術部：電(072)241-8092　〒590-0823　堺市石津北町64番地
北海道営業技術推進部：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162　〒981-1221　名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1588　〒338-0832　さいたま市西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263　〒950-0992　新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121　〒924-0038　松任市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111　〒491-0031　一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(072)241-8551　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
米子営業技術推進部：電(0859)33-5011　〒683-0804　米子市米原７丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市宍甘275番地
高松営業技術推進部：電(087)874-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１

株式会社クボタアグリ東日本

東北系統推進部：電(018)845-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
関東・甲信越系統推進部：電(048)862-1124　〒338-0832　さいたま市西堀５丁目２番36号

株式会社クボタアグリ西日本

中部・近畿系統推進部：電(072)241-8550　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
中四国系統推進部：電(087)874-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３

株式会社クボタアグリ九州

九州系統事業推進部：電(092)606-3166　〒811-0213　福岡市東区和白丘１丁目７番３号

GF1800
AG．□．3－4．1．AK

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者
が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

本　社　　大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号　　〒556-8601

品番　K3361－6291－5

Kubota